

14.21

749

14. 21-749



1200501163462

香川縣穀物検査廿五周年記念誌

香川縣穀物検査所編



始



142



香川縣穀物検査廿五周年記念誌



香川縣穀物検査創始廿五周年記念誌



穀物検査創始二十五周年記念誌

目次

香川縣知事告諭

記念寫真

圖表

検査所及農業倉庫所在地一覽、米生産高對検査高、最近五箇年平均米
仕向地別調、小麥生産高對検査高、裸麥生産高對検査高、最近五箇年
平均麥仕向地別調、大阪市場に於ける米價の變遷、神戸市場に於ける
米價の比較、大阪市場對高松市米價の比較、神戸市場に於ける小麥價
格神戸市場に於ける裸麥價格、高松市に於ける麥價格

- 第一編 穀物検査施行の沿革.....一
- 第一 米検査の沿革.....一
- 第二 麥検査の沿革.....二
- 第二編 検査の機關.....四
- 第一 検査規則の改廢.....四
- 第二 現行穀物検査規則.....一〇
- 第三 穀物検査所職制の改正.....一七
- 第四 現在の職員.....二〇
- 第五 検査吏員の養成.....二六
- 第六 検査開始以來職員の異動.....三三

第三編 穀物改良施設.....六九

- 第一 産米改良施設.....六九
- 第二 産麥改良施設.....七二
- 第三 受檢組合の設置と其成績.....七三
- 第四 講話會開催の状況.....七五
- 第五 品評會の成績.....七五
- 第六 印刷物の配付.....七六
- 第七 穀虫の驅除状況.....七六
- 第四編 検査の統一.....九一
- 第一 標準米麥の査定及配付.....九一
- 第二 協議會研究會の開催.....九二
- 第三 穀物鑑定會の開設.....九二
- 第四 監督巡視簿の設置.....九三
- 第五 成績審査.....九三
- 第六 産米の豫見成績.....九三
- 第五編 検査.....一〇四
- 第一 米検査の成績.....一〇四

一、米收穫高對生産検査高	一〇四
二、米生産検査成績	一〇六
三、郡別生産検査高	一〇七
四、米收穫高對移出米高	一〇九
五、移出米検査成績	一一〇
六、輸出検査所別移出検査高	一一五
七、移出米仕向先別數量調	一二〇
八、米券倉庫と農業倉庫入庫米検査高	一二五
第二 麥検査の成績	一二九
一、麥收穫高對生産検査高(裸麥小麥別)	一二九
二、麥生産検査成績(小麥裸麥別)	一三〇
三、郡別麥生産検査高(小麥裸麥別)	一三三
四、麥收穫高對移出高(小麥裸麥別)	一三二
五、麥移出検査成績(小麥裸麥別)	一三三
六、輸出検査所別麥移出検査高(小麥裸麥別)	一三六
七、仕向先別麥移出數量調(小麥裸麥別)	一三九
八、農業倉庫入庫麥検査高	一四三
第六編 検査の效果	一四四
第一 米検査の效果	一四四
一、價格上に及ぼしたる効果	一四四
二、乾燥調製改良の效果	一四五

三、包装改良の效果	一五〇
四、容量一定の效果	一五一
五、取引上の便益	一五一
第二 麥検査の效果	一五一
一、價格上に及ぼしたる效果	一五一
二、容量統一の利便と其の效果	一五二
第三 米麥取引の格差	一五三
第七編 試驗及調査	一五五
第一 累年移入米數量調	一五五
第二 累年産地別移入米數量調	一五九
第三 米生産高調	一六〇
第四 累年月別海上運送米數量調	一六一
第五 縣内に於ける在米高調査	一六六
第六 古麥殘存高調査	一六七
第七 産米容積重調査	一六九
第八 高松市に於ける米麥の價調	一八五
第九 産米搗精調査	一八九
第十 麥貯藏試驗成績の概要	一九〇
第八編 穀物検査所の經費	一九二
検査開始以來の穀物検査所費	一九二

香川縣告諭第一號

米ハ本縣生産物中ノ第一位ヲ占ムルモノニシテ明治三十九年ノ統計ニ依レハ其産額八拾萬參百六拾貳石此價格千七百七拾六萬壹千五百貳圓ノ多キニ上レリ故ニ其盛衰ハ忽チ縣下經濟ノ消長ニ關ス産米ノ改善豈之ヲ忽ニスヘケンヤ然ルニ目下之カ實況ヲ觀察スレハ調製ノ粗漏ナルヨリ土砂ヲ混シ乾燥ノ不良ナルヨリ貯藏ニ堪ヘス且俵裝粗製ニシテ或ハ米粒脫漏ノ恐アリ輸送ニ適セサル等ノ爲ニ市價ヲ失墜スルコト甚シキニ至レリ試ニ之ヲ兵庫市場ニ於ケル現物賣買ノ實況ニ徵スルモ最近五ヶ年間ノ平均ニ於テ本縣米ハ防長米ニ比シ一石ニ付金壹圓參錢ノ低廉ヲ示セリ假ニ此差額ヲ前記産米總額ニ就テ積算スルトキハ其額實ニ八拾貳萬四千參百七拾貳圓ノ巨額トナル由來本縣ノ産米ハ其元質敢テ劣等ナルニアラサレハ往時ニ在リテハ相當ノ聲價ヲ保チシモ維新後米納ノ制ヲ廢セラレシヨリ諸種ノ弊害日ヲ逐テ生シ終ニ今日ノ如キ狀況ヲ呈スルニ至レリ今其原因ヲ擧クレハ小作者ハ米價ノ如何ヲ慮ルヨリモ寧ロ數量ノ多キト手數ノ省略トノミ是計リ地主亦米質ノ如何ヲ問フ遑ナク收納ノ速ナランコトヲ冀ヒ互ニ相須テ斯ニ至リタルニ外ナラス故ニ此ノ弊害ヲ防キ然シテ改善ノ策ヲ講スルハ最モ緊急ノ要務トス而シテ其方法タル敢テ難事ニアラス即チ乾燥ニ留意シ調製ヲ完全ニシ俵裝ニ於テ亦充分ノ注意ヲ加フレハ自ラ聲價ヲ發揚センコト敢テ疑ハサル所ナリ是座上ノ空論ニアラサルナリ近時大分岡山山口滋賀熊本諸縣産米ノ市場ニ其名聲ヲ得タルモノ皆適宜其法ヲ設ケ改善ヲ勵行セン結果ニ外ナラス又産米検査ノ効果ニ於テ隣縣岡山ノ實例ヲ見ルニ同縣ニ在テハ明治三十六年ヨリ之ヲ施行セシカ翌三十七年ニ於テ己ニ一石ニ付金六拾錢ノ價格ヲ昇騰スルヲ得タリ仍テ試ニ之ヲ本縣ニ於ケル縣外輸出米約五十萬石ニ積算セハ其額實ニ參拾萬圓トナルヘシ此他縣内消費米ノ上ニ於テモ或ハ品質ヲ改善シ或ハ掛耗ノ弊ヲ減シ或ハ貯藏ヲ便ニシ或ハ取引ヲ迅速ナラシメ價格ヲ昇騰スル等其利益亦實ニ莫大ナルヲ信ス

以上述ルカ如ク本縣ニ於ケル産米ノ改善ハ目下最要ノ急務ニシテ傍觀座視スヘカラサル所ナリ加フルニ各縣亦之カ企ヲ爲ス

二
 モノ益多キヲ以テ若シ此期ヲ逸セハ市場ノ聲價ハ全ク先進地方ノ爲ニ占有セラレ販路ハ益窄縮シテ復タ救フヘカラサルノ悲境ニ陥ルヘシ是今回米穀検査規則ヲ發布セシ所以ニシテ公益上洵ニ己ム能ハサルニ出ツ而シテ之カ検査ハ自家用米及一俵未満ノ端米ヲ除クノ外受渡ヲ爲スモノハ悉ク検査ヲ受クヘキ筈ナルヲ以テ深ク此點ニ注意シ乾燥ノ方法及調製ノ粗漏ヨリ土砂粗等ヲ混入シ甚シキハ故ラニ依テ露濕スル等總テ從來ノ弊習ヲ一掃シ以テ改善ノ實ヲ收ムヘシ若シ夫レ検査ノ主旨ヲ誤解シ多數ノ違背者ヲ出スカ如キコトアラハ獨リ違背者其者ノ不幸ノミニアラサルナリ當業者タル者宜シク此主旨ヲ領シ協心戮力互ニ相注意シ以テ富力増進ノ實ヲ擧ケンコトヲ期スヘシ

明治四十年三月十七日

香川縣知事 小野田元熙

香川縣告諭第二號

縣下産米ノ改善ヲ計ルト同時ニ其依裝ヲ改善スルコト亦緊急ノ要件ニ屬ス抑モ本縣ノ産米ハ販路ヲ多ク渡海ノ地ニ有シ運搬上屢々積換ヲ要スルノミナラス輓近運輸機關ノ發達ニ伴ヒ一時ニ巨多ノ積込ヲ爲スヲ以テ依裝自ラ破損シ易ク隨テ之カ堅牢ヲ要スヘキハ論ヲ俟タサル所ナリ然ルニ目下其依裝ハ年ト共ニ粗雜ニ流レ未タ需用地ニ達セサルニ已ニ改善ヲ要スルモノ尠カラス現ニ兵庫又ハ大阪市場ヲ經テ東京若クハ北海道等ニ轉送スルモノ、如キハ悉ク依皮ヲ加ヘ改善ヲ施サ、ルモノナキカ如シ如斯ハ徒ラニ費用ヲ要シ取引ノ敏速ヲ缺ク等其不利尠カラサルノミナラス米粒ノ脫漏ニ依リテ生スル損失亦甚ク大ナルヲ以テ今回米穀検査規則中ニ依裝改良ノ規定ヲ設ケ産米ノ改善ト相俟テ其聲價ヲ發揚セントス而シテ依裝ニ關スル詳細ハ左記ノ標準ニ依ルヲ最モ適當ト認ムルヲ以テ當業者ハ深ク斯ニ留意シ農閑ノ期ヲ利用シテ豫メ之カ準備ヲ爲シ努メテ違算ナキヲ期スヘシ

明治四十年四月三日

香川縣知事 小野田元熙

- 一 内 依 乾燥セル古薬ヲ用キ左ノ各項ニ依リテ四箇所編トナスヘシ
 - 編 繩 九尋四ツ切
 - 封 間 各六寸
 - 封 端 五寸
 - 封 數 六十五内外
 - 重 量 四百五十匁乃至五百五十匁
- 二 外 依 乾燥セル「ソグリ」薬ヲ用キ左ノ各項ニ依リ四箇所編ト爲スヘシ
 - 編 繩 九尋半ヲ四ツ切
 - 封 間 中央七寸左右各六寸
 - 封 端 六寸
 - 封 數 八十五内外
 - 重 量 三百五十匁乃至四百五十匁
- 三 棧 依 乾燥セル古薬ヲ用キ左ノ各項ニ依リ編成スヘシ
 - 直 徑 九寸
 - 重 量 五十匁乃至八十匁
- 四 繩 「ソグリ」薬ヲ能ク打柔ケタルモノヲ用キ横繩ハ周リ一寸以上縦繩ハ周リ一寸二分以上ニ綯ヒ充分

- 五 口尻ノ括リ方
 撚ヲ掛ケ擦掛ト爲スヘシ
 周リ八分以上ノ繩ヲ以テ外依ノ兩端編繩ニ引掛五封越三封ツノヲ掬ヒテ目貫ト爲シ且内外依封端ノ間ニ棧依ヲ挟ミ順次戻シ掛ケトシ三廻目ヨリ目ヲ飛シテ充分ニ緊括スヘシ
- 六 横繩ノ掛方
 五ヶ所各二廻結トシ中央ヲ稍ヤ細ク結束スヘシ
- 七 縦繩ノ掛方
 二筋ニテ四方掛トシ中央横繩ヲ除キテ他ノ横繩ニ糸付繩端ハ依口ニ於テ男結トシテ糸封ヲ施スヘキ部分ヲ設ケ置キ中央横繩ノ上ハ更ニ一筋ニテ二廻結ト爲スヘシ

香川縣告諭第三號

縣下産米ノ改善ヲ圖ランカ爲客年三月縣令ヲ以テ米穀検査規則ヲ制定スルヤ懇切ナル當局者ノ指導ト熱誠ナル當業者ノ勵精トハ相待テ著シク其實績ヲ昇ケ頓ニ産米價格ノ昇騰ヲ見ルニ至リシハ深ク喜フ所ナリ然レトモ尙未以テ完璧タルノ域ニ達セズ之ヲ既往検査ノ成績ニ徴スルモ郡市町村其境ヲ異ニスルニ從ヒ改良ノ程度ニ優劣ノ差ヲ生スルアリ爲ニ検査ノ効果ニ影響シタルコト尠シトセス如此ハ検査施行ノ初年ニ於テ免レ難キ事ニ屬スト雖モ今後尙此弊ヲ矯正シ得サレハ初年ニ於テ博シ得タル市場ノ信用ヲ失墜シ當業者ノ不利大ナルノミナラス本縣經濟界ニ蒙ルヘキ打擊亦多大ナルモノアラン故ニ將來一層検査ヲ勵行シ成績ノ統一ヲ計リ以テ既得ノ聲價ヲシテ益高カラシメントス而テ此等既往ノ缺點ヲ指摘スルハ主トシテ乾燥ノ不良砂糲及屑米ノ混入多キト依裝不完ニ外ナラサルヲ以テ當業者深ク此點ニ留意シ銳意改良ノ實行ニ努メ濤岐米ノ名聲ヲ發揚スルニ於テ遺憾ナキヲ期スヘシ

明治四十一年十月二十七日

香川縣知事 小野田元熙

香川縣告諭第六號

本縣ノ産米ハ米穀検査施行以來乾燥依裝共ニ稍ヤ改善ノ實績ヲ現シタリト雖モ砂ノ防除ニ至リテハ未タ完全ノ域ニ達セス爲ニ市場ノ信用ヲ博シ難ク價格隨テ其影響ヲ蒙ルコト尠カラサルハ深ク遺憾ノ事ニ屬ス惟フニ如上ノ缺點ハ糲ノ乾燥及取扱並ニ糲摺ノ際ニ於ケル當業者ノ注意周到ヲ缺クニ職由スルモノニシテ此等僅々タル事情ノ爲今尙巨額ノ損失ヲ免レサルハ誠ニ慨歎ニ堪ヘサル所ナルヲ以テ將來砂ノ検査ニ就テハ一層之ヲ嚴密ニ施行スヘキニ依リ當業者ハ能ク此意ヲ體シ左ノ各項ニ從ヒ努メテ之カ混入ヲ防除シ益々本縣米ノ品位ヲ高メ聲價ヲ發揮センコトヲ期スヘシ

明治四十二年九月廿九日

香川縣知事 小野田元熙

- 一 稻ヲ乾燥スルニハ架乾其他適宜ノ方法ヲ用ヒ稻穗ヲ地面ニ附着セシムヘカラス
- 二 稻扱ヲ爲スニハ下敷ヲ爲スヘシ
- 三 稻扱ノ際ニ於ケル足元糲及取扱中ニ於ケル掃寄糲ハ土砂ヲ除去シタル後ニアラサレハ之ヲ普通ノ糲ト混スヘカラス
- 四 糲ノ蓆乾ヲ爲スニハ下敷ヲ爲スヘシ
- 五 糲ヲ道路又ハ土砂混入ノ虞アル場所ニ於テ乾燥スヘカラス
- 六 糲摺又ハ糲ノ貯藏及取扱ヲ土間ニ於テセントスルトキハ二重ニ蓆ヲ敷クヘシ
- 七 依米ヲ道路沿岸其他土砂附着ノ虞アル場所ニ併置セントスルトキハ敷物ヲ爲スヘシ

香川縣訓令第四十四號

六

郡 役 所
市 役 所
町 役 場
村 役 場

縣下產米ノ改善ヲ企圖セン爲メ米穀検査施行ト同時ニ屢次改善ノ方法ヲ指摘シ大ニ之カ獎勵ニ努メタリ爾來市場ノ信用日ニ加ハリ價格月ニ昇騰スルノ機運ニ向フ是レ誠ニ喜フヘキノ事ニ屬ス然レトモ當業者積年ノ流弊一朝ニシテ改メ難キモノアリ米製依裝共ニ尙ホ不充分ノモノアルノミナラス就中砂ノ混入ニ至リテハ其缺點ノ最モ著シキモノアルヲ以テ今後一層之カ防除ヲ勵行スルニアラサレハ到底市場ニ聲價ヲ發揮スル能ハサルヲ信ス由來米穀ノ検査ハ施行ノ當初ニ於テ比較的速ニ改善ノ實績ヲ現スモ三、四年目ニ至リテ却テ一段ノ退歩ヲ來セルモノ其例ニ乏シカラス是レ畢竟當路ノ督勵漸ク弛退シ當業者ノ注意隨テ周密ヲ缺クニ因ラスンハアラス今ヤ本縣ニ於テモ検査開始後第三回ノ新穀期ニ迫ル此時ニ方リ若シ當路ノ措置其宜キヲ失フコトアラシカ爲ニ前車ノ覆轍ヲ踏ムノ憾ナキヲ保セス如斯ハ單リ當業者ノ不利益ナルノミナラス縣下ノ爲メ誠ニ遺憾トスル所ナルヲ以テ職ニ獎勵ノ局ニ在ル者ハ深ク此點ニ留意シ從來ノ方針ニ依リテ大ニ指導督勵ヲ加ヘ嚴ニ粗製濫造ヲ戒ムル等周到ノ注意ヲ以テ事ヲ未然ニ防遏シ進テ從來ノ缺點ヲ補ヒ以テ益本縣米ノ聲價ヲ高メ縣民ノ福利ヲ増進センコトヲ期スヘシ

明治四十二年九月二十九日

香川縣知事 小野田元照

香川縣告諭第二號

本縣產麥八年々其產額ヲ増加シ今年額七十餘萬石ニ達シ商品トシテ販賣セラル、モノ甚多ク其縣外輸出高小麥十三萬餘石玄稜麥四萬餘石合計約十八萬石ヲ下ラス此カ價格ノ高低ハ縣民經濟ニ至大ノ影響ヲ及ホスコト言フ俟タス然ルニ產麥ノ現況ハ乾燥調製概シテ不良ニシテ蝕害變色ヲ來スコト多ク又依裝不完全ニシテ容量ノ區々ナルハ運搬中ノ脱粒取引上ノ不便等損失スル所決シテ尠ナカラス加フルニ縣内集散地ニ於テ品質ノ良否ヲ問ハス之ヲ混合スルノ風アルカ如キ大ニ一般ノ品位ヲ失墜スルモノニシテ爲メニ其卓越セル眞價ヲ發揮シ能ハサルハ遺憾トスル處ナリ翻テ縣外市場ノ狀況ヲ見ルニ晚近麥類ノ需用増加ニ伴ヒ需用者ニ於テハ品質ハ勿論包裝ノ良否貯藏運搬取引ノ便否等ヲ細密ニ考查シ評價ヲ爲スノ趨向漸ク著シク今ヤ本縣產麥ハ既ニ検査ヲ開始セル他縣改良品ニ比シ遜色ナキ能ハス茲ヲ以テ縣ハ本年產麥ヨリ小麥及玄稜麥ノ輸出検査ヲ施行シテ之カ改良統一ヲ計リ一ハ以テ取引ノ安固ヲ期シ他ハ以テ延テ產麥ノ改良ヲ招致シ相俟テ需用者生産者並ニ取引關係者ニ裨益スル處アラントス此カ實施ニ必要ナル縣令ハ追テ發布スヘキモ容量包裝ハ大體左ニ掲クル如ク規定スル見込ナルヲ以テ當業者ハ豫メ克ク此意ヲ體シ實施ニ應シ協力一致検査ノ目的ヲ達成スルニ遺憾ナキヲ期スヘシ

大正六年五月六日

香川縣知事 坂田幹太

- 一 俵又ハ一呎ノ容量
- 小麥四斗四升トシ裸麥ヲ四斗トスルコト
- 包裝ハ俵又ハ呎ヲ使用スルコト

イ、依装ハ内外依棧俵口尻際方及横繩ハ凡テ米穀検査規則第四條第五項ニ依リ縦繩ハ周リ一寸以上一筋三方又ハ四方掛
トシ中央ヲ除ク他ノ横繩ニ卷付ケ其結止ニ證票紙ヲ施スヘキ部分ヲ存スルコト但外依ニ換ユルニ蓆ヲ以テシ又ハ外
依ノ上ニ蓆ヲ施スコトヲ得

ロ、以ハ藁質良好ナルモノヲ用キ織方ハ兩端耳繩ヲ除キ三十六目以上密ニ織リ上ケ其重量ハ五百匁以上トシ結束ノ方法
ハ兩耳繩ノ端ヲ中央ニ於テ結合シ依装ト同一ノ繩ヲ用キ横繩ハ二廻三ヶ所掛トシ縦繩ハ二筋一ヶ所以上トシ各横繩
ニ卷付ケ緊括シ中央横繩ノ結止ニ證票紙ヲ施スヘキ部分ヲ存スヘキコト

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字が並んでいる。これはおそらく印刷の質や紙の劣化によるものである。）



香川縣檢物所在(香川縣) (内)

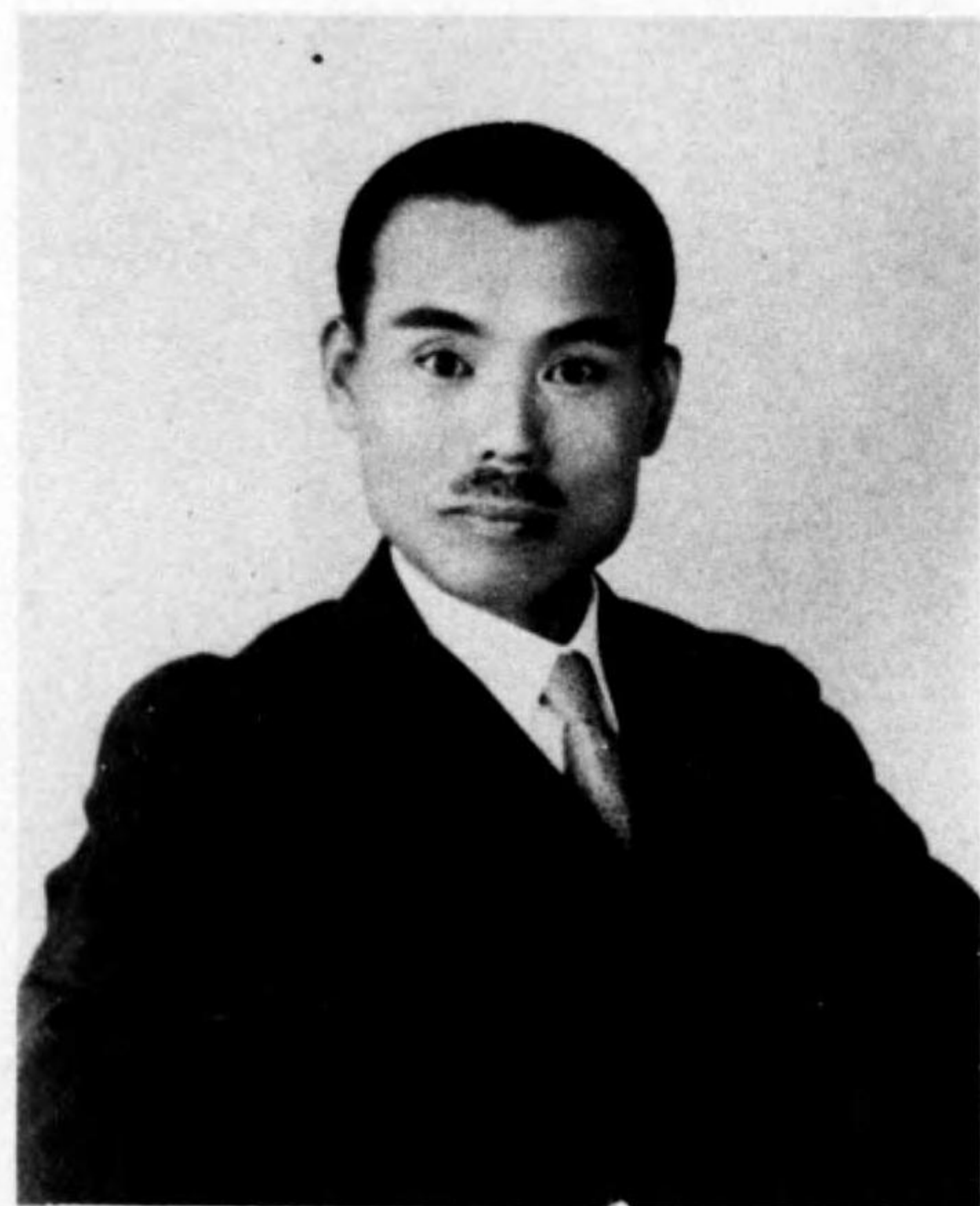


事知縣川香現
吉清島君



事知縣川香時當始創
灑元田野小故





長部務内縣川香現
郎 三 野 鹿



長部務内縣川香時當始創
郎 三 勝 邊 渡





長課林農縣川香勇
傳 島 手



長所查檢物穀縣川香現
郎 三 慶 原 葉



長所查檢物穀縣川香時當始創
郎 史 田 住



長所代三第
郎次三田園



長所代二第
郎太徳口樋 故



長所代四第
恕 忠 藤 佐



長所代六第
造 鹿 内 水



長所代五第
佃 本 岡



長所代八第
市又田織



長所代七第
惠田和



長所代九第
勝秀野平



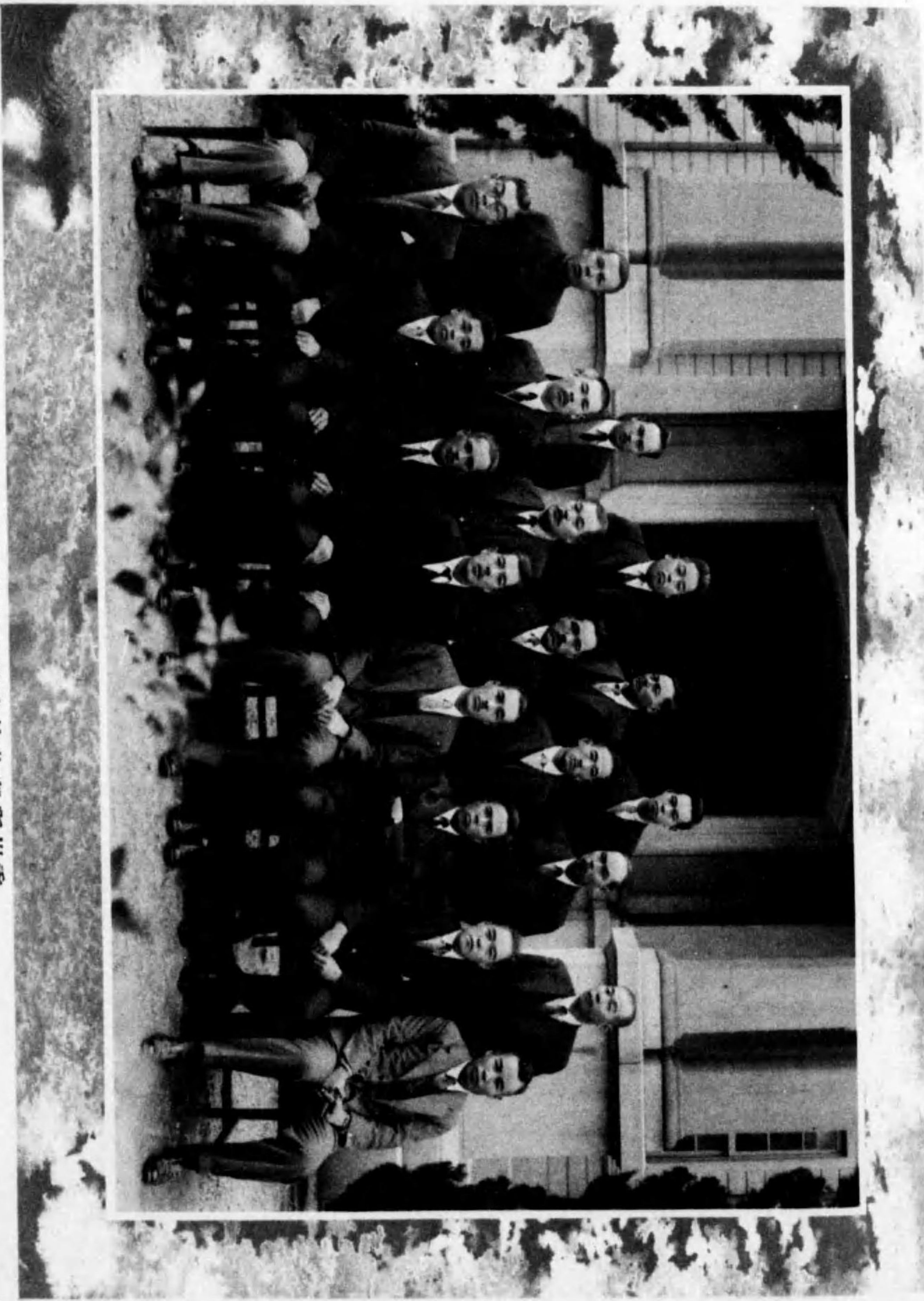
長所代一十第
郎太重本宮



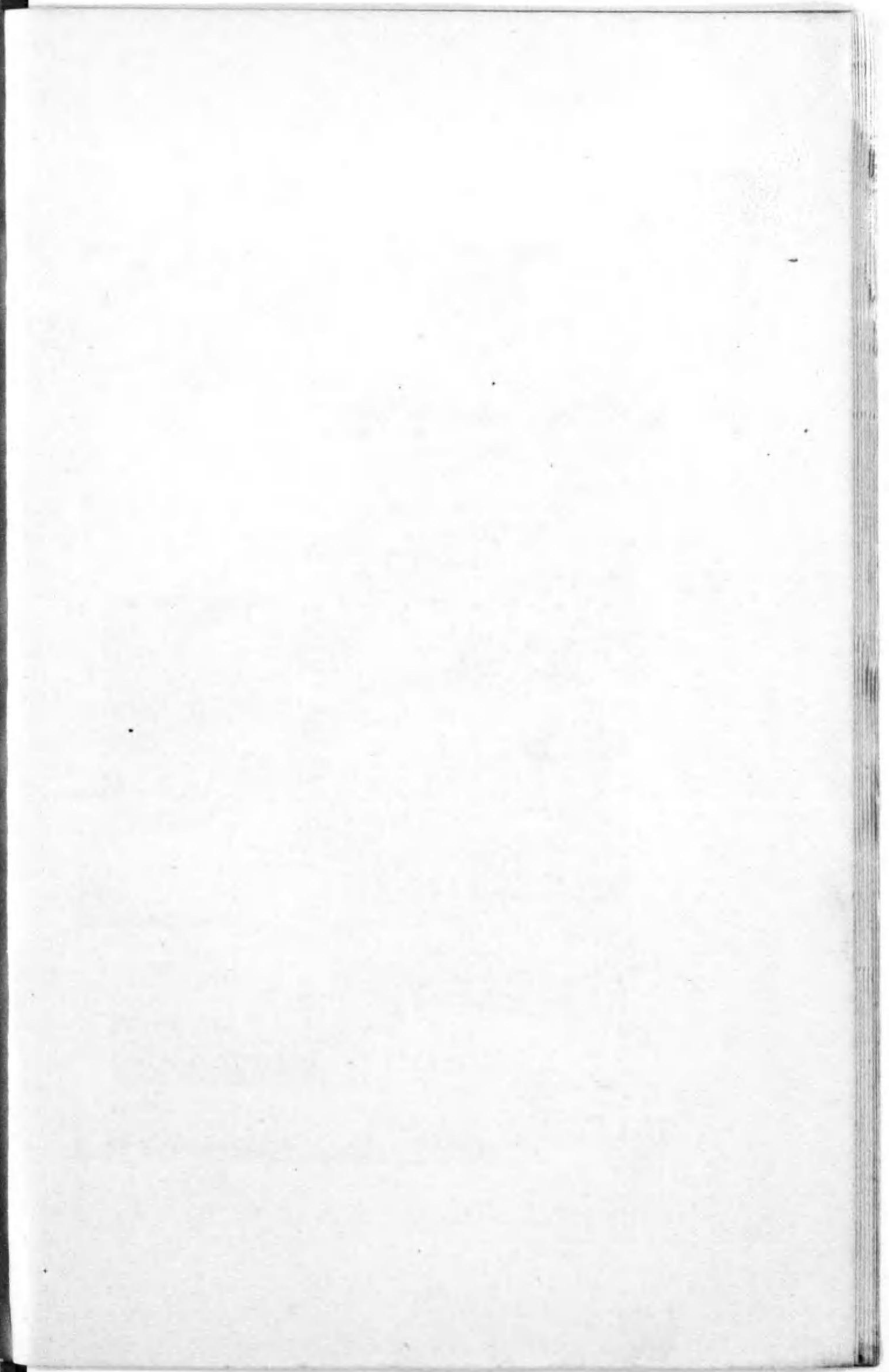
長所代十第
造邦木八



員職所在檢物穀縣川香



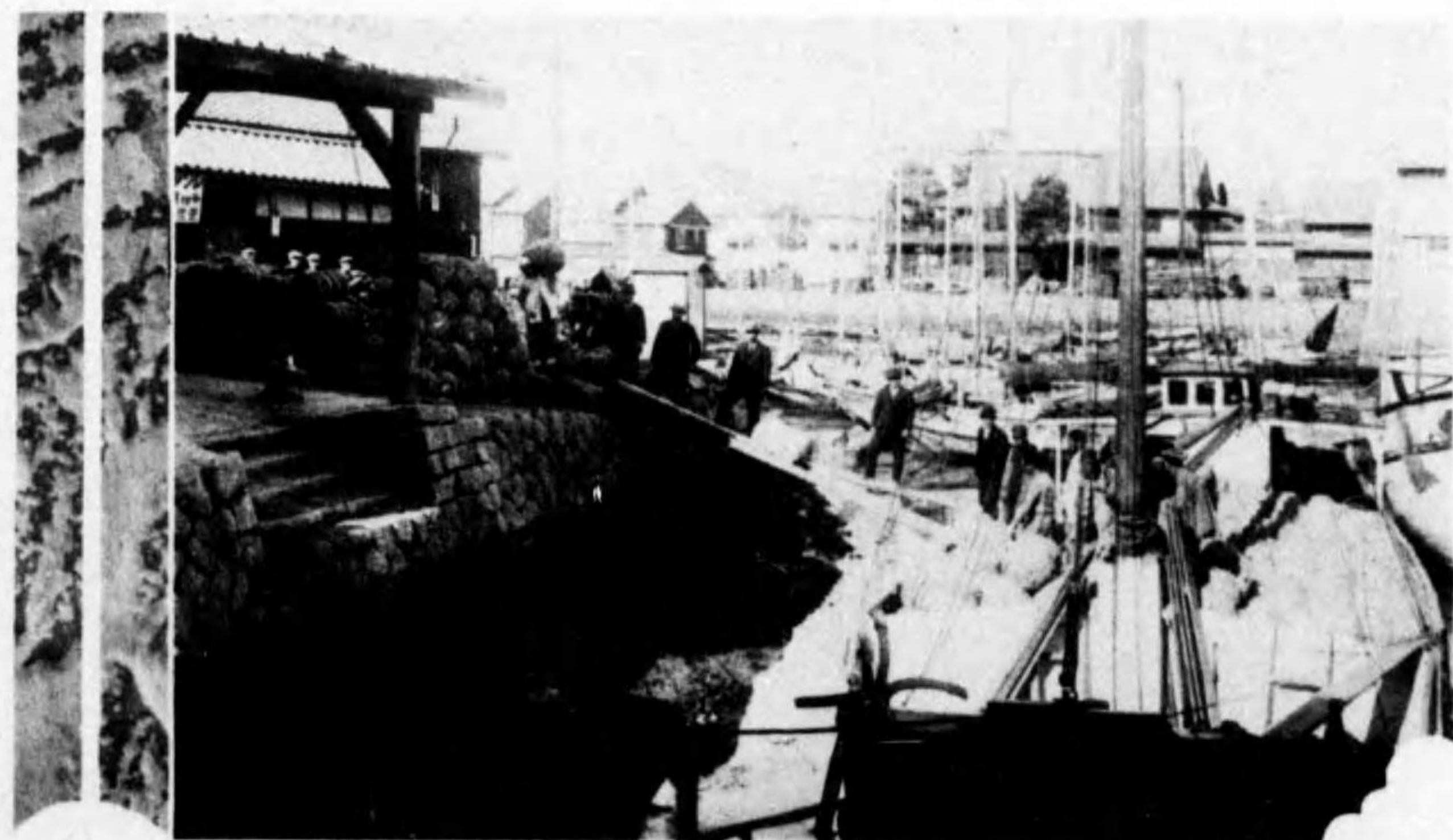
香川縣檢物所職員並監督員



一ノ其(在現)況實ノ査檢出移物穀



港 松 高



港 龜 丸

二ノ其（在現）況實ノ査檢出移物穀



港 出 坂



港 寺 音 觀

志
度
港



穀物移出検査ノ實況(現在)其ノ三

多
度
津
港



琴
平
驛

一ノ其(在現)況實庫倉定指府政

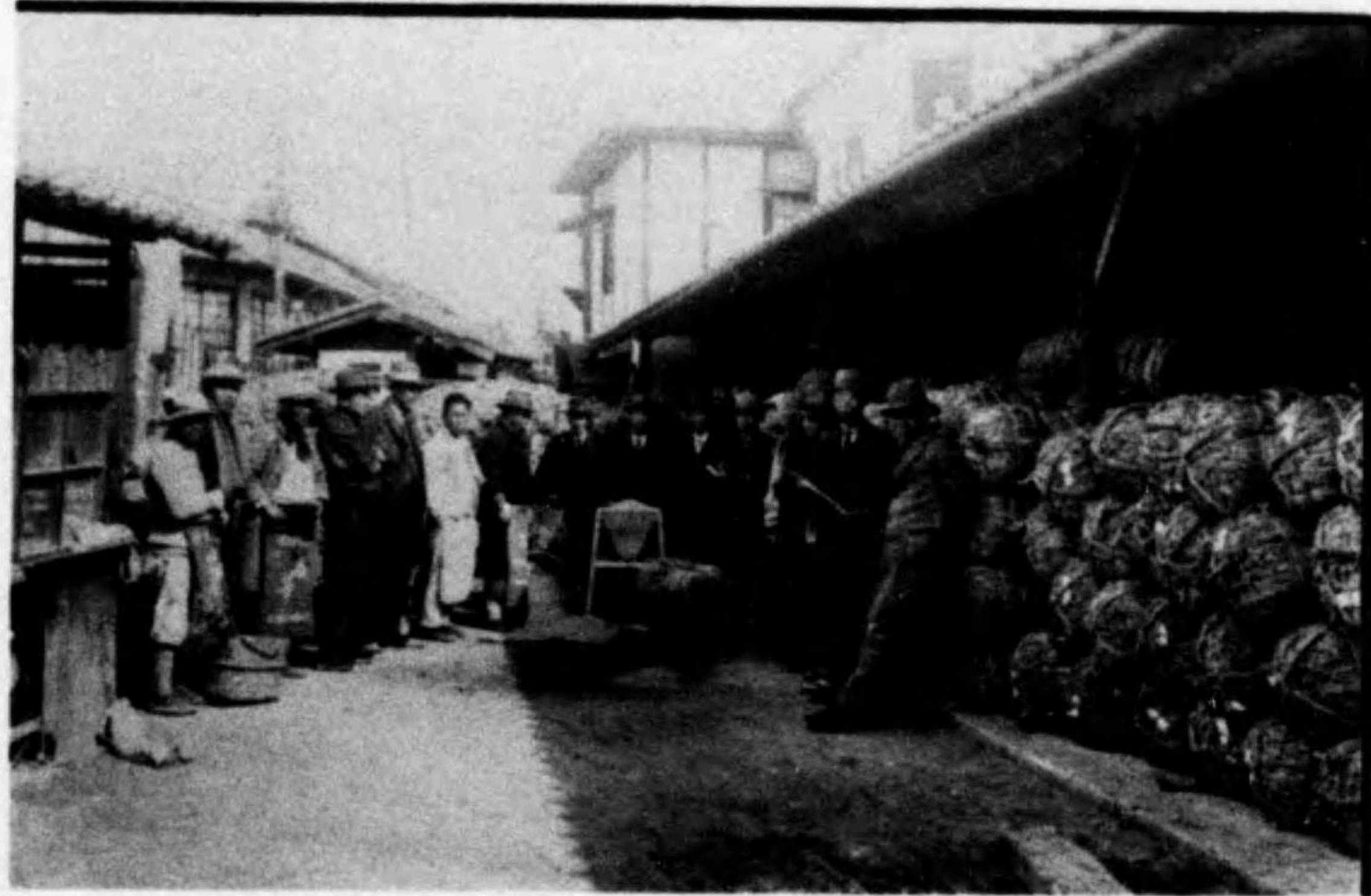


庫倉業農松高



庫倉業農出坂

二ノ其(在現)況實庫倉定指府政



庫倉業農龜丸



庫倉業農寺音觀

上
上
上
上

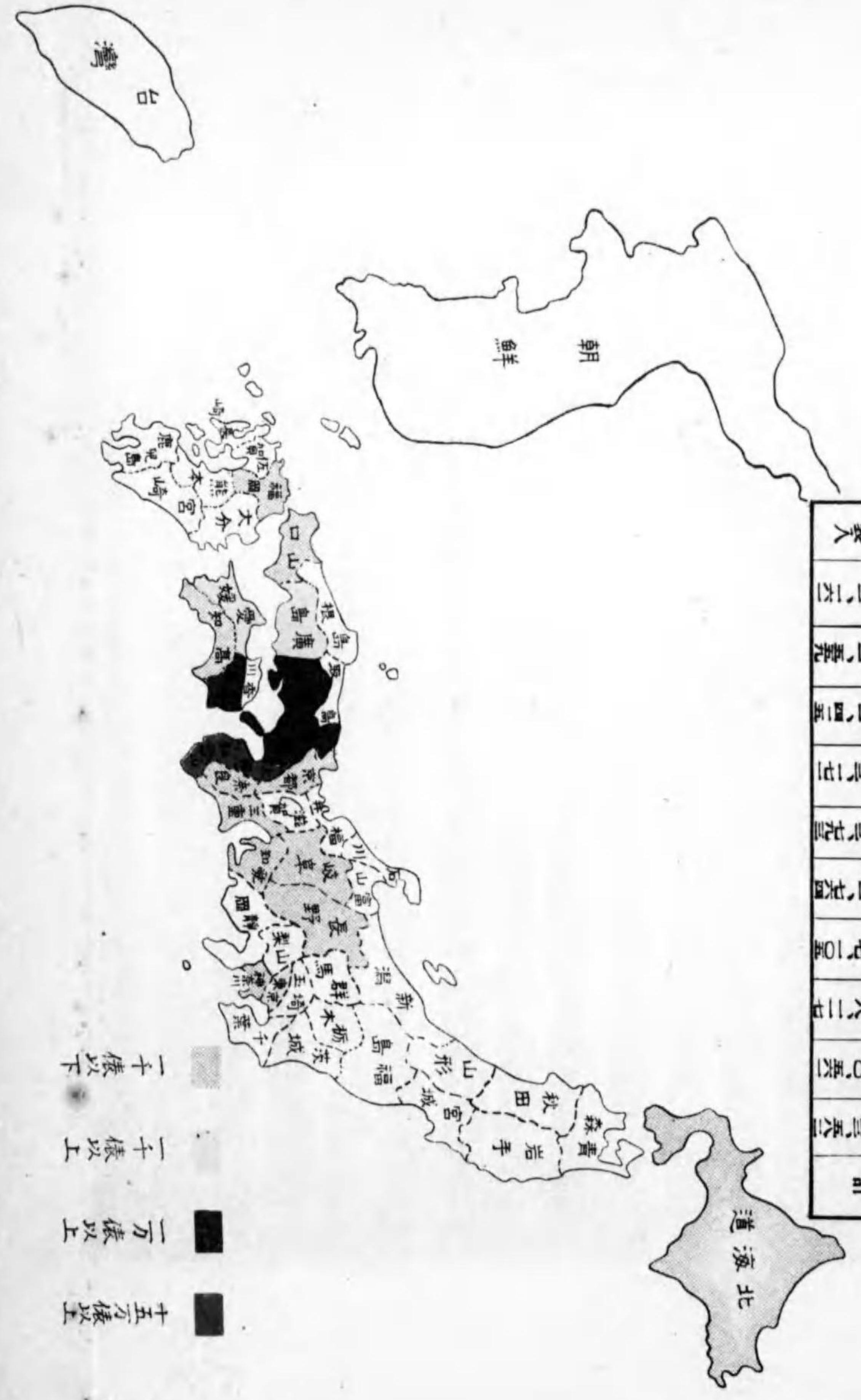


相
生



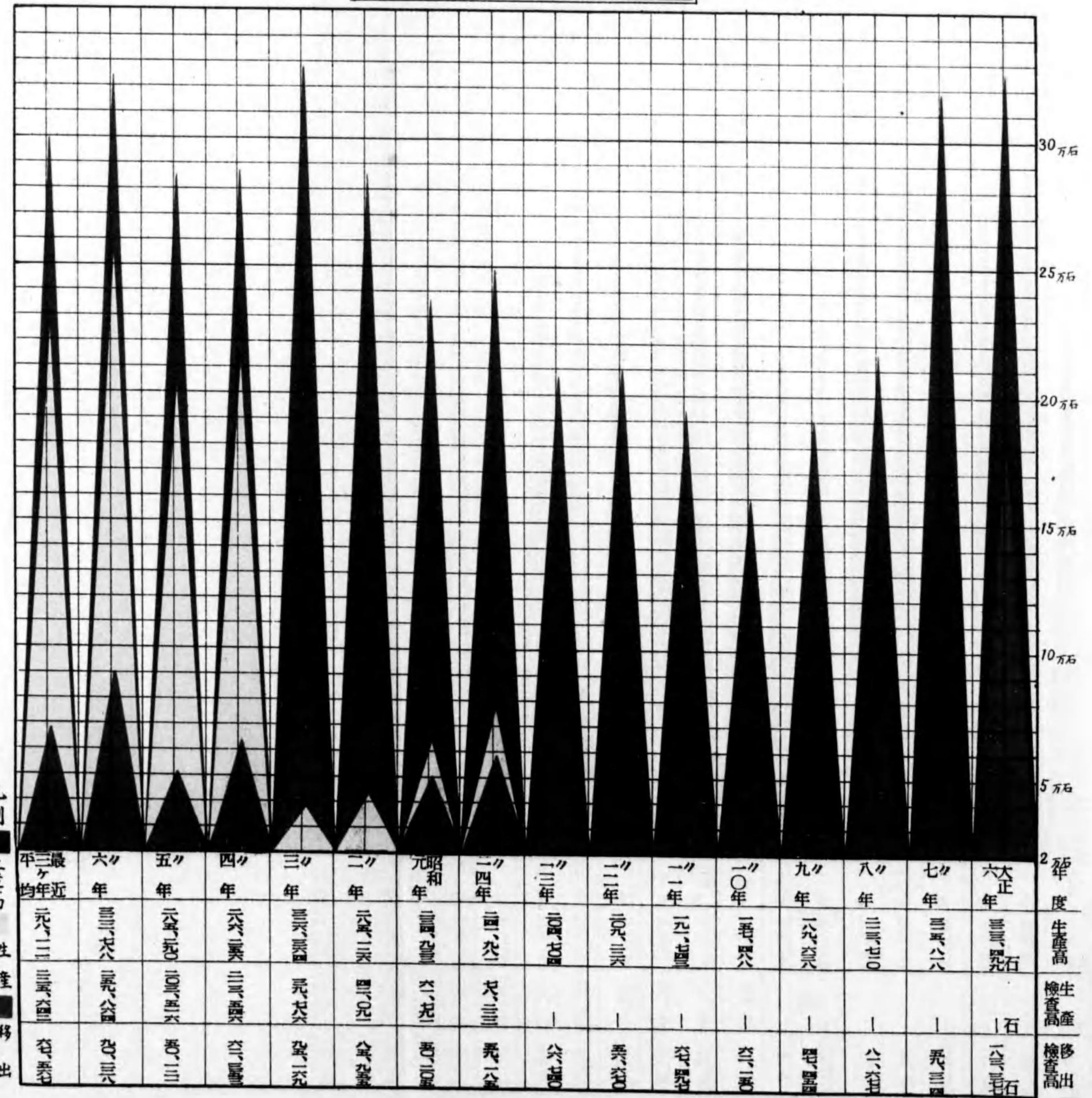
最近五箇年平均米仕向地別調

十五万俵以上
 一万俵以上
 一千俵以上
 一千俵以下



府県別先	立米	精米	計
大阪	30,311	24,833	55,144
和歌山	6,444	5,242	11,686
徳島	10,100	8,114	18,214
兵庫	17,000	14,100	31,100
岡山	20,000	16,633	36,633
愛媛	33,000	27,000	60,000
廣島	17,000	14,100	31,100
東京	17,000	14,100	31,100
其他	17,000	14,100	31,100
計	104,851	84,982	189,833
備考	単位俵 × 印二半袋入		

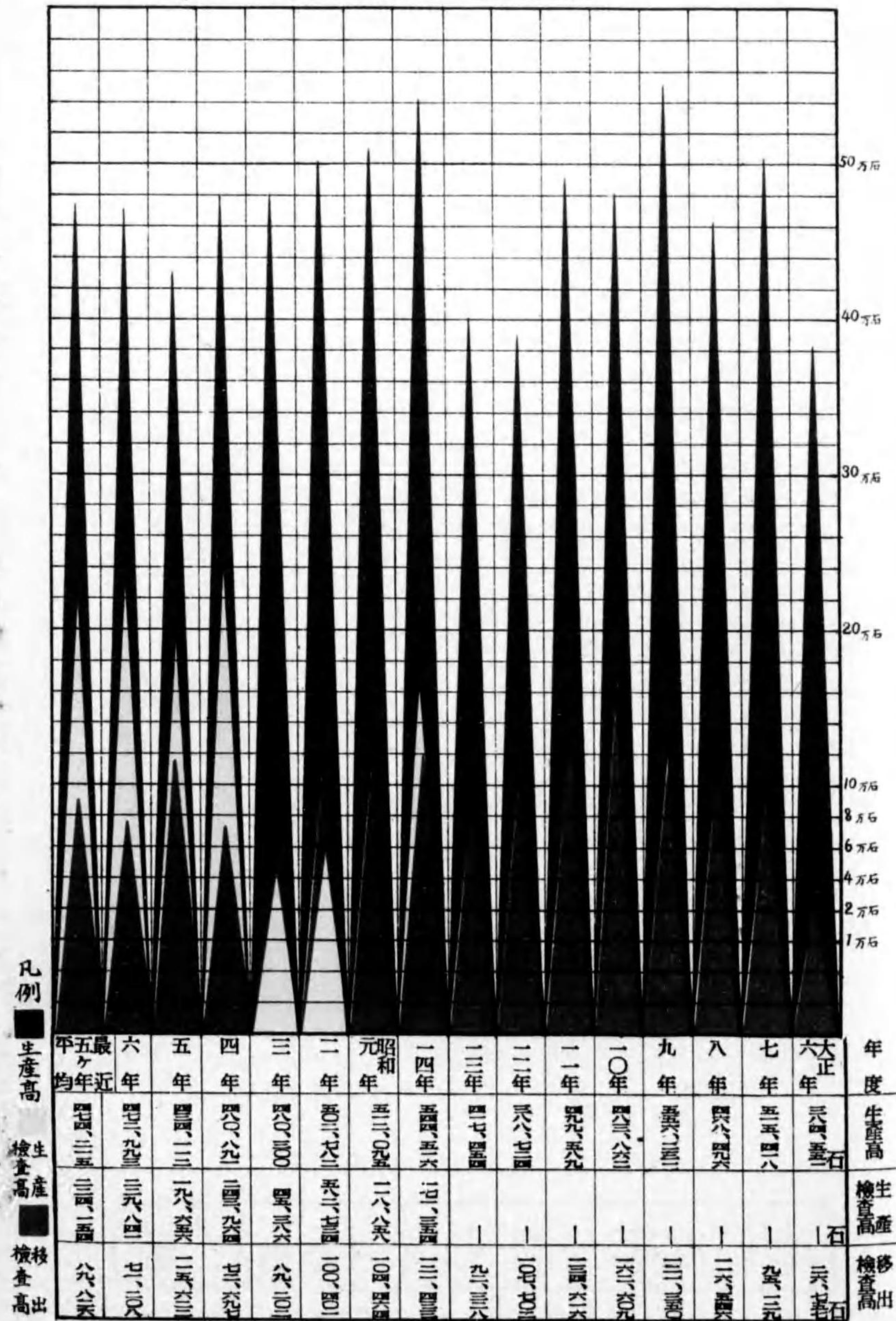
小麦生産高對檢査高



凡例
 生産高
 檢査高
 移出

2 年度
 生産高
 檢査高
 移出

高查檢對高產生麥稈



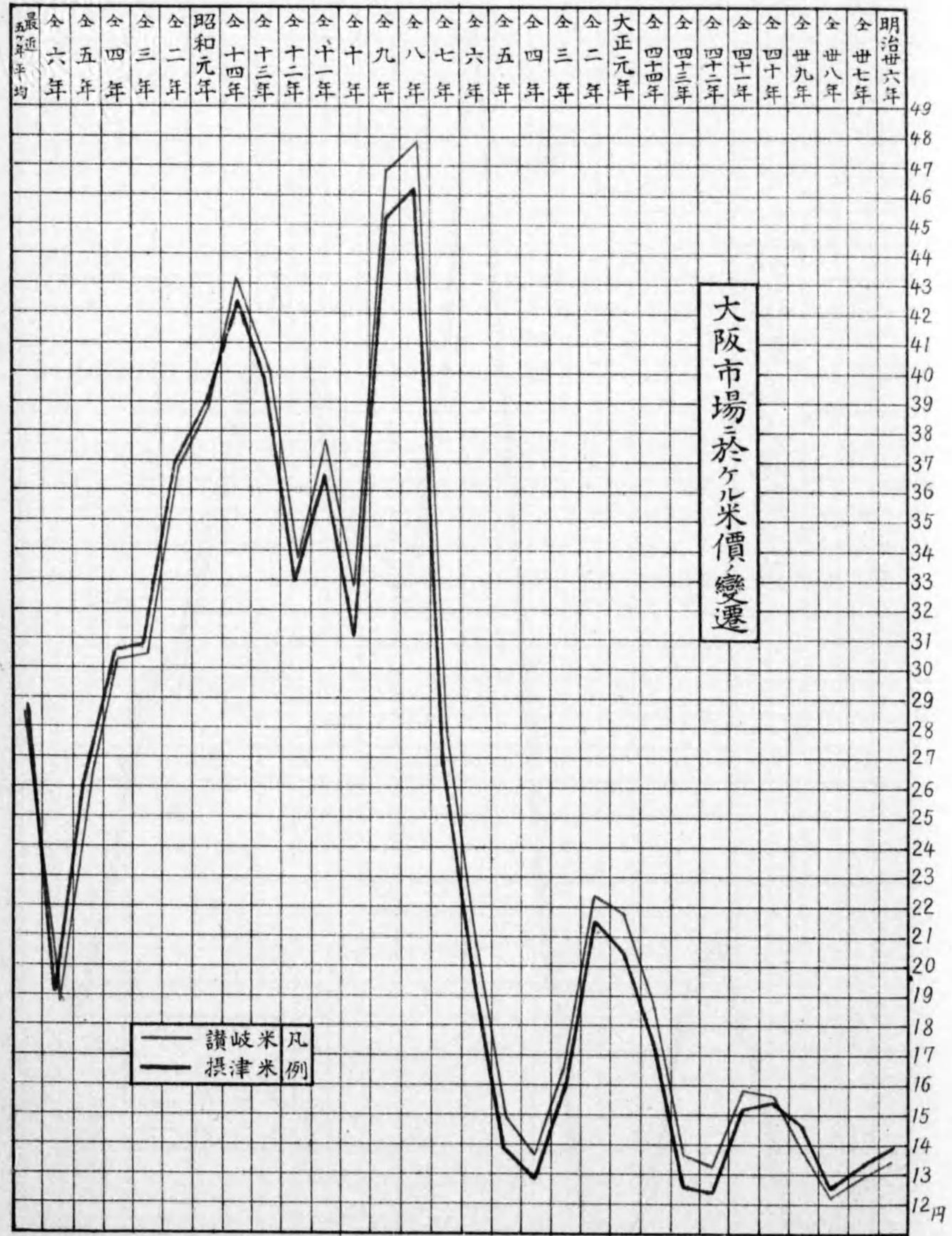
凡例
 ■ 生産高
 ■ 検査高
 ■ 移出

最近五箇年平均麥仕向地別調

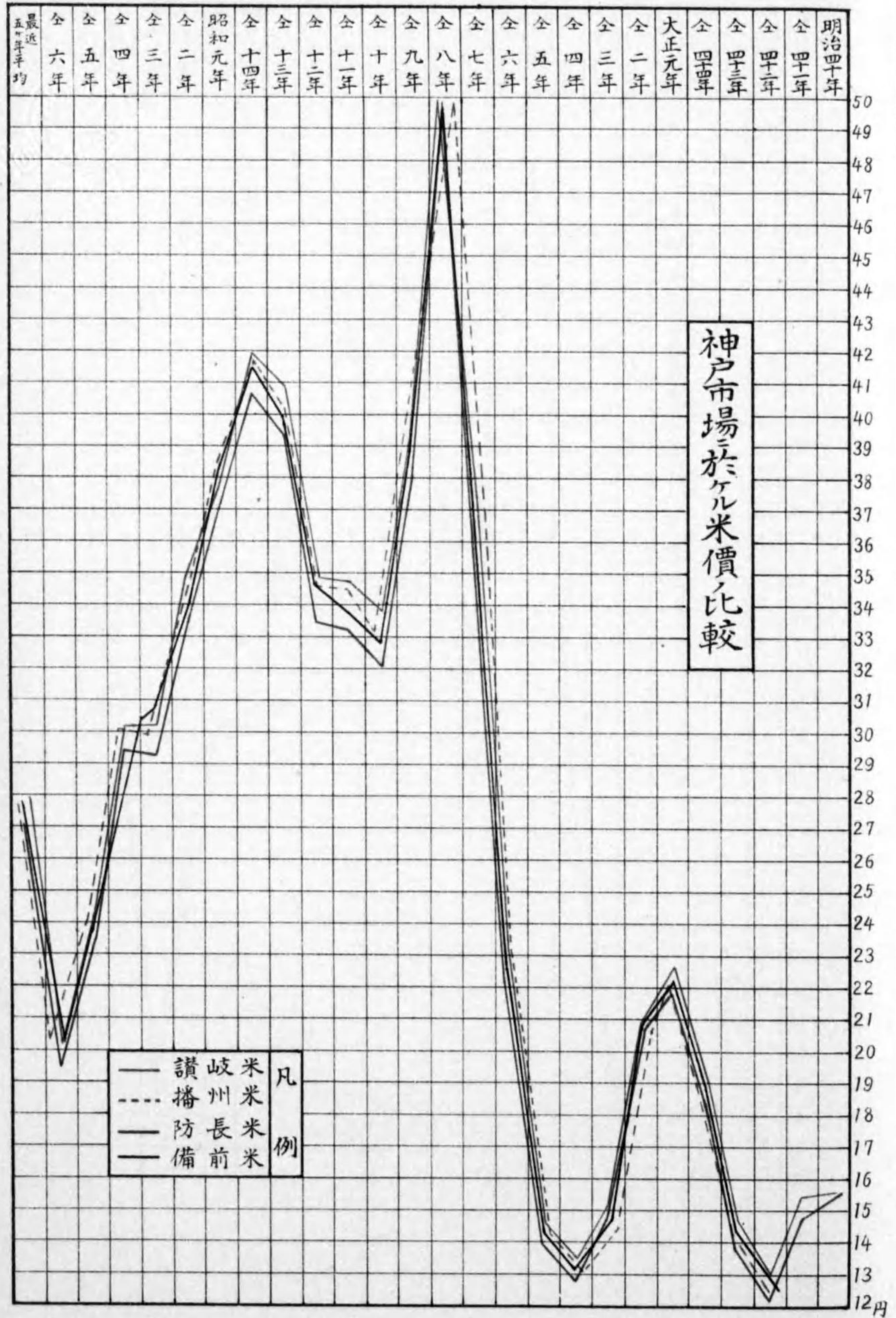
■ 十万俵以上
 ■ 一万俵以上
 ■ 一千俵以上
 ■ 一千俵以下

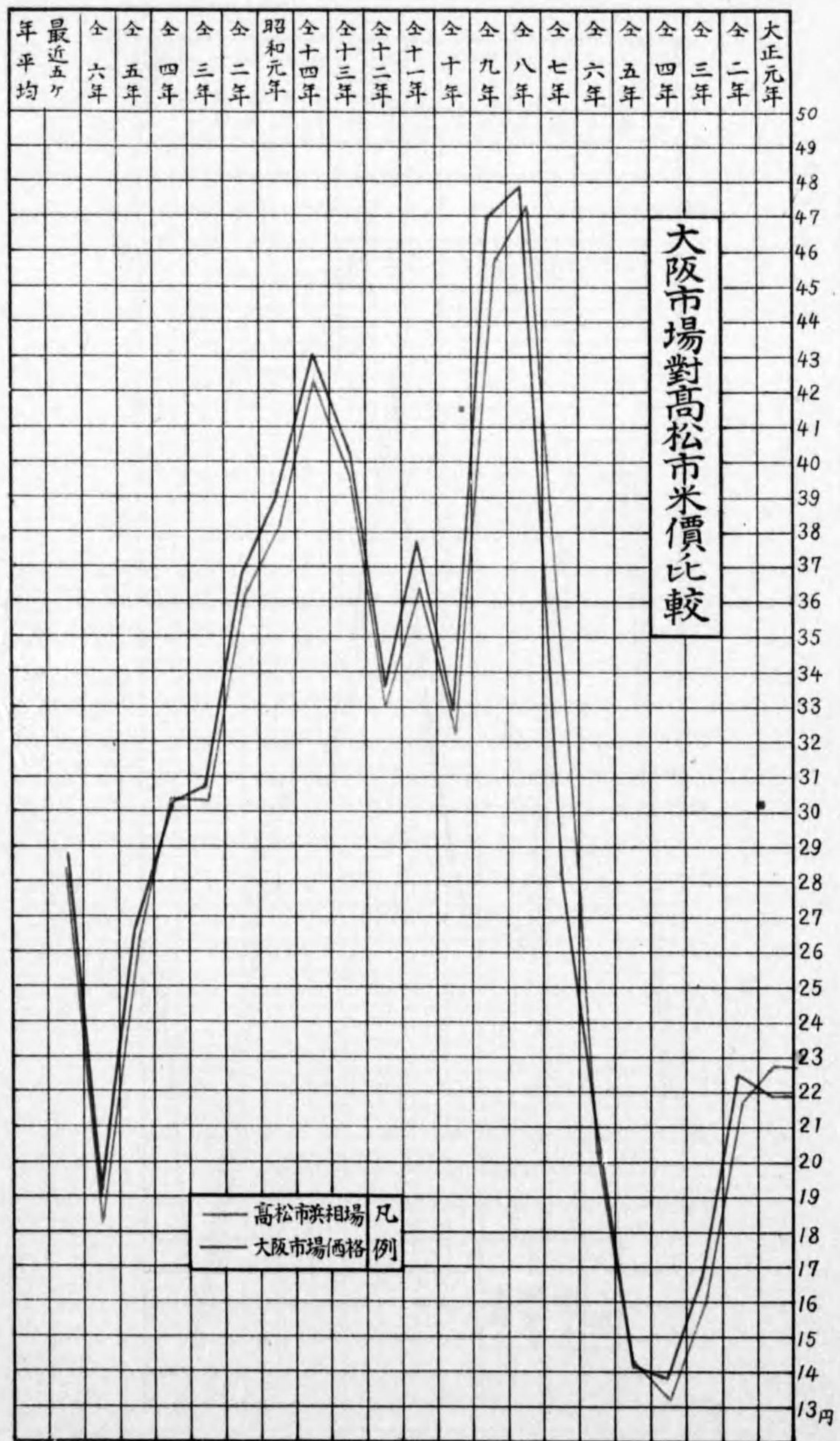


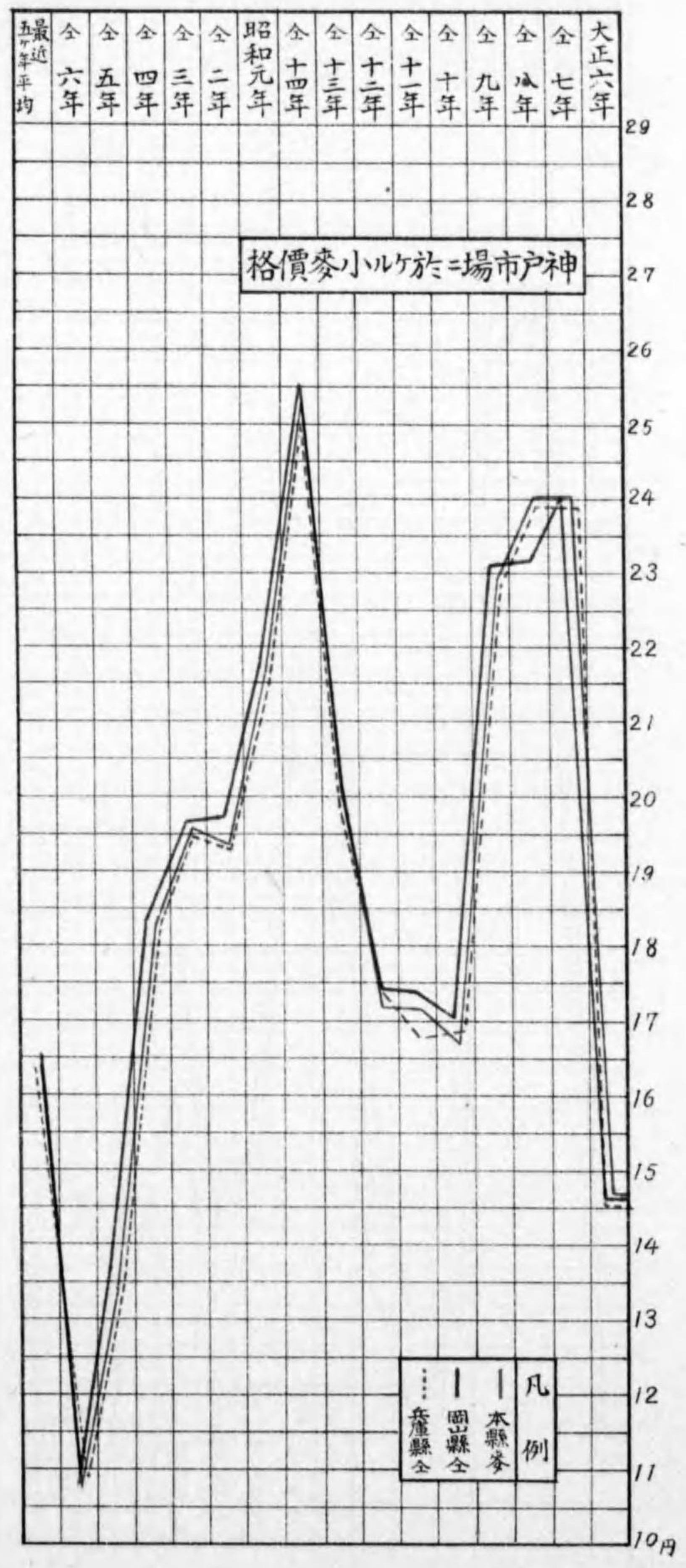
北海道	二萬五千	三萬五千	一萬五千
青森	三萬	二萬五千	一萬五千
岩手	三萬	二萬五千	一萬五千
秋田	三萬	二萬五千	一萬五千
山形	三萬	二萬五千	一萬五千
福島	三萬	二萬五千	一萬五千
茨城	三萬	二萬五千	一萬五千
栃木	三萬	二萬五千	一萬五千
群馬	三萬	二萬五千	一萬五千
新潟	三萬	二萬五千	一萬五千
富山	三萬	二萬五千	一萬五千
石川	三萬	二萬五千	一萬五千
福井	三萬	二萬五千	一萬五千
山梨	三萬	二萬五千	一萬五千
長野	三萬	二萬五千	一萬五千
岐阜	三萬	二萬五千	一萬五千
愛知	三萬	二萬五千	一萬五千
三重	三萬	二萬五千	一萬五千
滋賀	三萬	二萬五千	一萬五千
京都	三萬	二萬五千	一萬五千
大阪	三萬	二萬五千	一萬五千
奈良	三萬	二萬五千	一萬五千
和歌山	三萬	二萬五千	一萬五千
徳島	三萬	二萬五千	一萬五千
香川	三萬	二萬五千	一萬五千
高松	三萬	二萬五千	一萬五千
愛媛	三萬	二萬五千	一萬五千
高知	三萬	二萬五千	一萬五千
福岡	三萬	二萬五千	一萬五千
佐賀	三萬	二萬五千	一萬五千
熊本	三萬	二萬五千	一萬五千
大分	三萬	二萬五千	一萬五千
宮崎	三萬	二萬五千	一萬五千
鹿児島	三萬	二萬五千	一萬五千
沖縄	三萬	二萬五千	一萬五千
計	三萬	二萬五千	一萬五千

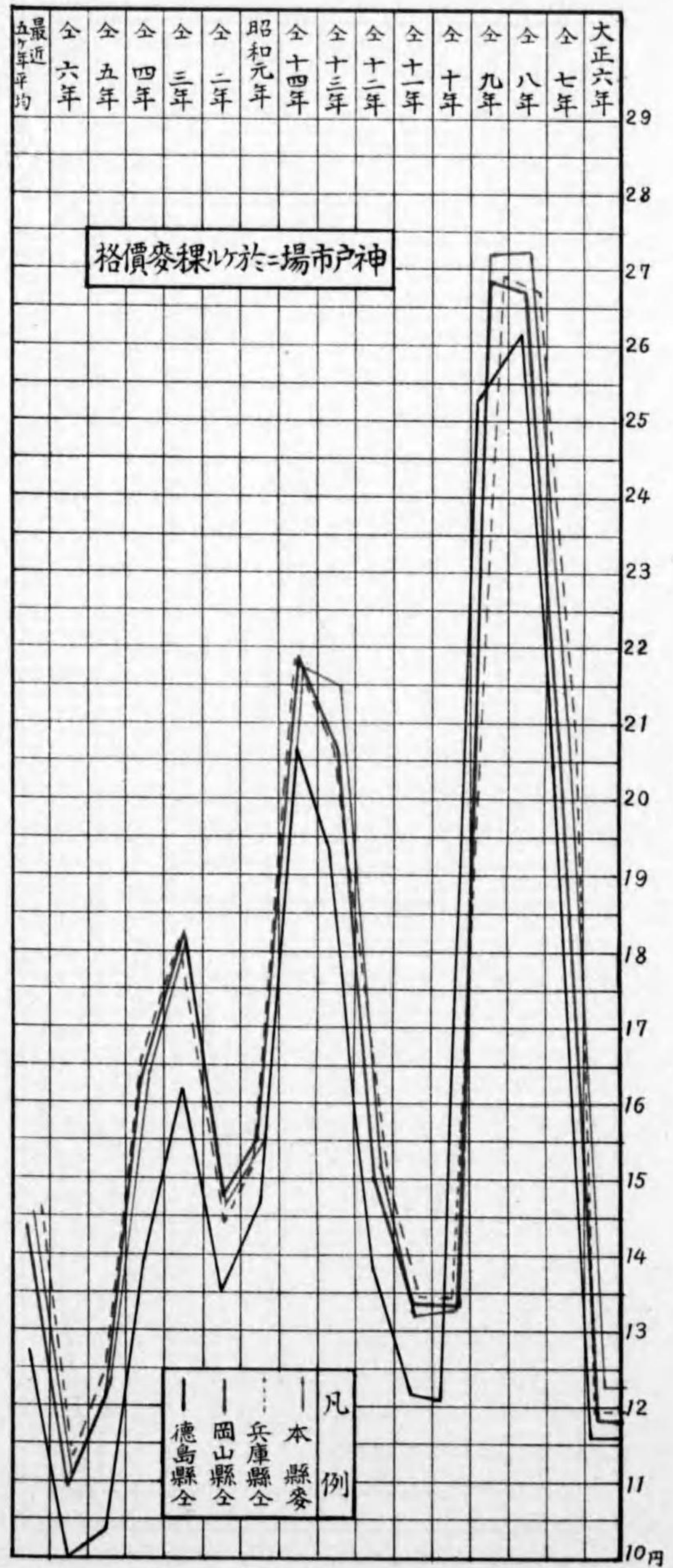


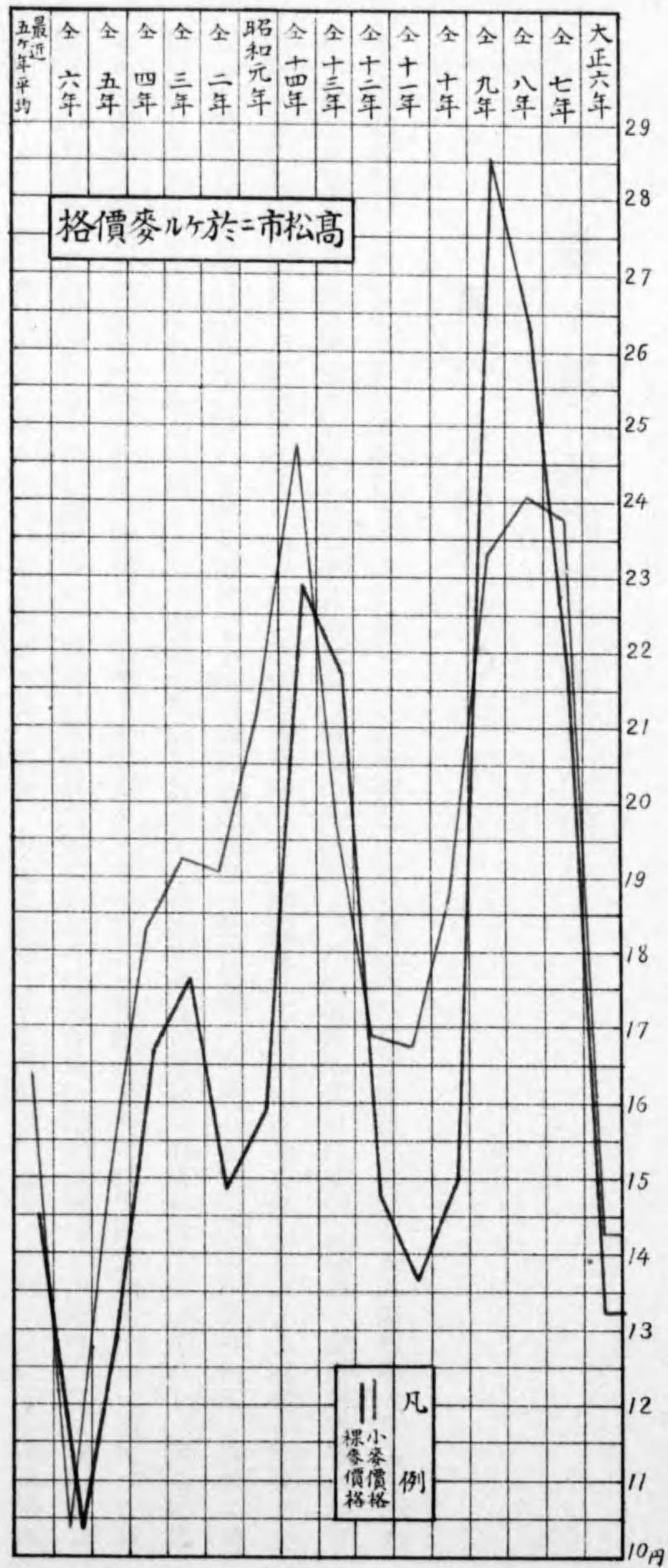
昭和四十四年四月三十日現在の価格











香川縣穀物検査廿五周年記念誌

第一編 穀物検査施行の沿革

第一章 米穀検査の沿革

米は本縣産物の大宗にして其の産額約九十方に達し、之れが盛衰は忽ち縣經濟の消長に關し影響の及ぶ所頗る大なるものあり、抑々本縣産米は氣候風土の天恵に浴し品質善良食味佳良の故を以て、往時藩政時代には取引市場及一般需用者等に於て相當歡迎せられ居りしが、維新後明治六年貢米の制度廢止せらるゝや貢税は凡て金納に改められたるにより諸種の弊害日を逐ふて醸生し、農家は米穀の品位の善惡を問はず手数の省略を之れ事とし、乾燥の不良、調製、依裝の粗雑は殆んど其極に達し甚しきに至りては増量を計らんが爲め故らに産米に水濕を加ふるものあるに至り著しく價格を損するに至れり。試みに之を兵庫市場正米賣買の實況に徴すれば、明治三十五年より同三十九年まで五ヶ年間の平均に於て防長米に比し一石につき壹圓二錢の低價を以て取引せらるゝの状態にあり、爲めに販路は次第に狹められ都會地の需用は減少し山間地方又は其他の勞働者の多き方面に轉換するに至り縣民の蒙むる經濟上の損失の大なるは固より亦運輸中の脱漏、夏期に於ける品傷等國家としての損失莫大なるものあるに至れり。是に於て産米改良は刻下の急務たる事を識者の唱導する所となり縣當局に於ても既に明治三十五年に重要物産同業組合法による改良組合を施設せしむるため百方勸誘に努めたるも當業者の之を迎ふる事冷淡にして終に成立するに至らず、爾來選種栽培の乾燥等各項に涉り極力獎勵し益々産業の改善を絶叫せしも依然其の効果

を収むるに至らざりき。此の時に於て全國産米改良の趨勢を見るに近江米同業組合を始め縣營事業として大分、岡山、鹿兒島、富山、石川、青森、秋田、三重の各縣は、米穀検査を施行し着々其の成績を擧げつゝありて獨り本縣のみ晏如たるを許さざる情勢に立ち至れり、茲に於て根本的の改良を計るには米穀検査の施行の必要を認め、明治三十九年通常縣會に米穀検査費二万二千圓を提案し其の協賛を経たるを以て検査規則を草し縣農會に諮問し翌四十年三月縣令を以て米穀検査規則を發布し一面諸種の機關を通じ生産の改良を奨励したるに極めて順調に經過し、縣内外の市場に於て聲價を昂め防長米を凌駕するに至りたるのみならず、兵阪市場に於て米界の王座を占め二十年の長きに亘りしに、大正の末期より昭和の初期に於て農村事情並諸種米穀事情の變遷に伴ひ聲價は墜落するに至れり。茲に於て縣は昭和四年検査制度の一部を改正し各種機關の連絡を緊密にし、生産改良の促進、検査の統制に努め聲價挽回に邁進したる結果、昭和五年に至り攝津標準米と同格の地位に恢復するを得たりと雖も、不幸其翌年昭和六年産米は甚しき異常天候と之れに伴ふ螟蟲の大被害に災せられ收穫の激減したるのみならず米質亦不良なるを免れざる等亦々聲價向上に一頓座を來すの止むなきに立至り、縣民の蒙むる損失實に大なるものありて農村疲弊の今日誠に憂慮に堪えざるものあるを以て、今後益々品種改良に努め其の他各種改良奨励を強張すると同時に検査の統一を期し尙販賣組織の合理化を計り更生の途を講じつゝあり

第二 麥検査の沿革

麥は本縣生産物中米に亞く重要物産にして其の額七十五万石に達し商品として賣買取引せらるゝもの四十五万石を下らず、而して其の品質、裸麥は種皮薄くして搗耗少く就中屋根裸の如きは色白く甘味強きため米の代用として關東方面に歡迎せられ小麥の如きも粒形肥大にして種皮薄く膠質粘氣に富み製粉並醬油の原料に適するを以て各府縣に需用せられつゝあり、特に裸麥の如きは遠く北海道方面に年額十四、五萬俵の移出を見つゝありたるも、由來本縣の産麥は品質優良なるに拘はらず調

製粗雜干燥不充分の爲め貯藏中腐敗を來たし又砂石の混入多く依裝も亦亂雜にして加ふるに容量不統一等の批難あり。

此の時に於て産麥の改良は肥前米麥同業組合及大和米穀同業組合に於て輸出検査を施行したるを初めとし明治四十五年には宮崎縣に於て縣令を以て一般雜穀の輸出検査を行ひ爾來時代の要求に促されて岡山、熊本、鹿兒島、茨木、栃木、埼玉、千葉、宮城、岩手、神奈川、京都、廣島、徳島、愛媛、佐賀、大分、宮崎、北海道等府縣營として生産或は移出の検査を實施するに至り隣縣岡山が検査前に於ては本縣小麥に比し一石參拾錢下位にありしが、却つて本縣産より四拾錢の高價に取引せられ部合七十錢方上位に進みたり

此の情勢に刺戟せられ本縣に於ても麥検査の緊切なるを認め、之れが準備として大正元年六月調査に着手し漸次氣運の進行すると同時に一部尙早論者なきにあらざりしも、縣下東西の穀物業者は検査の施行を知事若しくは縣會に開申し大正三年知事は縣農會に諮問したる結果調査員を囑託し東京神戸の兩市場及岡山外先進數縣の状況を調査せしめたるに少くとも輸出検査施行の急なるを認め、茲に於て大正五年の通常縣會に麥の移出検査施行の豫算四千四百五十六圓を提出し協賛を得六年産麥より之れを施行するの運びに至れり、而し検査は裸麥は四斗、小麥は四斗四升入りとし品質乾燥調製に付き品位を三等級に分ちたり、爾後當業者の理解に依り取引上の信用を昂め市價年次向上を來たすの傾向となれり

然れ共農家の思想未だ舊套を脱せず検査の等級賣買に利用するの觀念に乏しくして、價格の如何を考慮せず生産季節に賣急ぎ乾燥調製不良のもの尠からず容量亦區々にして依裝の如き縦繩を施さざるもの大部分を占め、偶々依量を重くするの弊風を助長し之れが爲め市場の批難を招き動もすれば聲價を傷けんとするの傾向を呈し、取引上不利不便を訴ふるに至り爾來縣は數年に亘り生産検査施行上の利害につき調査を遂げたり、尙又農家に於ても次第に販賣に對する理解を得従つて改良に對する熱心を加へ、麥の生産検査を施行せば改良上の利益は、主として中産以下の農家に歸する所以なるを諒解し、農家經濟益々窮乏を告げ農村振興の一日も忽諸に附すべからざる際なるに鑑み、速に之が實施をなし生産家の利益増進を計るの必要

に迫られ、輿論の趨向は明に縣の調査に共鳴し來たり、尙農業倉庫の發達と相呼應し各郡市農會、農業倉庫聯合會米穀業者大會等各方面より生産検査實施方の陳情となり、遂に大正十三年之が所要經費七千六百十五圓を縣會に提案し、滿場一致之れが可決を見るに至れり、然りと雖も検査は漸進的方針の下に希望検査を布き等級は移出検査に準據せしめ、一俵の容量は正味十六貫とし氏名札を附着すること依裝は米の空俵を再用することを認め、重量は一貫三百匁を標準とし輸出検査の依裝に準せしむるも縦繩は之を省略することを得せしむるの規程となし、根本の生産改良を極力奨励したる結果生産高の約四割の検査數を示し聲價向上の大に見るべきものありたるも、如何にせん風袋量の統一至難正味量の區々にして取引上の迅速と圓滿を缺き容量取引が重量取引となりたる結果、一部瓦石を混する者あるに至り市場非難の聲高まるに至れり

茲に於て縣は生産強制検査を郡市町村並農會に諮問せしに之を必要なりとする回答大多數を得たり、依つて昭和三年縣會に豫算一万七千九百圓を提出し協賛を経て多年の懸案たりし麥生産検査も本格に入り四年産麥より實施せしに内容量の正確なるが故を以て縣の内外を通じ産米と同じく檢斤の繁鎖を省きインボイス取引行はれ益々信用を高め、最近に於ける販路の如きも裸麥に於て一道三府二十一縣に跨り小麥は兵庫、岡山、和歌山、愛媛等二府十六縣に及ぶの外裸麥小麥共遠く台灣、朝鮮に移出せらるゝ等頗る順調の経過を辿りつゝあり

第二編 検査の機關

第一 穀物検査規則の改廢

本縣の穀物検査は明治四十年産米より開始し同年三月米穀検査規則を制定し爾來米券倉庫設立に伴ひ之れが入庫米穀検査規

則及麥検査規則の制定或は廢止分合等時代の變遷に伴ひ機宜の處置を取り現在に及べり

改正年月日	縣令番號	主 要 事 項
明治四十年三月十七日	二二	米穀検査規則發布 (知事 小野田元瀨)
明治四十一年九月八日	七七	米穀検査規則中改正 一 精米ノ依裝縦繩ノ上ニ用ユル横繩ハ紫色ト爲スヘシ 明治四十一年十月一日ヨリ實施 (知事 小野田元瀨)
明治四十二年九月二十日	五三	米穀検査規則中改正 一 生産検査ノ證書又ハ證明アル産米ニ非サレハ受又ハ渡スコトヲ得ストアルヲ生産検査ノ産米ニ非サレハ受又渡スコトヲ得スニ改ム 一 生産検査不合格米ニハ依裝面ニ朱肉ニテフ印ノミ押捺セシヲ鼠色證書紙ヲ發付ルニトニ改ム (知事 小野田元瀨)
明治四十三年十月九日	五〇	米券倉庫入庫米検査規則發布 (知事 鹿子木小五郎)
明治四十三年十月十二日	五一	米穀検査規則中改正 一 米券倉庫入庫米ニ對シ入庫米検査規則ニ依り輸出検査ヲ受クルコトヲ得 一 近時本縣産米ノ聲價昇進シタル爲縣外輸入米ニ對シ本縣産米ト同様ノ依裝ヲナシ本縣米穀検査規則第十條ニ依ル證書紙類似ノ紙片ヲ施用シテ販賣スルモノアリ之レカ取締上左ノ一項ヲ加フ 一 縣外ノ米穀ニ第十條ノ證書紙類似ノ票紙ヲ貼付シ又ハ貼付シタルモノヲ縣外ヨリ輸入シ若ハ縣外ニ輸出スルコトヲ得ス (知事 鹿子木小五郎)
明治四十五年四月二十日	三四	米穀検査規則中改正 左ノ場合ハ検査手数料ヲ免除スルコトニ改ム 一 第三條第三項ニ依り再検査(検査後六十日ヲ經過シタル場合)ヲ受ケントスルモノ及米券倉庫入庫米検査規則ニ依ル輸出検査ヲ受ケントスルモノ (知事 鹿子木小五郎)
明治四十五年四月二十日	三五	米券倉庫入庫米検査規則中改正 (知事 鹿子木小五郎)

明治四十五年七月二十日 五五

一 第二條第一號中他人ノ寄托ヲ受ケテ「米」ノ保管ヲ爲シトアルヲ「玄米」ニ改ム
一 第五條（手数料ノ條文）削除
米穀検査規則中改正
（知事 鹿子木小五郎）

大正元年十二月二十五日 三二

一 生産者ノ氏名札ハ白紙ニ所定ノ事項ヲ記入シ俵ニ挿入スル規定ナルヲ氏名札ハ厚紙製ノ荷札式ニ改メ俵口カカリニ附着セシムコトニ改ム
一 俵裝ニ用ユル縦幅ハ一寸以上ノ規定ナルモノヲ一寸以上一寸二分以内ニ改ム
一 明治四十五年十月一日ヨリ施行
米穀検査規則中改正
（知事 鹿子木小五郎）

大正三年一月七日 一

一 大正元年産米ハ非常ノ災害ヲ受ケ品質ヲ損傷シ貯蔵ヲ減少シタルヲ以テ輸出検査合格等級中ニ等外米ノ一級ヲ設置ス
米穀検査規則中改正
（知事 鹿子木小五郎）

大正四年九月十八日 三四

一 精米ニ眼リ外俵ニ換フルニ當リ以テシ又ハ外俵ノ上ニ積ヲ施スコトヲ得
重畳ハ二百五十匁乃至四百匁トス
米穀検査規則中改正
（知事 若林 資藏）

大正五年四月二十二日 一三

一 從來輸出検査等級ハ三階級ナリシヲ玄米ヲ大粒小粒ニ区分シ大粒ヲ一等二等ニ小粒ヲ一等二等ニ区分スルコトニ改ム（大粒等級増設）大正四年産米ヨリ實施
一 玄米ニ在リテハ五月一日ヨリ七月末日迄ハ米穀検査員ノ認定ニ依リ四斗三合ニ充タサルトキハ定額ヲ缺クモノト看做ス（新設）
米穀検査規則中改正
（知事 若林 資藏）

大正五年五月七日 一四

一 大正四年産米ハ風害ヲ受ケ收穫減少シタルヲ以テ輸出検査等級中ニ等外ノ一級ヲ増設
米券倉庫入庫検査規則發布
（知事 若林 資藏）

大正五年五月十八日 一六

米穀検査規則中改正
（知事 若林 資藏）

大正五年十一月十七日 三六

一 古米（生産ノ翌年）十二月一日以後ニハ俵面ニ古印ヲ押捺ス
米穀検査規則中改正
（知事 若林 資藏）

大正六年三月二十七日 一四

輸出玄米検査證書紙ノ色別悉ヒ易キヲ以テ様式第三號中玄米ニ等米用大粒ハ青色トアルヲ「濃綠色」ニ等米用大粒ハ白紙ノ中央ニ幅二分ノ赤線ヲ小粒ハ黄色トアルヲ「濃綠色紙小粒ハ赤紙ノ各中央ノ幅三分ノ藍色線」ニ改ム
米穀検査規則中改正
（知事 坂田 幹太）

大正六年五月二十五日 二六

一 農業倉庫入庫再検査等外品ハ手数料免除
麥検査規則發布（輸出検査）
輸出検査開始大正六年六月一日ヨリ實施
（知事 坂田 幹太）

大正六年五月三十一日 二八

米穀検査規則中改正
一 米穀検査規則中輸出検査所又ハ米穀輸出検査所トアルヲ穀物輸出検査所ニ生産検査員トアルヲ穀物生産検査員ニ米穀検査員又ハ吏員トアルヲ穀物検査員ニ改ム
（知事 坂田 幹太）

大正六年六月十四日 三一

米券倉庫入庫米穀検査規則發布
一 米券共通ニ改ム（明治四十三年十月香川縣令第五十號米券倉庫入庫米穀検査規則ヲ廢止ス）
（知事 坂田 幹太）

大正七年五月三日 三一

米穀検査規則中改正
一 不合格米ノ輸出禁止ヲ解除
（知事 坂田 幹太）

大正七年五月二十三日 三二

米穀検査規則中改正
一 農業倉庫業法實施ニ伴ヒ從來ノ米券倉庫ノ名稱ヲ農業倉庫ニ改ム
（知事 坂田 幹太）

同年 同月 四日 三三

麥検査規則中改正
（知事 坂田 幹太）

- 大正七年 五月二十四日 三五 一 農業倉庫業法實施ニ伴ヒ從來ノ米券倉庫ノ名稱ヲ農業倉庫ニ改ム
（知事 坂田 幹太）
- 大正九年 五月一日 二六 一 農業倉庫入庫米券検査規則發布
一 從來ノ米券倉庫入庫米券検査規則廢止
（知事 佐竹 義文）
- 大正九年 五月一日 二六 二 米券検査規則改正
一 縦繩ハ一筋三方又ハ四方掛トアルヲ小麥ハ一筋三方掛裸麥ハ一筋四方掛トス
一 検査日附印ハ數字ニテ丸形ノ印ヲ押捺スルコトニ改ム
（知事 佐竹 義文）
- 同 上 二七 一 米券検査規則中改正
一 封緘紙ヲ廢止シ證券紙ヲ米券共通ニナス
一 検査日附印ハ數字ニテ丸形ノ印ヲ押捺スルコトニ改ム
一 大正九年産米ヨリ實施
（知事 佐竹 義文）
- 大正十年 八月四日 五二 一 麥検査規則中改正
一 第三條第一項ニ左ノ但書及二項ヲ加フ
一 但シ天災ノ爲メ麥ノ品質ヲ損シタル場合ニ於テハ特ニ四等ノ等級ヲ設ケタルコトアルヘシ
前項但書ノ施行期間ハ告示ヲ以テ定ム
（知事 佐竹 義文）
- 大正十年 九月十八日 五五 一 米穀検査規則中改正
一 精米ニ限リ二斗入袋米ヲ認メ俵米同様ノ手数料ヲ徵收
一 縣外米再輸出ニハ輸出ノ際届出シメ俵米タルト袋入タルト問ハス第八號（縣外米）ノ印ヲ押捺ス
（知事 佐竹 義文）
- 大正十一年 二月二十六日 七 一 米穀検査規則及麥検査規則中改正
一 生産検査ニ於ケル調製ノ再調ハ命令ヲ獎勵ニ改ム
一 俵裝ト容量ハ絕對ノモノニ付中止トス
（知事 佐竹 義文）
- 大正十三年 九月二十日 六〇 一 米穀検査規則中改正
一 從來輸出検査等外米券ニハ手数料免除シ居レルモ大正十一年四月一日ヨリ各等級同様手数料ヲ徵收スルコトニ改ム
（知事 淺利 三朗）

- 大正十三年 十二月二日 六五 一 本縣内ニ於テ精白シ縣外産タル證券ナキモノハ之ヲ本縣産米ト看做ス
一 精米ニ四等ノ一級ヲ増設
一 大正十三年十月一日ヨリ之ヲ施行
（知事 淺利 三朗）
- 大正十四年 五月八日 一四 一 麥検査規則中改正
一 大正十三年産米ニ限リ旱害ノ爲メ耕作反別ノ二分ノ一ヲ越ユル面積ノ收穫力平年作ノ七割以上減少シタルモノハ當該耕作者ノ希望ニヨリ生産検査ヲ免除ス
（知事 淺利 三朗）
- 大正十四年 十二月二十九日 六一 一 米穀（麥）検査規則中改正
一 從來移出検査ノ證印ハ黒星點ヲ以テ表示セシカ輪刺附（肉色大粒ハ青其他ハ赤色）ニ改ム
一 大正十五年三月一日ヨリ實施
（知事 淺利 三朗）
- 大正十五年 六月二十五日 三三 一 穀物検査規則制定
（知事 淺利 三朗）

大 要 事 項

- 一 米穀検査規則ト麥検査規則ヲ統一シテ穀物検査規則ト改稱
- 一 検査免除ニ關スル事項ヲ規定シタルコト
- 一 生産合格米ニ對シ生産者ノ希望ニ依リ等級検査（甲、乙、丙、格外）ヲ施行
- 一 検査等級ノ外ニ豫備等級ヲ設ケタルコト
- 一 検査中止ノ場合ニ於ケル有効期間ヲ設ケタルコト
- 一 検査等級決定ニ異議アル場合再検査ノ途ヲ設ケタルコト
- 一 證券紙再用ノ不正ナカラシムル爲メ検査済穀物ヲ解裝シタル者ハ直チニ其證券紙ヲ破棄セシムルコト
- 一 見刺ノ寸法ヲ制限シタルコト
- 一 運送及屋外放置ノ場合ニ對スル取締ノ道ヲ設ケタルコト
- 一 未成年者法人ノ處罰ニ關スル規定ヲ設ケタルコト

大正十五年十月六日

一三三

一 農業倉庫ニ入庫スル穀物ハ生産検査ヲ省略スルコトヲ得
農業倉庫入庫米麥検査規則廢止 (知事 三浦 實生)
一 農業倉庫法改正ニ依リ不備ノ點アリ尙農林課産業組合係ヨリ該規則ヲ包含セル新規則ヲ制定スルニ付廢止

昭和二年十一月十七日

七四

穀物検査規則中改正 (知事 元田 敏夫)
一 從來格外諸票紙ノ白色ヲ鼠色ニ改ム
一 昭和二年十月一日ヨリ施行

昭和四年五月四日

三八

穀物検査規則中改正 (知事 元田 敏夫)
大 要 事 項
一 昭和四年産麥ヨリ生産強制検査施行
一 玄米ノ移出検査等級中ニ四等ノ一階級増設
一 生産検査希望等級中ニ丁ノ一階級ヲ増設
一 寸法重量ヲメートル法ニ改ム
一 農業倉庫ニ入庫スル穀物ハ生産検査ヲ省略スルコトヲ得ルヲ削除
一 昭和四年六月一日ヨリ之ヲ施行

第二 現行穀物検査規則

第一條 本則ニ於テ穀物ト稱スルハ玄米、精米、小麥及裸麥(精麥ヲ含マス)ヲ謂ヒ受渡ト稱スルハ賣買、交換、贈與、貸借、辨濟、擔保、寄托又ハ小作料納入ノ爲メノ受渡ヲ謂フ

第二條 本縣内ニ於テ生産シタル穀物ヲ本縣内ニ於テ受渡シ又ハ本縣外ニ移出セムトスル者ハ本則ニ依リ之カ検査ヲ受クヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一、規定ノ容量又ハ重量ニ滿タサルモノ

二、博覽會、共進會又ハ品評會等ニ出品スルモノ

三、學術研究用ニ供スルモノ又ハ自家消費ノ爲他人ニ委託加工スルモノ

四、徵發若クハ強制執行ニ依リ受渡シ又ハ移出スルモノ

五、特別ノ事情在リテ穀物検査所長ノ認可ヲ經タルモノ

第三條 本縣外ヨリ移入シタル穀物ニシテ本縣内ニ於テ搗精シタルモノ及本縣外産タル證憑ナキモノハ總テ本縣内ニ於テ生産シタルモノト看做ス但シ外國産米、臺灣産米ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 検査ハ生産検査及移出検査ノ二種トス

生産検査ハ本縣内ニ於テ受渡スル玄米、小麥及裸麥ニ付之ヲ行ヒ其品位等級ヲ合格及格外ニ區別ス但検査申請者ノ希望ニ依リ甲乙丙丁及格外ニ區別スルコトヲ得

移出検査ハ本縣外ニ移出スル穀物ニ付之ヲ行ヒ其品位等級ヲ一等、二等、三等、四等、等外ニ區別ス但玄米ニ在リテハ大粒、小粒ヲ區分ス

農業倉庫ニ入庫スル穀物ハ入庫ノ際本則ニ依ル移出検査ヲ受クルコトヲ得

第五條 検査ハ穀物ノ品質、乾燥、調製、粒形、色澤、容量又ハ重量包裝ニ付穀物検査吏員之ヲ行フ

第六條 検査等級標準品ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 生産検査未済ノ玄米、小麥及裸麥ハ之ヲ受渡シスルコトヲ得ス移出検査未済ノ穀物ハ之ヲ本縣外ニ移出スルコトヲ得ス

第八條 検査ヲ受クヘキ穀物ノ一俵、一呎又ハ一袋ノ容量及重量ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一、玄米及精米ハ七二・一六リットル(四斗)トス
玄米ニ在リテハ五月一日ヨリ七月三十一日迄ハ七二・七リットル(四斗三合)ニ充タサルトキハ定量ヲ缺クモノト看做ス

精米ニシテ袋入ノモノハ三六・〇ハリットル(二斗)ト爲スコトヲ得

二、小麥及裸麥ハ正味六〇・〇キログラム(十六貫)トス

第九條 検査ヲ受クヘキ穀物ノ包装ハ二重俵トシ左ノ方法ニ依ルヘシ但精米、小麥及裸麥ノ包装ハ外俵ニ蒔ヲ用キ若クハ外俵ノ上ニ蒔ヲ施シ又精米ニハ袋小麥及裸麥ニハ俵ヲ用キルコトヲ得

米 ノ 包 裝

一、内俵ハ乾燥セル古藁ヲ用キテ四箇所編トシ重量ハ一・七キログラム乃至二・一キログラム(約四百五十匁乃至五百五十匁)トスルコト

二、外俵ハ乾燥セルソグリ藁ヲ用キテ四箇所編トシ重量ハ一・三キログラム乃至一・七キログラム(約三百五十匁乃至四百五十匁)トスルコト

精米ニ用フル蒔ハ乾燥セル藁ヲ以テ製シ重量ハ一・三キログラム乃至一・五キログラム(約三百五十匁乃至四百匁)トスルコト

三、棧俵ハ乾燥セル古藁ヲ用キ重量ハ一九〇グラム乃至三〇〇グラム(約五十匁乃至八十匁)トシ直径二七・センチメートル(約九寸)トスルコト

四、繩ハ能ク打柔ケタル藁ニテ絢ヒ擦掛ケト爲シ周三センチメートル乃至三・六センチメートル(約一寸乃至一寸二分)ニ仕立ツルコト

五、俵ノ口尻ハ内外俵ノ間ニ棧俵ヲ挿ミ周二・五センチメートル(約八分)ノ繩ヲ以テ脱粒ノ處ナキ様充分ニ際ルコト

六、横繩ハ五箇所各二廻結トシ中央ヲ稍細ク結束シ縦繩ハ二筋ニテ四方掛トシ中央横繩ヲ除キテ他ノ横繩ニ卷付俵口ニ於テ結束シ證票紙ヲ施スヘキ部分ヲ存シ尙中央横繩ノ上ヲ縦繩ノ上ヨリ更ニ二廻結トスルコト但精米ニ在リテハ縦繩ノ上ニ用キル横繩ヲ紫色ト爲スコト

七、一俵ノ風袋總重量ハ五・二五キログラム(一貫四百匁)以內トスルコト

八、精米ニ用フル袋ハ堅靱ナル綿布又ハ麻布ヲ用キ脱粒ノ處ナキ様縫合セ検査ヲ了シタル後口縫ヲ爲シ周三センチメートル(約一寸)ノ一筋繩ヲ以テ十文字ニ取り一方ヲ引掛ケ袋口ニ於テ結束シ證票紙ヲ施スヘキ部分ヲ存スルコト

小麥及裸麥ノ包裝

一、内俵、外俵、棧俵、口尻、横繩ハ米ノ包裝ニ準シ縦繩ハ周三センチメートル(約一寸)ニテ小麥ハ一筋三方掛裸麥ハ一筋四方掛トシ掛方ハ米包裝ニ準スルコト

二、一俵ノ風袋總重量ハ五・一キログラム(約一貫三百五十匁)以內トスルコト

三、俵ハ葦質良好ナルモノヲ用キ寸法ハ十九目全長一七六・センチメートル(約五尺八寸)巾七六・センチメートル(約二尺五寸)トス織方ハ縦繩ノ見エヌ様密ニ織リ重量ハ二・一キログラム(約五百五十匁)以上トシ仕立方ハ兩耳ニ周二・五センチメートル(約八分)ノ當繩ヲ施シ一針三・センチメートル(約一寸)縫トシテ尻ハ三・センチメートル(約一寸)折込ミ四ツ縫トシテ總テ口繩ハ三〇・センチメートル(約一尺)以上ヲ存置スルコト亦縦繩ハ二廻シ三箇所ト

シ横繩ハ二筋二箇所以上トシ各縦繩ニ卷キ付ケテ緊括シ中央縦繩ノ結止メニ證票紙ヲ施スヘキ部分ヲ存スルコト

四、検査ヲ受クル穀物ニシテ特殊ノ事情アルモノニ就テハ知事ノ許可ヲ經テ前項ニ依ラサルコトヲ得

第十條 検査ヲ受クヘキ穀物ニハ生産検査ニ在リテハ様式第一號甲ノ氏名札ヲ縦繩結止附近ノ騰繩ニ堅牢ニ附着シ移出検査

ニ在リテハ様式第一號乙ノ氏名札ヲ縦繩結止附近ニ其一端ヲ顯ハシテ挿入又ハ結付クヘシ

第十一條 穀物ノ検査ヲ受ケントスル者ハ書面又ハ口頭ヲ以テ左ノ事項ヲ移出検査ニ在リテハ移出地最寄ノ穀物移出検査所

又ハ町村勤務ノ移出検査員ニ生産検査ニ在リテハ現品所在地ノ穀物生産検査員ニ申請スヘシ

一、受檢者ノ住所氏名

二、種別（玄米、精米、小麦、裸麥ノ區別）及依數袋數又ハ噸數

三、現品所在地

四、移出検査ニ在リテハ其ノ生産年別及移出先

本縣外ニ移出セサル穀物ト雖之ヲ海上運送セントスル場合ハ前項ニ準シ最寄穀物移出検査所又ハ穀物生産検査員ニ届出テ承認ヲ受クヘシ但シ五俵未満ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 生産検査ハ現品所在地ニ於テ移出検査ハ現品移出地及農業倉庫ニ於テ検査申請ノ順序ニ依リ之ヲ行フ但シ特別ノ

事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 移出検査ヲ受ケムトスル者ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ検査手数料ヲ納付スヘシ但シ第十九條ニ依リ再検査ヲ受

クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 検査ニハ検査申請人又ハ其代理人之ニ立會ヒ穀物検査吏員ノ指揮ニ從フヘシ

第十五條 生産検査ヲ行ヒタルトキハ其等級ニ應シテ様式第二號ノ證票紙ヲ縦繩結止ニ卷付ケ穀物検査吏員ノ検査ヲ押捺シ

且格外ノモノニハ依リ一端縦繩結止附近ニ様式第六號ノ證票紙ヲ押捺ス

第十六條 移出検査ヲ行ヒタルトキハ其等級ニ應シテ様式第三號ノ證票紙ヲ縦繩結止ニ卷付ケ穀物検査吏員ノ検査ヲ押捺シ

且包装ノ一端ニ様式第四號及第五號竝古米（生産ノ翌年十二月一日以後ノモノ）ニハ様式第八號ノ證票紙ヲ押捺ス

第十七條 第四條第四項ニ依リ検査ヲ受ケル穀物ハ前條ノ證票紙ヲ押捺セス

前項ノ穀物ヲ本縣外ニ移出セムトスルトキハ第十一條ニ準シ移出地最寄ノ穀物移出検査所ニ届出第十六條ノ検査證票紙ヲ受クヘシ

第十八條 穀物検査吏員検査ヲ行フニ際シ第八條又ハ第九條ニ適合セサルモノト認メタルトキハ其穀物ノ検査ハ之ヲ中止ス

前項ニ依リ検査ヲ中止シタルトキ十日以内ニ容量若クハ重量ヲ正シ又ハ包装ヲ改メ検査ヲ受クルニ非サレハ既ニ爲シタル其ノ検査申請ハ効力ヲ失フモノトス

第十九條 検査済ノ穀物ト雖左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ更ニ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ受渡シ又ハ本縣外ニ移出スルコトヲ得ス

一、包装ヲ破損シ又ハ改装シタルモノ

二、検査證票紙不明瞭トナリタルモノ

三、證票紙ヲ毀損シ若クハ亡失シタルモノ

四、腐敗、變質、減量シ又ハ虫害鼠害ヲ受ケタルモノ

移出検査済ノ穀物ニシテ検査後玄米ハ六十日精米、小麦及裸麥ハ三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ本縣外ニ移出スルコトヲ得ス但シ玄米、小麦及裸麥ハ十一月一日ヨリ翌年四月三十日迄ノ間ニ於テ移出検査ヲ受ケ其ノ期間内ニ移出スルモノ及等外品ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 穀物検査吏員ニ於テ必要アリト認ムルトキハ検査済穀物ニ付再検査ヲ行フコトアルヘシ

第二十一條 検査ノ等級決定ニ異議アル者ハ其検査ヲ終了シタル翌日ヨリ起算シ十日以内ニ生産検査ニ在リテハ所轄穀物検査出張所ニ移出検査ニ在リテハ所轄穀物検査出張所ヲ經テ穀物検査所長ニ書面又ハ口頭ヲ以テ再検査ヲ請求スルコトヲ

查出張所ニ移出検査ニ在リテハ所轄穀物検査出張所ヲ經テ穀物検査所長ニ書面又ハ口頭ヲ以テ再検査ヲ請求スルコトヲ

一五

得

第二十二條 本縣外ヨリ米穀ヲ移入シタル者ハ現品到着後直ニ移入地ノ最寄穀物移出検査所ニ届出ツヘシ

本縣外ヨリ移入シタル米穀ヲ更ニ本縣外ニ移出セムトスル者ハ移出地ノ最寄穀物移出検査所ニ届出ツヘシ

本縣外ヨリ移入シタル米穀ニ對シテハ各包装面ニ様式第七號ノ證印ノ押捺ヲ受クヘシ但シ道府縣又ハ同組合其他ノ機關

ノ検査證印ノ押捺ノアルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 検査済穀物ヲ解装シタル者ハ直ニ證票紙ヲ破棄スヘシ

第十五條又ハ第十六條ノ證印ヲ押捺セル依ハ再ヒ之ヲ穀物ノ包装ニ使用スルコトヲ得ス但シ穀物検査吏員ニ於テ差支ナ

シト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 第十五條又ハ第十六條ノ證印證票紙等ニ類似セル文字徽票ヲ穀物ノ包装面ニ表示シ又ハ貼付スルコトヲ得ス

包装面ニ文字徽票ヲ記載シ又ハ押捺セムトスルモノハ其實形圖ヲ添ヘ最寄穀物移出検査所ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ知事

ハ此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 穀物検査吏員其ノ職務ヲ行フトキハ様式第九號ノ證票ヲ携帯スヘシ

第二十六條 穀物検査吏員ハ直接自己ノ利害ニ關係アル穀物ノ検査ヲ行フコトヲ得ス

第二十七條 検査済ノ穀物ニ長サ一尺周二寸ヲ越ユル見刺ヲ使用スルコトヲ得ス

検査済穀物ヲ抽出シタルトキハ直ニ之ヲ元包装内ニ返戻スヘシ

第二十八條 検査済穀物ニ水濕ヲ加ヘ又ハ其ノ容量若クハ重量ヲ増減變更スルコトヲ得ス

検査済穀物ハ降雨雪中ニ運送シ又ハ之ヲ屋外ニ置クトキハ土砂ノ混入ナカラシムルハ勿論濕氣ノ滲透ヲ豫防スヘキ相當

ノ設備ヲ爲スヘシ

第二十九條 穀物検査吏員又ハ警察官吏ニ於テ本則ニ違反ノ事實アリト認ムルトキハ穀物ノ解装又ハ運送ノ停止ヲ命スルコ

トアルヘシ

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一、第七條、第十一條第二項、第十七條第二項、第十九條、第二十二條、第二十四條第一項第二項前段、第二十七條又

ハ第二十八條ニ違反シタル者

二、第二十條ノ検査ヲ拒ミ又ハ第二十四條第二項後段若クハ第二十九條ノ命令ニ従ハサル者

三、検査ヲ免カルル爲メ不正ノ手段ヲ用ヒタルモノ

四、穀物ノ包装内ニ瓦石等ヲ混シ又ハ検査後氏名札ヲ取替ヘタルモノ其他不正ノ手段ヲ行ヒタルモノ

第三十一條 代理人家族同居人雇人其ノ他ノ従業者ノ行爲ニシテ本則ノ規定ニ違反シタル場合ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故

ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者、未成年者又ハ禁治産者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關

シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニアラス

附 則

第三十二條 本則ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第二項但書ノ生産検査ニ限り大正十五年度産米ヨリ之ヲ

適用ス

第三十三條 明治四十二年九月縣令第五十三號米穀検査規則大正六年五月縣令第二十六號麥検査規則ハ本則施行ノ日ヨリ之

ヲ廢止ス

昭和四年五月四日香川縣令第三八號附則

第九號 (白色紙)



第八號 (肉色赤)



第七號 (肉色赤)



第六號 (肉色赤)



第五號

(肉色大粒ハ青其他ハ赤袋入ハ各寸法ヲ半減ス)

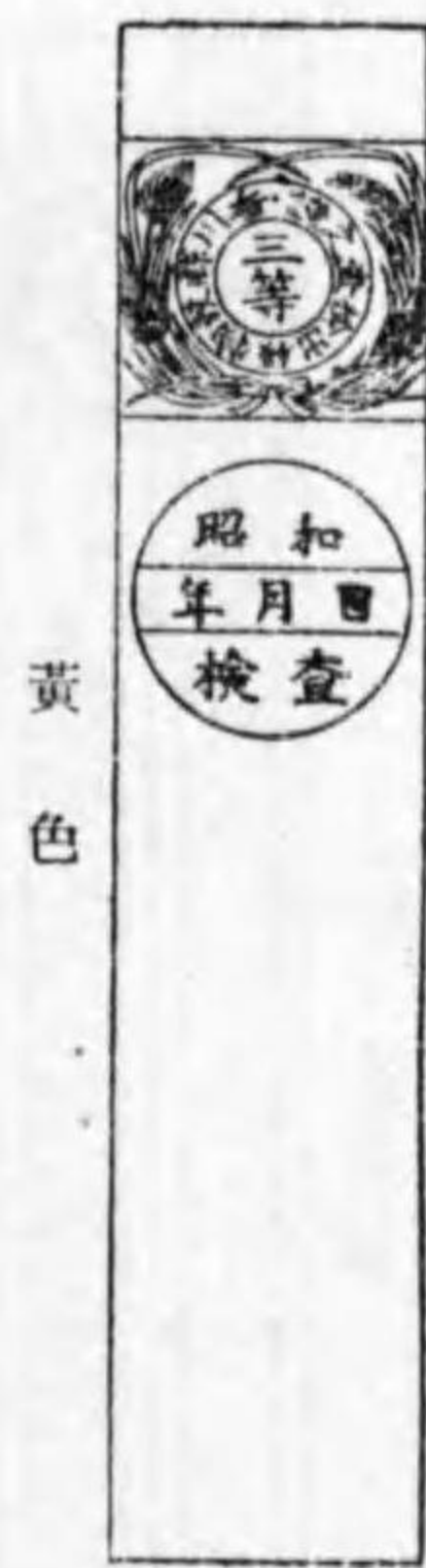


第四號

(肉色大粒ハ青其他ハ赤)



白地二五ミリメートル鼠色線



黄色



赤色

小粒其他



白地二四ミリメートルノ青色二線



白色



白二五ミリメートル赤色二線



白地二三ミリメートルノ青色四線

90 ミリメートル

第 號 氏 名
香川縣穀物検査吏員之證
昭和 年 月 日
縣 印

60 ミリメートル

香川縣告示第三百九十一號（沿革昭和四年五月告示第二七三號）
穀物検査施行手續左ノ通定ム

大正十五年六月廿六日

香川縣知事 淺 利 三 朗

穀物検査施行手續

- 第一條 穀物検査規則ニ依ル検査ハ本手續ニ依リ施行スヘシ
- 第二條 生産検査ハ現品所在地ニ於テ移出検査ハ移出地及農業倉庫ニ於テ之ヲ行フヘシ
検査ハ日出前日没後又ハ光線充分ナラサル場所若クハ依積ノ儘行フコトヲ得ス
- 第三條 検査ハ左ノ各號ノ事項ヲ調査シタル後之ヲ行フヘシ
 - 一、現品ト届出數トノ正否
 - 二、氏名札ノ適否

三、移出検査ノ場合ハ生産検査ノ有無
前項各號ノ事項ヲ調査シ不備ノモノアルトキハ其ノモノノ検査ハ検査申請人ニ於テ不備ノ點ヲ改ムル迄検査ニ着手スル

第四條 検査ヲ受クヘキ穀物ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
コトヲ得ス移出検査手續料ハ受檢俵（袋）數ニ相當スル收入證紙ヲ届書又ハ口頭受付票ニ貼付セシムヘシ

- 一、乾燥ヲ良好ナラシムヘシ
- 二、形狀及品質ヲ齊一ニシ異形異質ノモノヲ混入スヘカラサルハ勿論産年度ヲ異ニスル穀物ヲ混合スヘカラス
- 三、調製ニ注意シ玄米ニ在リテハ土砂、塵埃、粃、屑米、碎米ヲ除去シ精米ニアリテハ此ノ他糠、石粉等ノ附着ヲ少カラシムヘク小麦及裸麥ニ在リテハ土砂、芒、稗、屑麥其他夾雜物ヲ除去スヘシ

第五條 検査ハ見刺ヲ用ヒ每俵ニケ所以上ヲ検査シ抽出シタル穀物ハ其俵ニ刺戻スヘシ

第六條 乾燥、調製、形狀、品質、色澤及包装ノ検査ハ肉眼又ハ藥品鑑定ニ依リ容量及重量ノ検査ハ左記各號ニ依リ之ヲ行フ

- 一、玄米、小麦及裸麥ニ在リテハ受檢俵數二十俵迄ハ一俵以上五十俵迄ハ二俵以上百俵以上ハ五十俵又ハ其端數ヲ増ス每ニ一俵以上ヲ加ヘ之ヲ行フ
 - 二、精米ニ在リテハ受檢俵（袋）數百俵迄ハ一俵以上百俵又ハ其端數ヲ加フル每ニ一俵以上ヲ加ヘ之ヲ行フ
 - 三、包装、毀損又ハ輕俵等特ニ容量又ハ重量不足ノ疑アルモノハ別ニ検査ヲ行フヘシ
- 前項ノ検査ニ於テ容量又ハ重量ノ正シカラサルモノアルトキハ其ノモノノ検査ヲ中止シ容量又ハ重量ヲ正シタル後更ニ検査ヲ行フヘシ但シ不足量ヲ補充スルニハ同形同質ノモノヲ以テセシムヘシ
- 前項ノ場合ニハ當該吏員ニ於テ實地ヲ監督スルコトアルヘシ

第七條 包裝ハ圖示スル様式ニ據ラシムヘシ

第八條 生産検査ハ第四條及穀物検査規則第八條、第九條ニ適合スルモノヲ合格トシ其他ヲ格外トス但シ等級區分ヲ要スル

モノハ移出検査等級區分ニ準シ甲ハ一等乙ハ二等丙ハ三等丁ハ四等ヲ適用ス

移出検査ノ等級ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

一等 乾燥、調製、形狀及品質、色澤精米ニ在リテハ此ノ他搗度ノ優良ナルモノ

二等 乾燥良好ニシテ調製、形狀及品質色澤精米ニ在リテハ此ノ他搗度ノ一等ニ次クモノ

三等 二等ニ次クモノ

四等 三等ニ次クモノ

等外 四等ニ次クモノ

産年ノ異ナルモノ又ハ縣外産米ヲ混入セシ疑アル玄米若クハ外國産米、臺灣産米ヲ混入セシ疑アル精米ハ検査等級ヲ低

下シ若クハ検査ヲ拒絶スルコトアルヘシ

第九條 検査済ノ穀物ニハ直ニ穀物検査規則第十五條又ハ第十六條ノ手續ヲ行フ

生産検査ニ合格シタルモノニシテ移出検査ニ於テ等外トナリタルモノハ検査吏員ニ於テ其合格證票紙ヲ破棄スヘシ

第十條 検査済ノ穀物ヲ更ニ検査シタルトキハ其成績カ前検査ト異ナル場合ハ證票紙及證印ヲ改ム

前項ノ場合ニ於テ證印ヲ取消ヲ要スルトキハ左記様式ノ消印ヲ其部ニ押捺ス

第十一條 穀物検査規則第二條但書第二號及第五號ニ依ル検査免除ノ穀物及第九條第四項ニ依ル届出ハ所轄穀物検査出張所

ヲ經由スルコトヲ要ス

第十二條 検査ニ際シ尙改善ノ餘地アリト認ムルモノハ受檢人ニ其旨ヲ諭シ再調セシムルコトアルヘシ

第十三條 穀物検査吏員ニ於テ穀物検査規則ニ照シ違反者ヲ告發セントスル時ハ充分ナル證憑ヲ蒐集シ直ニ其手續ヲ爲シ同

時ニ穀物検査所長ニ報告スヘシ但シ其異例ト認ムルモノハ告發前穀物検査所長ニ申告シ指揮ヲ受クヘシ

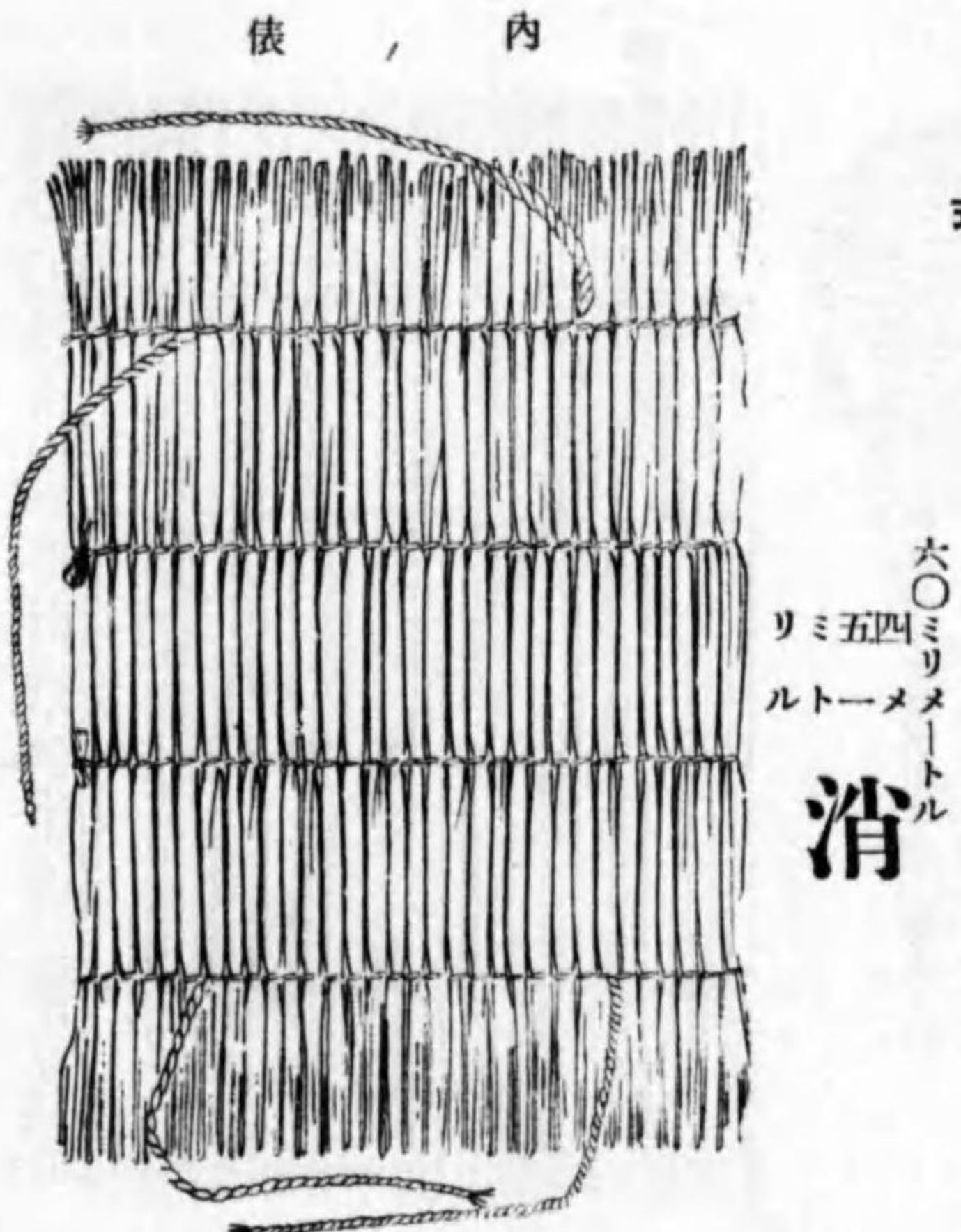
附 則

第十四條 本手續ハ穀物検査規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 明治四十年六月告示第二百五十七號米穀検査手續大正六年六月告示二百七十一號麥移出検査手續施行ノ日ヨリ之

ヲ廢止ス

樣 式



六〇ミリメートル
五四ミリメートル
消

乾燥セル古嚢ヲ用キ左ノ各項ニ依リテ四ヶ所編トナスヘシ

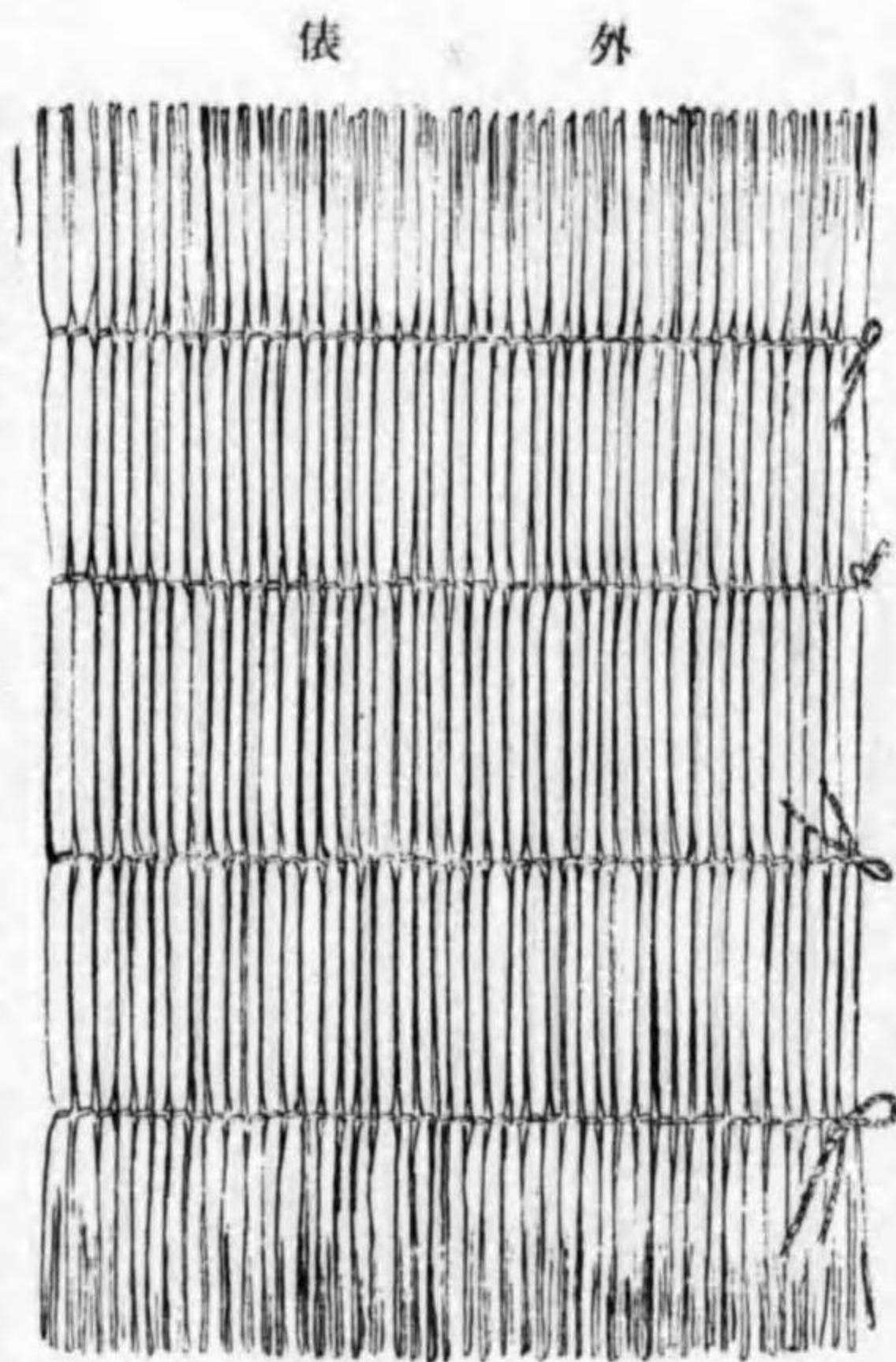
編 繩
九尋ヲ四ツ切リ

封 間
各一八センチメートル(約六寸)

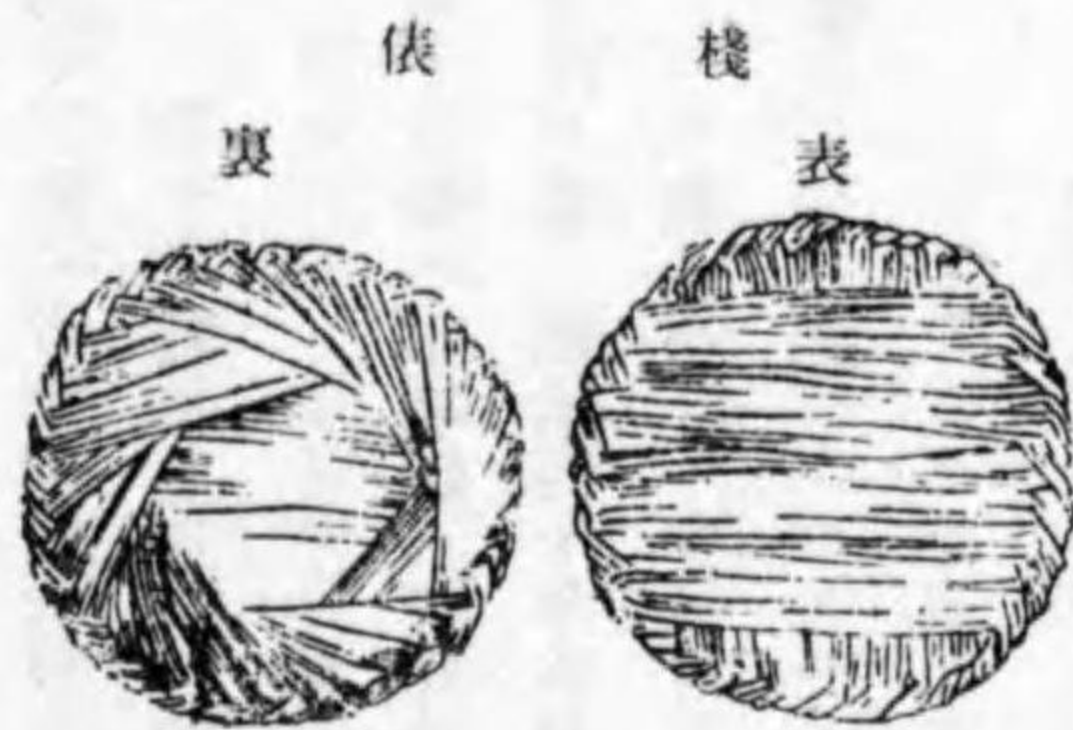
封 端
一五センチメートル(約五寸)

封 數
六十五内外

重 量
一、七キログラム乃至二、一キログラム(約四百五十匁乃至五百五十匁)



乾燥セル「ソグリ」薬ヲ用キ左ノ各項ニ依リテ四ヶ所編トナスヘシ
 編 繩
 九尋半ヲ四ツ切り
 封 間
 中央二センチメートル(約七寸)
 左右各一八センチメートル(約六寸)
 封 端
 一八センチメートル(約六寸)
 封 數
 八十五内外
 重 量
 一、三キログラム乃至一、七キログラム(約三百五十乃至四百十包) 一
 尋八一、五一五ミリメートル(五尺)



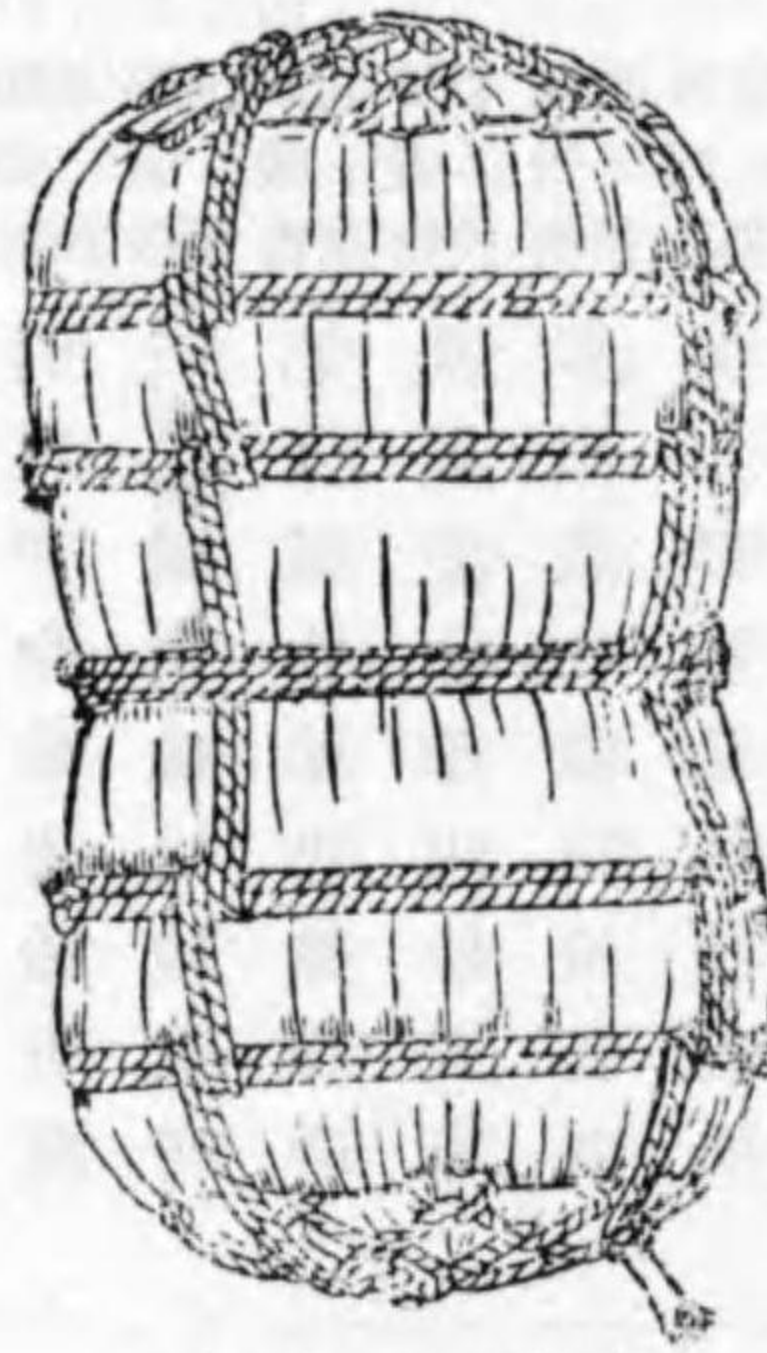
乾燥セル古薬ヲ用キ左ノ各項ニ依リ
 編成スヘシ
 直 徑
 二七センチメートル(約九寸)
 重 量
 一九〇グラム乃至三〇〇グラム
 (約五十乃至八十包)

方 括 ノ 尻 口

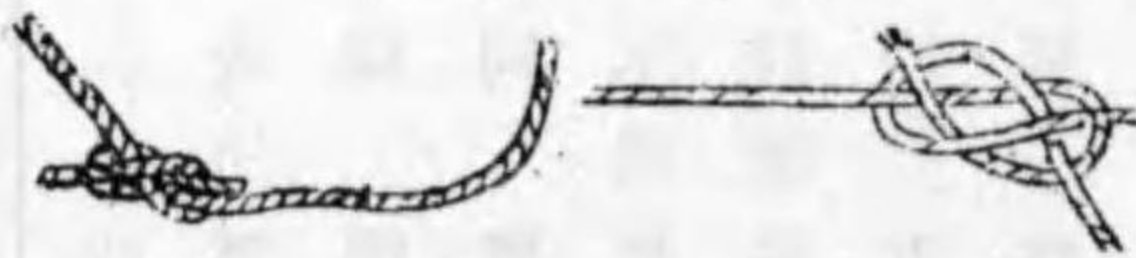


周リ二、五センチメートル(約八分) 以上ノ
 繩ヲ以テ外儀ノ兩端編繩ニ引掛ケ五寸越三
 寸ツ、ヲ糊ヒテ目貫トナシ且内外儀封端ノ
 間ニ棧儀ヲ挟ミ順次尻掛トシ三廻目ヨリ目
 ヲ飛シテ充分ニ緊括スヘシ

装 俵



方 結 ノ 繩 横



縦繩ハ周リ三センチメートル乃至三、六センチメートル(約一寸乃至一
 寸二分) トシ「ソグリ」薬ノ能ク打柔ケタルモノヲ用キテ編ヒ充分燃ヲ掛
 ケ且際掛トナスヘシ
 横繩ハ五ヶ所各二廻結トシ中央ヲ稍ヤ細ク結束スヘシ
 縦繩ハ二筋ニテ四方掛トシ中央横繩ヲ除キテ他ノ横繩ニ卷付繩端ハ俵口ニ
 於テ男結トシ卷付ヲ施スヘキ部分ヲ設ケ置キ中央横繩ノ上ハ更ニ一筋ニテ
 二廻結トナスヘシ

●香川縣告示第五百八十三號

穀物検査所出張所名稱位置及所轄區域並ニ穀物輸出検査所名稱位置左ノ通定ム

大正十二年十一月二十二日

穀物検査所出張所

香川縣知事 中 川 健 藏

沿 革

大正十五年七月告示第四〇四號
 昭和四年六月告示第三六五號
 昭和四年七月告示第四二八號

名	稱	位	置	所	轄	區	域
香川縣穀物検査所	大川郡出張所	大川郡	富田村	大川郡			

名	稱	位	置
香川縣穀物所 木田郡出張所	木田郡平井町	木田郡	
香川縣穀物所 小豆郡出張所	小豆郡土庄町	小豆郡	
香川縣穀物所 香川郡出張所	高松市	香川郡、高松市	
香川縣穀物所 綾歌郡出張所	綾歌郡坂出町	綾歌郡	
香川縣穀物所 仲多度郡出張所	仲多度郡善通寺町	仲多度郡、丸龜市	
香川縣穀物所 三豐郡出張所	三豐郡觀音寺町	三豐郡	

穀物輸出検査所

名	稱	位	置
香川縣穀物所 引田穀物輸出検査所	大川郡引田町	大川郡	
香川縣穀物所 三本松穀物輸出検査所	同郡三本松町	同郡	
香川縣穀物所 志度穀物輸出検査所	同郡志度町	同郡	
香川縣穀物所 奥鹿穀物輸出検査所	木田郡奥鹿村	木田郡	
香川縣穀物所 坂出穀物輸出検査所	綾歌郡坂出町	綾歌郡	
香川縣穀物所 美合穀物輸出検査所	同郡美合村	同郡	
香川縣穀物所 岡田穀物輸出検査所	同郡岡田村	同郡	

香川縣穀物所 多度津穀物輸出検査所	仲多度郡多度津町	
香川縣穀物所 琴平穀物輸出検査所	仲多度郡榎井村	
香川縣穀物所 觀音寺穀物輸出検査所	三豐郡觀音寺町	
香川縣穀物所 豐濱穀物輸出検査所	三豐郡豐濱町	
香川縣穀物所 吉津穀物輸出検査所	同郡吉津村	
香川縣穀物所 上高瀬穀物輸出検査所	同郡上高瀬村	
香川縣穀物所 財田穀物輸出検査所	同郡財田村	
香川縣穀物所 和田穀物輸出検査所	同郡和田村	
香川縣穀物所 本山穀物輸出検査所	三豐郡桑山村	
香川縣穀物所 高松穀物輸出検査所	高松市	
香川縣穀物所 丸龜穀物輸出検査所	丸龜市	
香川縣穀物所 金藏寺穀物輸出検査所	仲多度郡龍川村	

●香川縣告示第五百八十四號

町村勤務ノ検査員ヲシテ輸出検査ヲ行ハシムル町村ヲ左ノ通定ム
大正十二年十一月二十二日

沿革
大正十三年二月告示第一〇二號
大正十四年五月告示第一〇二號
昭和四年七月告示第一〇二號

香川縣知事 中 川 健 藏

大川郡 多和村、福榮村、五名村、津田町、松尾村、石田村、長尾町、造田村
 木田郡 庵治村、奥鹿村、下高岡村、平井町、古高松村、牟禮村、十河村
 小豆郡 土庄町、淵崎村、池田村、二生村、三都村、西村、草壁町、苗羽村、坂手村、安田村、福田村、大部村、北浦村、四海村、豐島村

香川郡 安原上西村、直島村、由佐村、川岡村、佛生山町、上笠居村、香西町、下笠居村
 綾歌郡 陶村、府中村、昭和村、松山村、王越村、林田村、川西村
 仲多度郡 七箇村、興島村、本島村、善通寺町、四箇村
 三豊郡 仁尾町、五郷村、財田大野村、莊内村、笠田村、下高瀬村、大見村、紀伊村、河内村、大野原村

●香川縣告示第百三十三號

大正六年三月三十日

沿革 大正十四年十月告示第七八五號
 昭和三年五月告示第二五二號
 昭和四年四月告示第二一九號

香川縣知事 坂 田 幹 太

郡名	検査部名	検査區名	區	城
大川郡	第一部	第一區	相生村、引田町、小海村	
		第二區	白島本町、白島村、三本松町	
		第三區	譽水村、丹生村	
		第四區	五名村、福榮村	
			富田村、石田村、松尾村	
			長尾町、多和村	
			造田村、神前村	
			津田村、鶴羽村、鴨部村	
			志度町、鴨庄村、小田村	
			奥鹿村、田中村大字小竇、井戸村、下高岡村	
			田中村大字朝倉、田中村字田中、水上村	
			東植田村、西植田村	
			牟禮村、庵治村	
			古高松村、屋島町	
			川添村、木太村、林村	
			三谷村、川島町	
			前田村、十河村、平井町	
			土庄町、淵崎村、大露村	
			池田町、二生村、三都村	
			西村、草壁町、安田村、苗羽村、坂手村	
			福田村、大部村、北浦村、四海村	
			豐島村	
			高松市	
			太田村、多肥村、佛生山町	
			譽田村、一宮村	
			大野村、淺野村、川東村	
			安原村、鹽ノ江村、安原上西村	

郡名	検査部名	検査區名	區
香川郡	第一部	第一區	相生村、引田町、小海村
		第二區	白島本町、白島村、三本松町
		第三區	譽水村、丹生村
		第四區	五名村、福榮村
			富田村、石田村、松尾村
			長尾町、多和村
			造田村、神前村
			津田村、鶴羽村、鴨部村
			志度町、鴨庄村、小田村
			奥鹿村、田中村大字小竇、井戸村、下高岡村
			田中村大字朝倉、田中村字田中、水上村
			東植田村、西植田村
			牟禮村、庵治村
			古高松村、屋島町
			川添村、木太村、林村
			三谷村、川島町
			前田村、十河村、平井町
			土庄町、淵崎村、大露村
			池田町、二生村、三都村
			西村、草壁町、安田村、苗羽村、坂手村
			福田村、大部村、北浦村、四海村
			豐島村
			高松市
			太田村、多肥村、佛生山町
			譽田村、一宮村
			大野村、淺野村、川東村
			安原村、鹽ノ江村、安原上西村

仲多度郡		綾歌郡				
第 二 部	第 一 部	第 四 部	第 三 部	第 二 部	第 一 部	第 三 部
第 六 區	第 五 區	第 四 區	第 三 區	第 二 區	第 一 區	第 九 區
南村、丸龜市 豐原村、龍川村 郡家村、奥北村、垂水村 奥島村、高見島村、本島村、廣島村、佐柳島村 高橋村、象郷村 琴平町、榎井村、神野村、吉野村、四條村	由佐村、池西村 川岡村、圓座村、槽紙村 弦打村、上笠原村、香西町、下笠原村 雌雄島村、直島村	陶村、昭和村 瀧宮村、羽床村、羽床上村 山田村、粉所村、西分村 宇多津町、川津村、坂本村 川西村、十器村、飯野村 法勤寺村、岡田村 栗熊村、富熊村 長原村、造田村、美合村 坂出町、金山村 林田村、西庄村 松山村、王越村 端岡村、山内村 加茂村、府中村	第 十 區	第 九 區	第 八 區	第 七 區

三 豐 郡					
第 四 部	第 三 部	第 二 部	第 一 部	第 三 部	
第 十 三 區	第 十 二 區	第 十 一 區	第 十 區	第 九 區	
仁尾町、莊内村、吉津村 詫間村、栗島村、下高瀬村、大見村 上高瀬村、勝間村 比地二村、比地大村、笠田村 桑山村、本山村、上高野村 觀音寺町、高室村、作田村 常磐村、一ノ谷村 二ノ宮村、麻村 神田村、財田村 財田大野村、河内村、辻村 粟井村、紀井村、豊田村 大野原村、萩原村、五郷村 豐濱町、和出村	十郷村、七箇村 白方村、多度津町、四箇村 吉原村、筆岡村 善通寺町	第 十 區	第 九 區	第 八 區	第 七 區

●香川縣令第二八號
穀物輸出檢査手数料收納規定左ノ通定ム
大正十年三月二十九日

香川縣知事 佐竹 義文

穀物輸出検査手数料収納規程

- 第一條 穀物輸出検査手数料ハ左ノ通之ヲ徴收ス但シ農業倉庫ニ入庫スル米ニ付テハ一俵ニ付三錢麥ニ付テハ一俵又ハ一呎ニ付二錢ヲ徴收ス
 - 米 一俵ニ付六錢但シ精米ニ斗袋入ハ一袋ニ付三錢
 - 麥 一俵又ハ一呎ニ付三錢
- 第二條 検査手数料ハ受檢ノ際收入證紙ヲ以テ納付スヘシ
收入證紙ハ様式第一號ノ形式ニ依リ之ヲ發行ス
- 第三條 検査手数料納付者ハ收入證紙ヲ受檢届又ハ口頭受付票ニ貼付シ検査員ニ提出スヘシ但シ損傷又ハ汚染シタル收入證紙ハ之ヲ貼付スルコトヲ得ス
前項ニ依リ検査員カ受領シタル收入證紙ハ之ヲ貼付シタル文書ト證紙ノ彩紋トニ掛ケ判明ニ消印ヲ爲シ其手数料額ヲ様式第二號ノ收納簿ニ記入スヘシ
- 第四條 收入證紙ハ検査施行地ノ市役所及町村役場並知事ノ指定シタル農業倉庫業者ニ於テ之ヲ賣捌ク
- 第五條 前條市役所及町村役場ノ收入證紙賣捌ニ關スル事務ハ其ノ市町村長之ヲ取扱フヘシ
縣ハ前項ノ事務取扱ノ費用トシテ其ノ賣捌金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付ス
- 第六條 検査施行地ノ市町村長ハ豫メ様式第三號ニ依リ收入證紙ノ交付ヲ知事ニ請求スヘシ
- 第七條 市町村長ハ毎月五日迄ニ様式第四號ニ依リ其ノ前月中ノ收入證紙ノ受拂及賣捌高ヲ知事ニ報告スヘシ
知事ハ前項ノ報告ニ依リ其ノ賣捌ノ内ヨリ市町村交付金ヲ控除シタル金額ノ納入告知書ヲ發スヘシ

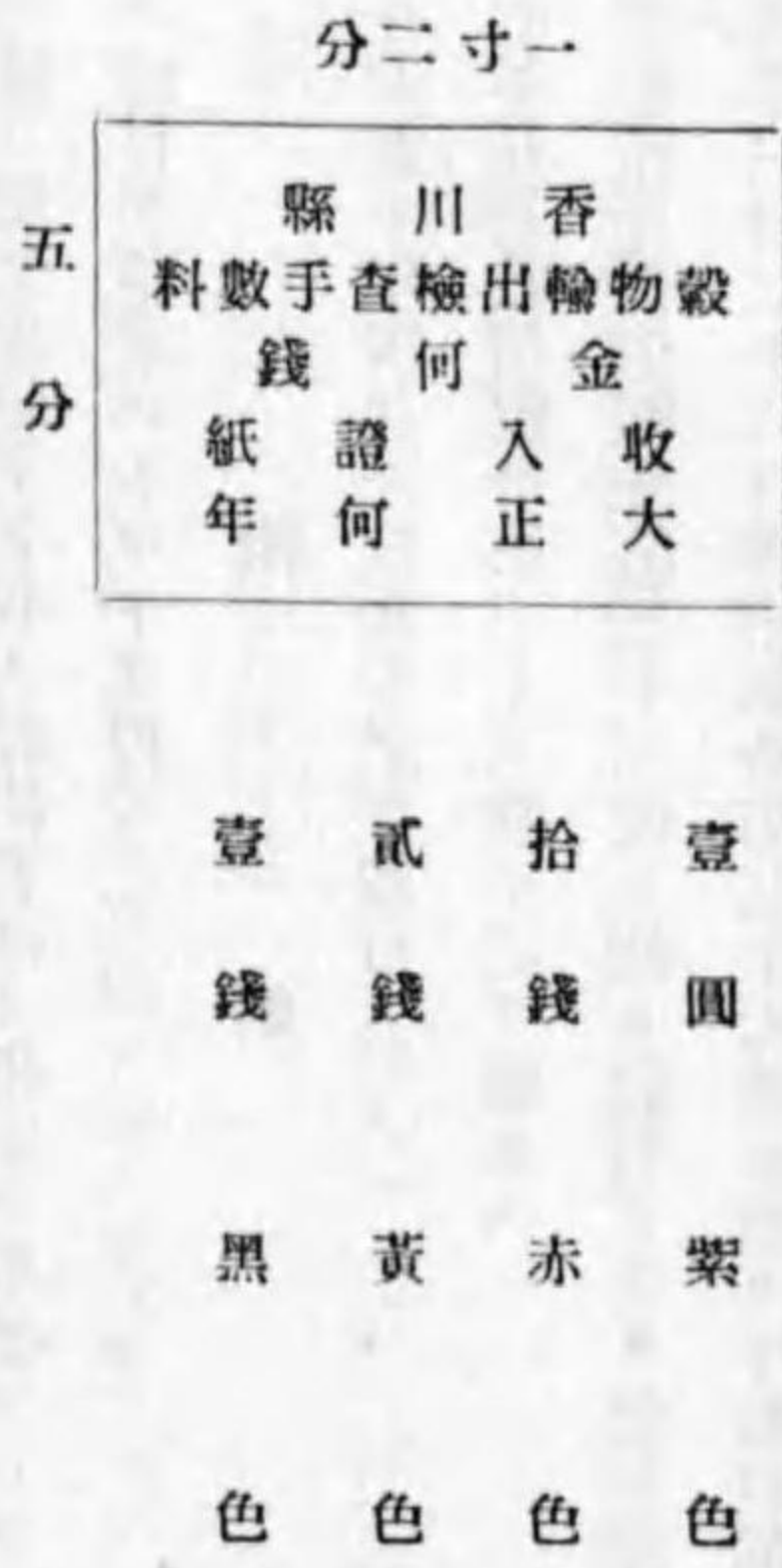


- 市町村長ハ前項ノ納入告知書ニ依リ賣捌代金ノ納入ト同時ニ之ニ對スル市町村交付金ヲ其ノ市町村ニ納入スヘシ
- 第八條 市町村長ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ收入證紙ノ受拂及其ノ代金ノ出納ヲ登記スヘシ
 - 一、穀物輸出検査手数料及證紙受拂簿（様式第五號）
 - 二、穀物輸出検査手数料及證紙代出納簿（様式第六號）
- 第九條 收入證紙賣捌ノ指定ヲ受ケタル農業倉庫業者カ其ノ賣捌ヲナサムトスルトキハ様式第七號ノ買受書ヲ知事ニ提出シ其ノ代金納入ノ上收入證紙ノ交付ヲ受クヘシ
縣ハ前項代金收入ノ際賣捌手数料トシテ其ノ金額ノ百分ノ四ヲ其ノ農業倉庫業者ニ交付ス
- 第十條 農業倉庫業者ノ納付シタル收入證紙ノ代金ハ第十二條ニ依ルノ外如何ナル事由アルモ之ヲ還付セス但シ避クヘカラサル事故ニ依リ損傷又ハ汚染シタル收入證紙ハ之カ交換ヲ求ムルコトヲ得
- 第十一條 收入證紙賣捌ノ指定ヲ受ケタル農業倉庫業者ハ様式第八號ノ標札ヲ戶外ニ掲クヘシ
- 第十二條 農業倉庫業者收入證紙賣捌ノ指定ヲ取消サレタル場合ニ於テハ現存セル收入證紙ハ之ヲ返還シ之ニ相當スル現金ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

附 則

- 本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 大正七年五月香川縣令第三十三號ハ之ヲ廢止ス
- 大正七年五月香川縣令第三十三號ニ據リ發行シタル領收證票ハ之ヲ本令ニ依リ發行シタル收入證紙ト看做ス
- 昭和四年三月二十六日香川縣令第二十七號ニ依リ手数料額改正ス

様式第一號



様式第二號

何年度 穀物輸出検査手数料收納簿
何穀物輸出検査所

月	累	日	月	月	摘要	手 數 料	計 額	備 考
計	計	計	日	日				
						壹錢證紙		
						貳錢證紙		
						拾錢證紙		
						壹圓證紙		
						合計金額		

備考

- 一、本簿八年度毎ニ調製スルモノトス但シ年度ヲ區分シテ累年使用スルモ妨ナシ
- 二、本簿ニハ日計及累計ヲ付シ月末ニ於テハ月計ヲモ附スヘシ
- 三、本簿ニハ米麥及農業倉庫入庫米ノ口座ヲ設ケ各別ニ記入整理スヘシ
- 四、摘要欄ニハ納人氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

様式第三號

種	壹	貳	拾	壹	計	知事宛		市町村长
						年	月	
類	錢	錢	錢	圓		穀物輸出検査手数料收入申請紙求書	日	
枚								
數								
金								
圓								
額								

様式第四號

知事宛		年月日		市町村長			
何年何月分穀物輸出検査手数料證紙受拂及賣捌高報告							
枚數	前月越	高	本月受	高	残高		
	壹錢	貳錢	拾錢	壹圓	壹錢	貳錢	拾錢
計金高	圓		圓		圓		
	賣捌高合計金何程		内金何程		差引金何程		
交付金控除高		縣へ納付高					

様式第五號

備考 一、本月受高ト縣ヨリ交付高ト符合セサル場合及本月拂高ト賣捌高合計金額ト符合セサル場合ハ其理由詳細附記スルヲ要ス

何年 度

穀物輸出検査手数料收入證紙受拂簿

郡市役所又ハ何町村役場

月日	摘要	受		拂		残		備考
		壹錢	貳錢	拾錢	壹圓	壹錢	貳錢	
累計								

備考

一、本簿ハ年度毎ニ調製スルモノトス但シ年度ヲ區分シテ累年使用スルモ妨ナシ

二、本簿ニハ月計及累計ヲ附スヘシ

様式第六號

何年 度

穀物輸出検査手数料收入證紙代出納簿

郡市役所又ハ何町村役場

月日	摘要	收入高	仕拂高	残高	備考

備考 一、本簿ハ年度毎ニ調製スルモノトス但シ年度ヲ區別シテ累年使用スルモ妨ナシ

- 第四條 所長ハ知事ノ命ヲ受ケ所務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス
- 第五條 技師技手及監督員ハ所長ノ指揮ヲ承ケ検査ヲ監督シ検査ヲ行ヒ兼テ所務ヲ掌ル
主事補ハ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ノ事務ニ従事ス
- 第六條 出張所及高松、丸龜輸出検査所ニ監督員一名ヲ配置シ其所務ヲ整理シ部下ノ職員ヲ指揮監督セシム
- 第七條 穀物検査所穀物輸出検査所ニ輸出検査員ヲ置キ所長監督員ノ指揮ヲ承ケ検査及改良獎勵ノ事務ニ従事セシム
必要ナル町村ニ輸出検査員ヲ置キ輸出検査ヲ行ハシムルコトアルヘシ前項ノ町村ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第八條 生産検査員ハ縣吏員ヲ以テ之ニ充テ市町村ニ勤務シ所長監督員ノ指揮ヲ承ケ生産検査及改良獎勵ノ事務ニ従事ス
- 第九條 検査出張所轄内ヲ部ニ部ヲ區ニ分ツ
- 第十條 検査出張所ニ生産検査員部長一名ヲ配置シ検査監督事務ヲ補助セシム但シ當分ノ内小豆ニハ生産検査員部長ヲ設置セス

附 則

生産検査員部長ハ技手又ハ輸出検査員ヲ以テ之ニ充ツ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ日現ニ所長、技師、技手、監督員、輸出検査員、生産検査員、主事補ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサル
トキハ各當該所長、技師、技手、監督員、輸出検査員、生産検査員、主事補ヲ命セラレタルモノト看做ス

●訓第二百六十三號

穀物検査所處務細則左ノ通り定ム

右訓令ス

内 務 部

大正八年十一月十三日

香川縣知事 佐 竹 義 文

穀物検査所處務細則

- 第一條 穀物検査所ニ於テ掌理スヘキ事項左ノ如シ
 - 一、米麥及其包装改良ニ關スル事項
 - 二、米麥ノ貯藏運送及販賣並ニ市況ニ關スル事項
 - 三、標準米麥ノ査定及配付ニ關スル事項
 - 四、検査ノ成績審査並ニ米鑑定ニ關スル事項
 - 五、穀物検査統計ニ關スル事項
 - 六、文書ノ編纂及保存ニ關スル事項
 - 七、其他穀物ノ検査及改良上必要ナル事項
- 第二條 左ニ掲クル事項ハ所長ヲシテ專決執行セシム但重要ト認ムル事項ハ此限ニアラス
 - 一、職員ノ事務分擔ヲ定ムルコト
 - 二、輸出検査所詰技手検査員ニ縣内出張ヲ命スルコト
 - 三、諸雇給、備品費、消耗品、通信運搬費、印刷費、雜費ノ豫算定額内ニ於ケル執行ヲ爲スコト
 - 四、出張所以下職員ノ病氣、忌引、除服、出仕、賜暇旅行等ニ關スル文書ノ決裁ヲ爲スコト
 - 五、検査ニ關スル報告處理ノコト

- 六、標準米麥ノ査定及米麥ノ鑑定ヲ爲スコト
- 七、検査ノ成績ヲ審査スルコト
- 八、検査ノ成績書其他印刷物ノ配付ヲ爲スコト
- 第三條 所長ハ職員ノ進退賞罰ニ關シ意見ヲ知事ニ具申スルコトヲ得
- 第四條 所長事故アルトキハ上席監督員其職務ヲ代理ス
- 第五條 出張所及輸出検査所監督員ハ配當豫算ノ範圍内ニ於テ一廉五圓以内ノ執行ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 出張所監督員ニ於テ輸出検査所詰技手及検査員ヲ召集セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 出張所監督員ハ所轄内ニ限り検査ノ爲メ輸出検査所詰技手検査員ヲ出張ヲ命スルコトヲ得
此場合ハ遲滞ナク出張ノ月日、地名事由氏名ヲ所長ニ報告スヘシ
- 第八條 出張所及輸出検査所監督員ハ所轄内職員ノ退職、就職勤務上ノ勉否素行等ニ付キ意見ヲ所長ニ内申スルコトヲ得
- 第九條 出張所監督員ハ毎年二月末日限り左ノ各項ノ調査ヲ爲シ所長ニ報告スヘシ
 - 一、新米ノ品質、乾燥、調製及收穫狀況竝ニ前年トノ比較
 - 二、改良ノ最モ良ク行ハレタル町村及其狀況
 - 三、改良ノ比較的行ハレサル町村及其狀況
 - 四、地主ニシテ最モ良ク小作ヲ愛撫シ農事改良ニ努メタルモノ及ヒ其狀況
 - 五、其他一般規則ノ施行ニ關スル狀況及ヒ意見
- 第十條 監督員ハ所轄内ニ於ケル米麥賣集散ノ狀況其他賣買ニ關スル當業者ノ意嚮等ニ注意シ隨時所長ニ報告スヘシ
- 第十一條 出張所監督員ハ毎月所轄内出張ヲ要スヘキ事項及日數ヲ豫定シ前月末日迄ニ所長ニ報告スヘシ

- 第十二條 監督員及技手検査員ニ於テ違反者ヲ告發シタルトキ其他必要ト認ムル事項ハ其都度所長ニ報告スヘシ
- 第十三條 生産検査ノ成績ハ當該職員ヨリ翌月三日限り所轄監督員ニ監督員ハ其月五日限り所長ニ報告スヘシ
輸出検査ノ成績輸入米海上運送米等ハ翌月三日限り直接所長ニ報告シ之レト同時ニ其寫ヲ所轄監督員ニ差出スヘシ
- 第十四條 出張所監督員以下輸出検査所詰技手及検査員ノ執務時間ハ一般官廳ノ例ニ依ルト雖事務繁劇ナルトキハ晝夜ニ拘ラス執務スヘシ
- 第十五條 病氣ニ依リ勤務シ能ハサルトキハ其事由ヲ具シ出張所及穀物輸出検査所監督員ハ所長ニ其他ハ所轄監督員ニ届出ヘシ
前項缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師診斷書ヲ添ヘ所長ニ届出尙引續缺勤スルトキハ十五日毎ニ本項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十六條 職員轉任ノ命ヲ受ケタルトキハ技手ハ五日其他ハ三日以内ニ赴任スヘシ
- 第十七條 輸出検査所詰技手検査員ハ毎月五日迄ニ前月分勤務表ヲ作成シ所轄監督員ニ監督員ハ其月十日迄ニ所長ニ報告スヘシ
- 第十八條 所長及出張所竝ニ輸出検査所監督員ハ管掌事務ニ關シ其名ヲ以テ官公署公共團體及當業者等ト文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得
- 第十九條 検査員ハ検査事務ニ關シ其名ヲ以テ受檢者ニ文書ヲ發スルコトヲ得
- 第二十條 穀物検査ニ關スル文書ハ所長ニ於テ直接知事官房文書係ヨリ配付ヲ受ケ檢閱ノ上各主任者ニ配付スヘシ
- 第二十一條 検査出張所輸出検査所及生産検査員ニ於テ文書ヲ受理シ又ハ發送セントスルトキハ處理件名簿ニ記載ノ上處理スヘシ但シ輸出検査所又ハ生産検査員ニシテ文書ノ取扱數僅少ナルモノハ本項ノ手續ヲ省略スルコトヲ得
- 發送スヘキ文書ハ回議ノ式ニ據ルヲ要セスト雖總テ文案ヲ存シ置クヘシ

第二十一條 文書ハ左ノ分類ニ依リ編綴スヘシ

檢 査 所

- 一 法規令達ニ關スル件
 - 二 職員ニ關スル件
 - 三 經費豫算及會計ニ關スル件
 - 四 檢査及ヒ其監督ニ關スル件
 - 五 規則違反者ニ關スル件
 - 六 協議會ニ關スル件
 - 七 檢査標準米麥及米麥鑑定ニ關スル件
 - 八 檢査成績審査ニ關スル件
 - 九 講習練習ニ關スル件
 - 十 産米及ヒ俵裝改良ニ關スル件
 - 十一 市況及ヒ米價ニ關スル件
 - 十二 統計報告ニ關スル件
 - 十三 雜 件
- 檢 査 出 張 所
- 一 法規令達ニ關スル件
 - 二 職員ニ關スル件

- 三 檢査及其監督ニ關スル件
- 四 協議會ニ關スル件
- 五 會計ニ關スル件
- 六 産米麥及俵裝改良獎勵ニ關スル件
- 七 統計報告ニ關スル件
- 八 雜 件

輸 出 檢 査 所

- 一 法規令達ニ關スル件
- 二 會計ニ關スル件
- 三 諸届ニ關スル件
- 四 諸報告ニ關スル件
- 五 雜 件

生 産 檢 査 員

- 一 法規令達ニ關スル件
- 二 雜 件

第二十二條 帳簿ハ左ノ區別ニ依リ備付クヘシ

檢 査 出 張 所

- 一 監督日誌

●香川縣告示第四百六十一號

香川縣穀物検査標準米麥査定規則左ノ通相定ム

昭和四年八月十八日

香川縣知事 坪井勸吉

香川縣穀物検査標準米麥査定規則

第一條 穀物検査ノ標準米麥ハ本則ニ依リ毎年ノ生産米麥ニ就キ標準米麥査定會ノ意見ヲ徴シ知事之ヲ定ム

第二條 標準米麥査定會ハ左ノ各員ヲ以テ組織ス

會長	一名
委員	若干名
書記	一名

會長ハ穀物検査所長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ農林課農事試驗場穀物検査所及縣農會等ノ職員並ニ當業者其他適當ト認メタル者ニ就キ毎年知事之ヲ任命又ハ囑託ス

書記ハ穀物検査所農林主事補ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 標準米麥査定會ノ開會期日場所ハ知事之ヲ定ム

第四條 標準米麥査定會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

第五條 標準米麥査定會ハ穀物検査所ヨリ提供スル穀物ニ就キ之ヲ決定ス

第六條 標準米麥ハ乾燥、品質、粒形、調製・色澤ノ項目ニヨリ所定等級ノ標準トシテ適當ノモノヲ選出ス但シ標準ハ當該等級ノ最低位ヲ示スモノトス

第三 穀物検査職制の改正

明治四十年米穀検査開始と同時に職制を發布し内務部の主管に屬し所長、監督員、検査員書記の名稱にて職員を配置し居たりしも大正五年四月勅令第八十八號を以て地方産業に關する職員制發布せられたるを以て從來の職制を改正し技師、技手、検査員を輸出生産に區分し現在に及へり

穀物検査員採用規程 (昭和六年八月三十日告示第四六五號)

第一條 本規程ニ於テ穀物検査員ト稱スルハ穀物生産検査員及穀物輸出検査員ヲ謂フ

第二條 穀物検査員ハ本規程ニ依ル試驗ニ合格シタル者ノ中ヨリ採用ス但シ穀物輸出検査員ニ在リテハ穀物生産検査員トシテニケ年以上實務ニ従事シ成績優良ナル者ヨリ試驗ヲ行ハスシテ採用スルコトヲ得

第三條 穀物検査員志願者ハ品行方正身体健全ナル年齢二十歳(中等程度ノ學校ヲ卒業シタル者ハ滿十八歳)以上四十五歳以下ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサルコトヲ要ス

- 一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 二、懲戒免職ノ處分ヲ受ケタル者

- 三、禁治産者又ハ準禁治産者
- 四、破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者
- 第四條 穀物検査員ノ採用試験ハ左ノ科目ニ付キ之ヲ行フ但シ中等程度ノ學校ヲ卒業シタル者及判任官任用ノ資格ヲ有スル者又ハ判任官待遇以上ノ職ニアリタル者ハ第一號及第二號ノ試験ヲ省略ス
 - 一、作 文（記事文、書簡文）
 - 二、算 術（筆算、珠算）
 - 三、穀物検査關係法規
 - 四、農業大意
 - 五、穀物ノ鑑定
 - 六、口頭諮問
- 第五條 穀物検査員採用試験ハ知事ノ任命シタル試験委員之ヲ行フ
- 第六條 穀物検査員採用試験ノ日時場所及願書提出期限其ノ他必要ナル事項ハ知事之ヲ告示ス
- 第七條 穀物検査員ノ志願者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書及第三號書式ノ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ穀物輸出検査員志願者ニ在リテハ本縣穀物検査所ニ穀物生産検査員志願者ニ在リテハ居住地市町村長ヲ經テ所轄穀物検査所出張所ニ提出スヘシ

第一號書式（用紙美濃紙） 穀物検査員採用願書
 私儀香川縣穀物輸出検査員（穀物生産検査員）志願ニ付別紙履歷書及證明書相添ヘ此段奉願候也

年 月 日
 本籍地
 現住所
 氏 名

第二號書式（用紙美濃紙）

香川縣知事宛
 履 歷
 本籍地
 現住所
 族稱、職業、身分
 氏 名
 年 月 日 生 名
 一、何 々 學 業
 一、何 々 職 業
 一、何 々 兵 役
 一、何 々 賞 罰
 一、何 々 右之通り相違無之候也

年月日

右

氏

名

Ⓜ

(注意) 氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式

証明書

住所

氏

名

年

月

日生

一、犯罪ノ有無(何年何月何日裁判所ニ於テ何々ニ依リ何刑ニ處セラル)

一、禁治産又ハ准禁治産ノ宣告ヲ受ケタルコトノ有無

一、破産又ハ家資分産ノ宣告ヲ受ケタルコトノ有無

一、兵役ノ關係

右証明候也

年月日

市町村長 氏

名

Ⓜ

六〇

第四 現在の職員

(昭和七年末現在)

穀物検査所(香川縣廳)

地方農林技師 所長

從七位

葉原慶三郎

穀物鑑定委員 技手兼農林技手

小玉保平

穀物検査所々屬 農林主事補

高尾定善

同

松谷榮

穀物鑑定委員 農林技手

久保一男

同

八木菊次

同

岸井福太郎

同

佐久間修一

同

岡野正美

同

矢野武重

同

中川禮藏

同

森志次郎

同

高木義國

同

中村薫

同

多田幸三郎

同

大西甚吉

同

二川清茂

同

高原正一

丸龜穀物輸出検査所(丸龜市濱町)

農林技手 監督員

赤尾晋三郎

穀物輸出検査員

岩崎善四郎

同

高島熊八

同

大浦悦次

同

丸岡友吉

大川郡

大川郡出張所(大川郡富田村)

農林技手 監督員

佃重太郎

同 生産検査員部長

小西久一

引田穀物輸出検査所(大川郡引田町)

穀物輸出検査員兼穀物生産検査員

水谷收平

三本松穀物輸出検査所(大川郡三本松町)

穀物輸出検査員

安部房太郎

志度穀物輸出検査所(大川郡志度町)

穀物輸出検査員

勳八等 小西勇次

同

六車登庸

第一區穀物生産検査員

相生村 黒川克太郎

同

小海村 工藤兵五郎

六一

第一區穀物輸出検査員 引田町 三好 文次郎
 第二區穀物生産検査員 白鳥本町 永峰 伊太郎
 同 白鳥村 原井 彌助
 同 三本松町 能代 安吉
 第三區穀物生産検査員 譽水村 石谷 勘吉
 同 譽水村 富山 徳次郎
 同 兼穀物輸出検査員 丹生村 谷 傳平
 第四區穀物生産検査員 福榮村 原 春次郎
 同 福榮村 青木 精一
 穀物輸出検査員兼同生産検査員 五名村 富田 貞吉
 第五區穀物生産検査員 松尾村 堀 伊三郎
 同 富田村 大山 増太郎
 同 富田村 片山 爲太郎
 同 石田村 廣瀬 寅一
 同 石田村 阿部 榮
 第六區穀物生産検査員 鴨部村 石川 傳七
 同 鴨部村 安富 才吉
 同 鶴羽村 木村 義武
 第六區穀物生産検査員 津田町 安藝 信之
 穀物輸出検査員兼同生産検査員 造田村 松原 延太郎
 第七區穀物生産検査員 神前村 兒玉 智

第八區穀物生産検査員 兼穀物輸出検査員 長尾町 入倉 與助
 第八區穀物生産検査員 長尾町 三宅 榮
 同 多和村 眞部 龜一
 第九區穀物生産検査員 志度町 溝淵 岩太郎
 同 鴨庄村 松原 與三郎
 同 小田村 石原 由永
 木田郡 木田郡 郡
 木田郡出張所(木田郡平井町) 農林技手 監督員 田中 定吉
 同 生産検査員部長 石丸 壽太郎
 奥鹿穀物輸出検査所(木田郡奥鹿村大字長谷) 穀物輸出検査員 平崎 八郎
 第一區穀物生産検査員 兼穀物輸出検査員 奥鹿村 藝 澤 和
 第一區穀物生産検査員 奥鹿村 藤澤 眞夫
 同 井戸村 佐藤 傳次郎
 同 井戸村 溝淵 平八
 同 下高岡村 谷本 徳次郎
 同 田中村 佐々木 丹五郎
 同 田中村 多田 繁太郎
 同 氷上村 白井 繁太郎

同 第三區穀物生産検査員 氷上村 菱谷 正夫
 同 西植田村 宮本 肇
 同 西植田村 溝淵 夏次
 同 東植田村 植田 縫次
 同 牟禮村 坪井 正直
 同 牟禮村 三好 清信
 同 庵治村 池田 久太郎
 同 屋島町 谷脇 象吉
 同 古高松村 宮本 義行
 同 古高松村 久本 勝榮
 第六區穀物生産検査員 川添村 高木 義雄
 同 川添村 西田 儀太郎
 同 木太村 森崎 駒吉
 同 木太村 河田 幸三郎
 同 林村 宮野 勘太郎
 同 林村 喜岡 嘉一
 第七區穀物生産検査員 三谷村 山下 新太郎
 同 川島町 鎌野 正一
 同 川島町 三好 得一
 同 前田村 植村 竹男
 同 前田村 七宮 健太
 第八區穀物生産検査員

同 兼穀物輸出検査員 十河村 久保 平三郎
 同 穀物生産検査員 十河村 森安 喜三郎
 同 平井町 酒井 榮三郎
 同 平井町 茂中 市太郎
 小豆郡 小豆郡 郡
 小豆郡出張所(小豆郡土庄町) 農林技手 監督員 下谷 小太郎
 第一區穀物生産検査員 大鐸村 佐伯 善太郎
 同 兼穀物輸出検査員 淵崎村 鶴 阜 照治
 第二區穀物生産検査員 池田町 岡田 寅市
 第三區穀物生産検査員 草壁町 萩 純一
 同 安田村 山本 實藏
 第四區穀物生産検査員 四海村 江岡 勝
 同 大部村 椎木 行雄
 第五區穀物生産検査員 豊島村 廣田 清吉
 香川郡 香川郡 郡
 香川郡出張所(高松市中野町立誠館内) 農林技手 監督員 多田 之
 同 生産検査員部長 太田 渡
 第一區穀物生産検査員 高松市 砂湖 直三郎

第十二區穀物生産検査員 端岡村 植松 穰次
 同 山内村 中西 七郎
 同 山内村 伊藤 勇
 第十三區穀物生産検査員 加茂村 杉崎 定五郎
 同 府中村 池内 存
 同 府中村 細谷 清水

仲多度郡

仲多度郡出張所(仲多度郡普通寺町)
 農林技手 監督員 今村 忠重
 同 生産検査員部長 宮治 辨藏
 多度津穀物輸出検査所(仲多度郡多度津町)
 穀物輸出検査員 岡本 長太
 金藏寺穀物輸出検査所(仲多度郡龍川村)
 穀物輸出検査員 石川 嘉之祐
 琴平穀物輸出検査所(仲多度郡榎井村)
 穀物輸出検査員 今田 百合田
 七箇穀物輸出検査所(仲多度郡七箇村)
 穀物輸出検査員兼穀物生産検査員 草薙 政市
 第一區穀物生産検査員 丸龜市 馬場 虎之助
 同 丸龜市 大前 健四郎

同 丸龜市 北浦 成一
 同 南村 大岡 勉
 同 豊原村 應平 卯右衛門
 同 豊原村 宮武 幸吉
 同 龍川村 次田 茂
 同 龍川村 横田 八郎
 同 郡家村 高畑 定五郎
 同 郡家村 多田 喜三郎
 同 與北村 増田 正太
 同 垂水村 宮川 秀男
 同 與島、廣島、高見島、本島、佐柳島の各村 横井 敏太郎
 同 高篠村 唐木 政市
 同 高篠村 富田 圓藏
 同 象郷村 大西 伴一郎
 同 象郷村 氏家 喜代太郎
 同 榎井村 大矢 磯吉
 同 神野村 奈良 敦太郎
 同 吉野村 篠原 新吉
 同 四條村 岡田 政太郎
 同 十郷村 白川 數太

第七區穀物生産検査員 十郷村 山内 福太郎
 第八區穀物生産検査員 白方村 村井 照男
 同 四箇村 龜井 敏明
 同 多度津町 新開 淺市
 同 吉原村 竹森 義之
 同 筆岡村 北堀 庄助
 同 筆岡村 勝田 岩八
 同 善通寺町 木下 秀市
 同 善通寺町 岡崎 綱祐
 同 善通寺町 天堵 好太郎

三豊郡

三豊郡出張所(三豊郡観音寺町)
 農林技手 監督員 勳七等 山地等 實
 同 生産検査員部長 正六位勳六等 深田 米彦
 観音寺穀物輸出検査所(三豊郡観音寺町)
 穀物輸出検査員 勳七等勳六級 和田 福市
 同 井上 近造
 同 關 信孝

豊濱穀物輸出検査所(三豊郡豊濱町)
 穀物輸出検査員 石川 茂七
 和田穀物輸出検査所(三豊郡和田村)
 兼 務 石川 茂七
 上高瀬穀物輸出検査所(三豊郡上高瀬村)
 穀物輸出検査員 關 善正
 財田穀物輸出検査所(三豊郡財田村)
 穀物輸出検査員 齋賀 常吉
 吉津穀物輸出検査所(三豊郡吉津村)
 穀物輸出検査員 青野 万次
 本山穀物輸出検査所(三豊郡桑山村)
 穀物輸出検査員 磯崎 岩重
 第一區穀物生産検査員 仁尾町 高木 淺太郎
 同 莊内村 大西 茂
 同 吉津村 藤田 性太
 同 同 青野 正夫
 第二區穀物生産検査員 詫間村、栗島村 田尾 長輔
 同 下高瀬村 關 好太郎
 同 大見村 佐藤 藤吉
 同 上高瀬村 眞鍋 長八
 同 上高瀬村 資延 義一

第四區穀物生産検査員	勝間村 大西 幸治	第十區穀物生産検査員	財田大野村 高橋 八治
同 兼穀物輸出検査員	比地二村 眞鍋 藤太郎	兼穀物輸出検査員	河内村 白川 高治郎
同	比地大村 藤田 吉久	同	辻 村 片桐 嘉之助
第五區穀物生産検査員	笠田村 今川 儀市	同 穀物生産検査員	豊田村 高橋 五郎
同	桑山村 筒井 喜代永	第十一區穀物生産検査員	豊田村 近藤 英一
同	本山村 高橋 繁松	同	粟井村 安藤 初治郎
第六區穀物生産検査員	上高野村 藤本 佐吉	同 兼穀物輸出検査員	紀伊村 高橋 榮治郎
同	観音寺町 津田 茂吉	第十二區穀物生産検査員	大野原村 矢野 伊勢吉
同	高室村 五味 信置	兼穀物輸出検査員	大野原村 矢野 繁一
同	柞田村 松本 茂市	第十二區穀物生産検査員	大野原村 垣見 一郎
同	柞田村 井下 寅五郎	同	五郷村 平野 利平
第七區穀物生産検査員	常盤村 林 藤六	同	萩原村 渡邊 岩吉
第七區穀物生産検査員	常盤村 小西 市郎	第十三區穀物生産検査員	豊濱村 片木 小藤一
同	一ノ谷村 合田 定光	同	和田村 石川 一郎
第八區穀物生産検査員	二宮村 米谷 治平	市場調査員	
同	二宮村 森 貞之進	東京廻米問屋	主 事 林 田 繁 松
第九區穀物生産検査員	麻 村 臼 杵 俊雄	大阪米穀取引所調査課	東京市深川區一色町十二番地
同	財田村 田中 數男		白 髭 彌 太 郎
同	財田村 大西 徳太郎		大阪市北區堂島濱通り二丁目
同	財田村 近井 龜市		
同	神田村 近藤 良三		

六八

大阪穀物商同業組合 組合長 岩木 六兵衛
 大阪市北區玉江町二丁目 電話本局三三二七八 神戸市兵庫中道通り二丁目
 神戸取引所 審査課長 河野 松次郎 電話兵庫一五一四 神戸市富屋町
 神戸市楠町十丁目

第五 検査吏員の養成

明治四十年米穀検査開始と同時に検査に關する必須事項に付き講習會を開催し爾來新に任命したる検査員を毎年一回本所に召集し大要左記事項に就き講師は穀物検査所長始め本所監督員、農事試験場員等にて講習會を開催し居れり

講習科目

- 第一、穀物ノ改良獎勵及検査ノ概念
- 一、稻作及麥作ノ改良
- 二、産米麥俵裝ノ改良
- 三、病虫害ノ概論
- 四、農業倉庫ノ概念及其ノ利用並ニ販賣法ノ改善
- 五、穀物検査ノ沿革
- 六、穀物検査ノ方針及其ノ効果
- 七、検査統一ノ必要並ニ其ノ方法

第二、穀物検査ニ關スル諸法規

- 一、穀物検査規則同手續及内規
 - 二、検査ノ取締
 - 三、違反者告發ト關係法規
 - 四、穀物検査ト度量衡法ノ關係
- 第三、吏員服務並ニ庶務
- 一、府縣吏員服務規律
 - 二、検査所職制及勤務ニ關スル心得
 - 三、事務取扱及助勤手續
 - 四、簿冊文書ノ整理方法
 - 第五、穀物ノ鑑定

講習習得者調

年度	大川郡	木田郡	小豆郡	香川郡	綾歌郡	仲多度郡	三豊郡	高松市	丸龜市	合計
明治四〇	六七	七五	三三	五二	七七	三三	五八	一	一	三八四
同 四一	六	七	一	七	二	一〇	四	一	一	四六

同 四二	八	二	一	八	一〇	七	六	一	一	四二
同 四三	七	四	一	八	九	五	五	一	一	三八
同 四四	三	五	一	五	八	二	二	二	一	二八
大正 元	二	三	二	七	三	五	二	一	一	四四
同 二	五	二	一	一	二	三	五	一	一	二〇
同 三	三	五	一	四	三	二	五	二	一	二五
同 四	二	一	一	三	五	二	二	一	一	一六
同 五	一	一	一	一	三	一	七	一	一	二三
同 六	五	五	一	二	三	一	六	一	一	三二
同 七	四	三	一	〇	六	二	九	一	一	三四
同 八	五	一	一	五	五	一	三	一	一	二〇
同 九	六	一	一	一	五	二	六	一	一	二二
同 一〇	一	二	一	三	三	五	七	一	一	三三

計	同六	同五	同四	同三	同二	昭和元	同 一四	同 一三	同 一二	同 一一
一五四	一	四	二	三	三	五	二	四	二	四
一四六	一	二	四	二	三	二	四	三	四	六
三八	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一
一四八	五	三	六	三	一	四	一	三	三	三
一九六	二	一	六	六	三	一	一	五	七	一
一〇七	一	二	二	六	一	二	二	五	二	六
一七四	三	五	五	四	一	七	四	一	八	一
六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九八二	二二	二七	二九	二五	一〇	二二	二四	二三	二七	二〇

第六 検査開始以來職員の異動

(昭和七年末現在)

創始以來退職死亡及轉任調

歴代知事

明治三十五年二月八日就任 同 四十四年六月十八日退官	從三位勳二等 小野田 元 源
明治四十三年六月十八日就任 大正三年六月九日轉任	從四位勳三等 鹿子木 小五郎
大正三年六月九日就任 同 四年一月八日休職	正五位勳三等 川 村 竹 治
同 四年一月八日就任 同 六年一月二十九日轉任	從四位勳二等 若 林 資 藏
同 六年一月二十九日就任 同 八年四月十八日休職	正五位勳四等 坂 田 幹 太
同 八年四月十八日就任 同 十一年六月十七日休職	從四位勳三等 佐 竹 義 文
同 十一年六月十七日就任 同 十二年十月二十五日休職	正五位勳五等 佐々木 秀 司
同 十二年十月二十五日就任 同 十三年六月二十四日轉任	從四位勳三等 中 川 健 藏
同 十三年六月二十四日就任 同 十五年九月二十八日就任	從五位勳四等 淺 利 三 朗
同 十五年九月二十八日就任 昭和二年五月十七日休職	從四位勳三等 三 浦 實 生
同 二年五月十七日就任 同 四年七月五日退官	從四位勳三等 元 田 敏 夫

歴代内務部長

同 四年七月五日就任 同 六年六月二十七日轉任	正五位勳四等 呷 井 勳 吉
同 六年六月二十七日就任 同 六年十二月十八日休職	正五位勳五等 高 橋 雄 豹
同 六年十二月十八日就任 同 七年六月二十八日休職	正五位勳四等 伊 藤 昌 庸
昭和七年六月二十八日就任	正五位勳四等 君 島 清 吉
明治三十九年七月二十八日就任 同 四十年十二月二十七日轉任	從五位勳五等 渡 邊 勝 三 郎
同 四十年十二月二十七日就任 同 四十二年十月九日轉任	從五位勳五等 湯 淺 倉 平
同 四十二年十月九日就任 大正二年三月三日轉任	從五位勳六等 堤 定 次 郎
大正二年三月三日就任 同 五年四月二十八日休職	從四位勳四等 藤 本 充 安
同 五年四月二十八日就任 同 十年六月二十八日轉任	從五位勳五等 岸 本 正 雄
同 十年六月二十八日就任 同 十一年十月十六日休職	正五位勳四等 隈 本 清 世
同 十一年十月十六日就任 同 十二年十月二十六日轉任	正 六 位 田 寺 俊 信

明治四〇、四、一	大正三、三、七	督監員	池木駒次郎
同四、二、二	明治三、三、元	同	岸又四郎
同四、五、七、三	大正四、八、三	同	香川伊平
大正二、一、四	退職	同	坂上五百里
明治四三、四、一	大正二、三、六	技手監督員	佐久間美代次
同四、九、三	同四、三、〇	同	藤原猪由太
大正八、四、八	大正八、五、四	同	松岡平三郎
明治四三、三、三	大正三、四、四	同	七條行平
大正八、二、二	大正四、三、三	同	高木卯三郎
同三、五、一	六、昭和三、八	同	多田直己
明治四〇、九、二	五、三、元	同	津下藻太郎
大正一、三、三〇	同六、六、五	同	田淵正成
同五、五、一	同七、三、六	同	藤井久吉
同六、三、三	同七、三、六	同	平井梅太郎
同五、五、一	同七、三、三	技手	山本三代吉
同五、五、三	大正九、四、六	同	藤本澤造
同七、五、一	同二、三、六	同	小畑竹治
同七、三、三	同三、八、三	同	山崎岩吉
同四、三、三	昭和三、三、三	同	阿部照太
昭和三、三、一	昭和三、九、二	同	阿部照太
昭和十一年四月一日任命		技手	龜山信太郎
大正十一年二月二十八日退職			

明治四〇、八、三	退職	同	明道四〇、八、三	退職	同	樋端佐吉
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	定國龜太郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	今田儀八郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	山崎善太郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	宮脇善吉
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	渡邊惟一
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	桑島久太郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	木村宗一
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	木村虎吉
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	鍋井勘七
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	石川政次郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	白井熊太郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	木虎貞七
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	高島一養
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	佐々木傳五郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	峠富次
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	竹原熊太郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	大村伊三郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	濱崎繁太郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	菰淵栗太郎
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	久森熊吉
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	安田宇平
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	宮脇善吉
同四〇、八、三	同	同	同四〇、八、三	同	同	山崎喜太郎

大正三、一、三〇	退職	同	川田友市
同四、一、一八	退職	同	龜山逸夫
同四、一、五	大正七、二、二	同	大野嘉之助
同四、一、五	同七、一、三	同	松野岩太郎
同四、六、四	退職	同	龜谷定太郎
同六、五、六	大正八、三、九	同	山田房一
同六、五、六	退職	同	田淵正成
同六、五、一六	大正七、六、七	同	笠井丸市郎
同七、三、一	退職	同	高橋寛三
同七、五、一	同	同	川口篤太郎
同七、五、二九	退職	同	荒井辰次
同七、九、九	退職	同	岡田廣治
同七、二、二五	大正八、三、七	同	木内國八
同八、三、二七	同八、九、三	同	瀧嘉正
同八、六、二五	退職	同	矢野義輝
同八、一〇、七	同	同	三笠利三郎
同八、一〇、一〇	同	同	神余源二郎
同八、一、二八	同	同	赤坂正太郎
同八、一〇、二五	同	同	高橋茂市
同八、一〇、三三	同	同	片山茂次

明治四〇、八、三	大正三、四、三	米穀検査員	大川郡第二區	樋端佐吉
同四〇、八、三	明治四、四、七	同	同	定國龜太郎
同四〇、八、三	大正八、二、六	同	同	今田儀八郎
同四〇、八、三	明治四、五、三	同	同	山崎善太郎
同四〇、八、三	退職	同	同	宮脇善吉
同四〇、八、三	同	同	同	渡邊惟一
同四〇、八、三	同	同	同	桑島久太郎
同四〇、八、三	同	同	同	木村宗一
同四〇、八、三	同	同	同	木村虎吉
同四〇、八、三	同	同	同	鍋井勘七
同四〇、八、三	同	同	同	石川政次郎
同四〇、八、三	同	同	同	白井熊太郎
同四〇、八、三	同	同	同	木虎貞七
同四〇、八、三	同	同	同	高島一養
同四〇、八、三	同	同	同	佐々木傳五郎
同四〇、八、三	同	同	同	峠富次
同四〇、八、三	同	同	同	竹原熊太郎
同四〇、八、三	同	同	同	大村伊三郎
同四〇、八、三	同	同	同	濱崎繁太郎
同四〇、八、三	同	同	同	菰淵栗太郎
同四〇、八、三	同	同	同	久森熊吉
同四〇、八、三	同	同	同	安田宇平
同四〇、八、三	同	同	同	宮脇善吉
同四〇、八、三	同	同	同	山崎喜太郎

明治三、六、三	退	職	米穀検査員	大川郡第三區	安西 筆造
同 三、七、一	同 三、七、一	同 三、七、一	同	第三區	谷口 喜太郎
同 三、八、六	同 三、八、六	同 三、八、六	同	第三區	大森 朝一
同 三、九、三	同 三、九、三	同 三、九、三	同	第四區	桑島 才吉
同 四、〇、九	同 四、〇、九	同 四、〇、九	同	第九區	大高 秋太郎
同 四、一、六	同 四、一、六	同 四、一、六	同	第六區	龜井 綾太郎
同 四、二、三	同 四、二、三	同 四、二、三	同	第三區	大隅 六郎
同 四、三、〇	同 四、三、〇	同 四、三、〇	同	第一區	敷島 庄九郎
同 四、三、七	同 四、三、七	同 四、三、七	同	第八區	大石 喜之藏
同 四、四、四	同 四、四、四	同 四、四、四	同	第二區	小島 榮吉
同 四、五、一	同 四、五、一	同 四、五、一	同	第五區	多田 良彌
同 四、五、八	同 四、五、八	同 四、五、八	同	第三區	多田 清次郎
同 四、六、五	同 四、六、五	同 四、六、五	同	第六區	秋友 喜太郎
同 四、七、二	同 四、七、二	同 四、七、二	同	第一區	永峰 孝象
同 四、七、九	同 四、七、九	同 四、七、九	同	第五區	入谷 八百藏
同 四、八、六	同 四、八、六	同 四、八、六	同	第六區	中澤 精一
同 四、九、三	同 四、九、三	同 四、九、三	同	第一區	菊地 源壽希
同 五、〇、〇	同 五、〇、〇	同 五、〇、〇	同	第七區	木虎 勝次郎
同 五、〇、七	同 五、〇、七	同 五、〇、七	同	第六區	吉岡 正一
同 五、〇、四	同 五、〇、四	同 五、〇、四	同	第五區	廣瀬 長松
同 五、〇、一	同 五、〇、一	同 五、〇、一	同	第二區	森 源造
同 五、〇、八	同 五、〇、八	同 五、〇、八	同	第五區	廣瀬 徳太郎
同 五、〇、五	同 五、〇、五	同 五、〇、五	同	第一區	羽鹿 新太郎

大正三、七、三	大正五、九、三	生産検査員兼 輸出検査員	大川郡第八區	山本 梅太郎
同 三、七、三	同 二、四、元	同	第六區	野崎 洋連八
同 三、九、元	同 八、九、五	同	第三區	荒井 佐七
同 四、〇、〇	同 四、三、二	同	第二區	橋本 慶義
同 四、〇、七	同 八、七、元	同	第一區	松村 繁太郎
同 四、一、四	同 七、三、元	同	第九區	玉越 茂一
同 四、二、一	同 六、八、八	同	第八區	金藤 勘六
同 四、二、八	同 七、九、八	同	第五區	白川 傳次郎
同 四、三、五	同 八、九、三	同	第六區	伊勢 賢三郎
同 四、四、二	同 七、七、三	同	第八區	連井 官一
同 四、四、九	同 八、八、〇	同	第三區	瀧 磯八
同 四、五、六	同 〇、五、三	同	第九區	溝淵 治右衛門
同 四、六、三	同 一〇、七、五	同	第八區	白井 清七
同 四、七、〇	同 一、八、八	同	第一區	丸山 綱次郎
同 四、七、七	同 二、一、八	同	第三區	中野 喜次郎
同 四、八、四	同 三、五、三	同	第五區	石川 政治郎
同 四、九、一	同 四、七、元	同	第九區	多田 又一
同 五、〇、八	同 五、七、元	同	第五區	植村 橋次
同 五、一、五	同 六、七、〇	同	第六區	三好 正吉
同 五、二、二	同 七、七、〇	同	第一區	橋本 幸雄
同 五、二、九	同 八、七、〇	同	第八區	岡田 新一
同 五、三、六	同 九、七、〇	同	第六區	岩佐 幸吉
同 五、四、三	同 一〇、七、〇	同	第七區	松家 三郎
同 五、五、〇	同 一、七、三	同	第一區	坂本 恒市

大正三、二、九	昭和三、五、四	生産検査員	大川郡第六區	久米 義雄
同 三、一、三	大正三、五、六	同	第三區	九山 忠一
同 三、九、〇	昭和五、三、四	同	第七區	岡田 藤一
同 三、九、七	同 五、〇、七	同	第一區	永峰 孝象
明治三、八、三	大正三、一、元	同	木田郡第一區	岡田 千五郎
同 三、八、三	明治三、六、八	同	同	國振 繁太郎
同 三、八、三	同 三、五、八	同	同	山地 茂助
同 三、八、三	同 三、三、四	同	同	鹿庭 官吾
同 三、八、三	同 三、二、六	同	第二區	榑田 治平
同 三、八、三	同 二、五、四	同	同	十河 八五郎
同 三、八、三	明治三、三、〇	同	第四區	岡 佳吉
同 三、八、三	同 三、三、〇	同	同	大下 文吾
同 三、八、三	大正三、五、六	同	第五區	谷原 竹次
同 三、八、三	大正三、五、七	同	同	久本 玉次郎
同 三、八、三	明治三、八、九	同	第六區	小川 元吉
同 三、八、三	同 三、七、七	同	同	大熊 又四郎
同 三、八、三	同 三、七、七	同	同	多田 幸吉
同 三、八、三	同 三、七、七	同	同	熊野 伊太郎
同 三、八、三	同 三、七、七	同	同	多田 官三郎
同 三、八、三	明治三、三、三	同	第七區	高島 兼三郎
同 三、八、三	同 三、二、七	同	同	三木 武吉
同 三、八、三	同 三、二、五	同	同	大島 宇平
同 三、八、三	大正三、二、三	同	第八區	出口 利三郎
同 三、八、三	同 三、二、二	同	同	中村 房吉

明治三、八、三	大正三、九、〇	生産検査員	木田郡第八區	松井 武一
同 三、八、三	明治三、三、三	同	同	多田 太市
同 三、九、三	同 四、九、八	同	第三區	馬場 彦次
同 四、〇、三	大正三、一〇、三	同	同	菅澤 安五郎
同 四、〇、八	明治三、七、三	同	第四區	小西 喜一
同 四、〇、一三	退	職	同	大下 文吾
同 四、一、二	明治三、一、七	同	第五區	小山 寅造
同 四、一、九	同 四、九、二	同	第二區	神内 伊平
同 四、二、六	大正三、三、二	同	第八區	大松 朋三郎
同 四、三、三	退	職	同	白坂 小八
同 四、四、〇	退	職	同	筒井 雄一
同 四、四、七	明治三、九、三	同	第一區	筒井 雄一
同 四、五、四	退	職	同	村川 直一
同 四、六、一	大正三、八、八	同	第五區	香西 潔
同 四、六、八	明治三、八、三	同	第八區	佐々木 利五郎
同 四、七、五	退	職	同	三木 庄三郎
同 四、八、二	大正三、九、三	同	第七區	三谷 榮太郎
同 四、八、九	同 三、五、元	同	同	久保 近次
同 四、九、六	同 三、五、元	同	第六區	池田 伸三郎
同 五、〇、三	同 六、九、八	同	同	土井 絹次
同 五、〇、十	明治三、五、五	同	第七區	宮本 藤市
同 五、〇、一七	昭和五、九、三	同	同	眞鍋 茂一
同 五、〇、二四	昭和五、九、三	同	第三區	川田 重信
同 五、〇、三一	明治三、四、三	同	第七區	川田 重信
同 五、〇、三八	大正三、七、三	同	同	松本 喜三郎
同 五、〇、四五	同 二、八、八	同	第七區	多田 勇
同 五、〇、五二	昭和七、三、五	同	同	谷本 雅次
同 五、〇、五九	大正三、〇、六	同	第八區	谷本 雅次

を始め肥培管理の各般に涉り周密なる改善指導を怠らず、専ら當業者の啓發に努め検査所としては特に收穫後に於ける諸般の改良作業に全力を傾注し、本所員を各郡市に派遣し出張所々員検査員を督し作業の改善指導を爲さしめたり。今改良施設の重なるものを項を分ちて左に掲ぐへし。

一 乾 燥 獎 勵

本縣は地勢、氣候の關係上比較的籾の乾燥容易なるも米の生命たる乾燥の完全と尙混砂の缺點をなからしむる爲め、稻穂を直接土面に接觸せしめざるため架干、穗重干其他の方法を獎勵し又籾の席乾には必ず下敷の使用を普及せしめ籾干日數日晴天五日を標準とし量は席干一枚に一斗以内たらしめ、尙展開攪拌、乾燥籾の貯藏置場所等細大洩らさず検査員をして指導獎勵に努めしめ乾燥並防砂の目的を達する事に努力せり。

一 調 製 の 改 善

産米品位の良否は籾の品質の如何に依るは素よりなるも、検査上品位の良否は多く調製の巧拙に支配せらるゝを以て乾燥籾の唐箕選、籾摺作業の注意、調製器具の選擇使用等に極力獎勵に努め特に本縣米の缺點たる混砂に對しては検査器を使用し屑米の多少混砂有無を検査し調製の定壁と防砂の目的を期せり。

一 俵 裝 改 良

依裝の改良は検査開始の當初より年々獎勵に努め、一般當業者は多く農閑期に依を編製するを以て検査員は各戸を巡回し依菰、棧依及び繩等の粗雜違寸に付き注意を爲し、尙依入前の時期に於て依裝豫見を行ひ検査に際し再調の煩勞を無からしむる事に努め來れり。

叙上の如く實地の改良獎勵の効果を擧ぐる爲め、毎年春秋の二期其他必要に應じ郡市町村、同農會及穀物生産検査員と協調

の上産米改良並受檢準備に關する農談會、講話會等を開催するの外改良宣傳ビラの配布、産米、依米の品評會を市町村農會農事改良組合、受檢組合、農業倉庫又は地主等を勧誘して開催を促し改良の實績を擧げたり。其の詳細は左記各項に掲ぐ。

第二 産 麥 改 良 施 設

麥は本縣生産中米に亞ぐ重要物産にして其の程は本縣副業たる眞田紐の原料として缺くへからざるを以て之れか改良獎勵は各般に涉り施設經營に努めつゝあり、即ち明治三十八年時局に際し戦時記念事業として麥作改良の方針を示したる以來常に之れか改良増殖を促したる結果、成績の大に見るべきものあり、由來稈麥は農家の主食物にして細農の如きは之を常食とするの外肥料費を支辨するが故に産麥の改良に就いては農家自身栽培管理收穫調製に注意を拂ひ居れりと雖も尙改良の餘地尠からざるものあるを以て之れに對し極力施設を講し改善に努めつゝあり。

一 品 種 改 良

品種の改良統一に付いては縣は農事試験場をして優良品種の原種を育成せしめ之を郡農會の經營せる採種圃に配布し之より得たる種子を農家の各自又は共同經營せる自家用採種圃に配布し専ら種子の更新に努むるため大正八年毎年採種事業として原種圃費、採種圃費等を計上し稻と共に専ら品種の統一と種子更新に努めつゝあり、然して目下本縣に於ける獎勵品種は程麥は小ピン、大ピン、白珍子、屋根裸の種、小麥は早生小麥中生相州及金刀比羅の三種なり。

一 乾 燥 獎 勵

麥收穫刈取時期は恰も梅雨季を控へ作業困難なれとも可成程干を長くする事と且つ穗干を充分ならしめ、尙粒干作業を早くせしむる事に注意獎勵を促せり。之れ米と異なり脱粒後の乾燥は可能なるも干入後るゝ時は固有の色澤を損ずればなり。尙

田植を終了し稍農閑となる頃土用干と稱し日入をなさしめ、品位の向上と貯蔵の安全を期せしむるに注意し成績の向上を圖り居れり。

一 調 製

從來本縣麥の缺點とし忙稈土砂の混在多かりしを以て土面取扱の慣習を矯正し蒔敷作業を奨励し乾燥の徹底と防砂の目的を期し改良唐箕、調製器具の使用奨励を促し品位の向上を計れり。

一 俵 装 改 良

麥の俵装は米俵に比し相當粗糲たりしも米の俵装改良奨励と同様に注意改善を促せしに近時縦繩一本掛の相違あるのみにて米俵と異ならざるもの有るに至りたる現象を示し居れり。尙麥の生産検査を施行するに當りては縣下に亘り當業者、取引業者を便宜の箇所に集め、其の改良の利益検査施行の趣旨を徹底せしめ、爾後毎年米の改良奨励の農談會、部落講話等と併せ行ひ居れり。近時産麥の品評會の開催を見るに至りたるは喜ぶべき事なり。

第三 受檢組合の設置と其成績

昭和四年産麥生産検査制度を強制に改むるに當り検査事業を圓滿に遂行せしむべく唯一の助成機關として受檢組合設置の必要を認め昭和四年度に於て之れか設立に對する奨励費を計上し縣下に二十組合を設置せしめ爾來毎年二十組合宛の設置を奨励したる結果未だ六十組合に過ぎとす雖も之れが成績は組合員各自の理解に依り自治的に其機能を發揮し穀物の改良或は販賣の改善に貢献し成績顯著なるものあるを以て尙之れか設立普及に付奨励しつつあり。而して現在の組合設置の状況を示せば次表の如し。

穀物受檢組合設置ノ狀況

郡 別	昭和四年度			昭和五年度			昭和六年度			計		
	町村數	組合數	組合員數	町村數	組合數	組合員數	町村數	組合數	組合員數	町村數	組合數	組合員數
大川郡	三	三	一一〇	三	三	七九	三	三	一一四	九	九	三三三
木田郡	三	三	二二六	三	三	二〇三	三	三	一三四	九	九	五三三
小豆郡	一	一	一	一	一	一	二	二	九四	二	二	九四
香川郡	三	三	五六六	三	三	四九二	三	三	一〇五二	九	九	二、一一〇
綾歌郡	四	四	三七七	四	四	四九三	三	三	一一九	一一	一一	九八九
仲多度郡	三	三	一七二	三	三	二六八	三	三	一九八	九	九	六三八
三豊郡	四	四	八九〇	四	四	一、八八一	三	三	一、二二七	一一	一一	三、九九八
計	二〇	二〇	二、三四一	二〇	二〇	三、四一六	二〇	二〇	二、九四八	六〇	六〇	八、七〇五

第四 講話會開催の狀況

年 次	總市町村數	開催セシ町村數	開催箇所數	日 數

年次	出品總點數	出品人員	生産人員	受賞人員	備考
明治四十一年	一八〇	一八〇	一八〇	七六	七八
同四十二年	一八〇	一八〇	一八〇	一〇六	一〇六
同四十三年	一八〇	一八〇	一八〇	二九二	二九二
同四十四年	一八〇	一八〇	一八〇	三三四	三三四
大正元年	一八〇	一八〇	一八〇	五八九	五八九
同二年	一八〇	一八〇	一八〇	六六六	六六六
同三年	一八〇	一八〇	一八〇	七九九	七九九
同四年	一七九	一七九	一七九	一一九三	一一九三
同五年	一七九	一七九	一七九	一一三九	一一三九
同六年	一七八	一七八	一七八	一一九一	一一九一
同七年	一七七	一七七	一七七	一一一七	一一一七
同八年	一七七	一七七	一七七	一〇二五	一〇二五
同九年	一七七	一七七	一七七	九六〇	九六〇
同十年	一七六	一七六	一七六	七七三	七七三
同十一年	一七六	一七六	一七六	一〇〇三	一〇〇三
同十二年	一七六	一七六	一七六	九七七	九七七
同十三年	一七六	一七六	一七六	七六二	七六二
同十四年	一七六	一七六	一七六	一〇三三	一〇三三
同十五年	一七六	一七六	一七六	九二七	九二七
昭和元年	一七六	一七六	一七六	八七六	八七六
同二年	一七六	一七六	一七六	九七六	九七六
同三年	一七六	一七六	一七六	九七六	九七六

第五品評會の成績

同六年	一七四	一七四	一七四	一六四	一〇八七	七四、〇五四
同五年	一七四	一七四	一七四	一六一	一四八四	六四、一六五
同四年	一七四	一七四	一七四	一五六	一二二九	五一、三三六

年次	出品總點數	出品人員	生産人員	受賞人員	備考
明治四十四年	一一、二六四	六、二二六	一〇、六〇三	三、一六三	郡市町村又は同農會の主催に依るもの及び受 検組合並に地主等に於て開催せるもの
大正元年	一一、一一二	九、八一〇	一二、五〇二	三、六七四	
同二年	一六、一四九	一三、〇三三	一五、七三一	五、一一八	
同三年	一六、五六七	一三、三四五	一五、八五四	五、二八九	
同四年	一四、八六二	一二、九三七	一四、七八七	四、六六五	
同五年	一五、三六二	一三、三五二	一五、〇六九	四、四二九	
同六年	一二、一七〇	一一、八七九	一二、〇五七	四、一一五	
同七年	一〇、〇五六	七、五三三	九、〇七七	二、四五二	
同八年	八、三三九	七、六三六	八、二六九	二、五六五	
同九年	六、八〇八	六、三七六	六、七六二	二、三七四	
同十年	六、五二二	五、〇九一	四、五七四	二、六一三	
同十一年	六、〇四三	五、二七八	五、四〇三	一、八五五	

第七 穀虫の驅除狀況

貯藏穀物に對する穀虫驅除の肝要なるは農業倉庫は勿論一般の農家も自覺するに至り穀虫の發生時期に於て之れか驅除豫防を怠らす逐年實施を増加し總て良好の成績を挙げ居れり今大正十一年以降の狀況を示せば左の如し。

穀虫驅除ノ成績

年 度	驅除倉庫棟數	驅除セシ米麥俵數	驅除セシ立方尺	使用藥品數量
大正十一年	一、二七八棟	四二九、一二二俵	五、七〇九、九四五立方尺	二硫化炭素 一九、四〇五
同 十二年	一、四八三	五七〇、五三四	四、五五六、一九一	同 三三、六三六
同 十三年	一、三三三	四九一、六二四	三、九四三、五五九	同 三三、五七一
同 十四年	一、四五八	五七二、二五四	四、〇四八、二二六	二硫化炭素 三三、一六〇
昭和元年	一、七五六	四五四、七八三	五、七〇五、三四六	二硫化炭素 三四、五一二
同 二年	一、四三二	五二九、〇九〇	五、五八七、九四七	二硫化炭素 二四、三三三
同 三年	一、六五〇	五三二、五九八	五、八二五、二九八	二硫化炭素 三九、九四五
同 四年	一、六四四	五〇六、六六六	六、三三三、二二二	二硫化炭素 二九、九八〇
同 五年	一、六九三	五一八、六一八	七、一〇五、九一八	二硫化炭素 二七、九八八
同 六年	一、七七八	六一〇、一八三	八、二二〇、五一八	二硫化炭素 二六、七三六 コロルピクリン 一〇、七四六 コロルピクリン 一〇、七四六 コロルピクリン 一〇、七四六

第四編 検査の統一

検査の統一

検査程度の統一は實に其の生命たれば常に周密なる監督指導を怠らす一面検査員に對して研究と練習を爲さしめ技術の向上を圖り以て統一を期するにありと雖も尙以下各項の施設方法に依り一層完璧を期したり。

第一 標準米麥の査定及配付

検査標準米麥は検査程度の指針として最も重要なものたるは今更多言を要せざる所なり。從來本縣に在りては米麥とも其生産當初に於て各方面の關係者の會同を求め、多數の候補品中より之れら選定し居たりしも、時代の推移は之れか選定に關し益々慎重精査の切實を要し、昭和四年査定規則を制定して之れに基き査定を行ふこととせり。而して毎年之れを検査關係職員始め各府縣各市場及穀物關係方面等へ配付して検査の統一に資すると共に、取引上又は學術研究上等の参考に供したり。

第二 協議會研究會の開催

検査程度の打合及検査の準備其他研究練習のため關係職員の協議會又は研究會を開催して検査事業の遂行に努めたり。今検査開始以來の狀況を示せば左表の如し。

研究會及協議會の成績

年次	研究會		協議會	
	開催回数	開催延日数	開催回数	開催延日数
明治四十年	三	三	一	一
同四十一年	三	三	一	一
同四十二年	四	四	一	一
同四十三年	三	三	一	一
同四十四年	四	四	一	一
同四十五年	四	四	一	一
大正元年	三	三	一	一
同二年	四	四	一	一
同三年	三	三	一	一
同四年	三	三	一	一
同五年	四	四	一	一
同六年	三	三	一	一
同七年	五	五	一	一
同八年	二	二	一	一
同九年	三	三	一	一
同十年	四	四	一	一
同十一年	四	四	一	一
同十二年	四	四	一	一
同十三年	四	四	一	一
同十四年	四	四	一	一
同十五年	四	四	一	一
昭和元年	四	四	一	一
同二年	四	四	一	一
同三年	四	四	一	一
同四年	四	四	一	一
同五年	四	四	一	一
同六年	四	四	一	一
同七年	四	四	一	一
同八年	四	四	一	一
同九年	四	四	一	一
同十年	四	四	一	一
同十一年	四	四	一	一
同十二年	四	四	一	一
同十三年	四	四	一	一
同十四年	四	四	一	一
同十五年	四	四	一	一
同十六年	四	四	一	一
同十七年	四	四	一	一
同十八年	四	四	一	一
同十九年	四	四	一	一
同二十年	四	四	一	一
同二十一年	四	四	一	一
同二十二年	四	四	一	一
同二十三年	四	四	一	一
同二十四年	四	四	一	一
同二十五年	四	四	一	一
同二十六年	四	四	一	一
同二十七年	四	四	一	一
同二十八年	四	四	一	一
同二十九年	四	四	一	一
同三十年	四	四	一	一

同十三年	四六	四六	五九九	二〇	二〇	五六五
同十四年	五八	五八	八九四	一九	一九	五九八
同十五年	六四	六四	一一〇	一七	一七	六三四
昭和元年	八二	八二	一四七	一五	一五	五三三
同二年	一〇一	一〇一	一六二	二七	二七	七七三
同三年	一一五	一一五	一九六	二二	二二	六二九
同四年	一二七	一二七	一九六	二〇	二〇	六三三
同五年	一二六	一二六	一六八	二〇	二〇	六二〇

第三 穀物鑑定會の開設

穀物鑑定會は毎年米麥の検査最盛期には毎週一回は定會とし尙臨時に開設して技術上研究を要し、又検査上疑問に涉るものは努めて之れを提出せしめて其決定を與ふるにあれば検査程度の統一上連絡を保ち且検査は圓滿に進行するを以て之れが利益を増加を示し統一機關の中樞たり。今明治四十一年以來其狀況を示せば左の如し。

所名	年度	開催回数	開催延日数	出席延人員
大川郡出張所	明治四十一年	三	三	一六
同	同四十二年	三	三	一六
同	同四十三年	三	三	一六
同	同四十四年	三	三	一六
同	同四十五年	三	三	一六
同	大正元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同六年	三	三	一六
同	同七年	三	三	一六
同	同八年	三	三	一六
同	同九年	三	三	一六
同	同十年	三	三	一六
同	同十一年	三	三	一六
同	同十二年	三	三	一六
同	同十三年	三	三	一六
同	同十四年	三	三	一六
同	同十五年	三	三	一六
同	昭和元年	三	三	一六
同	同二年	三	三	一六
同	同三年	三	三	一六
同	同四年	三	三	一六
同	同五年	三	三	一六
同	同			

總歌郡出張所	仲多度郡出張所	三豐郡出張所	高松穀物輸出検査所	丸船穀物輸出検査所	計
二七	一〇五	二〇八	二五	五	九四
一八	一〇	一〇	九	一	四八
三六	一三	一七	二一	一	七六
三三	一五	二〇	二四	一	九三
三六	一八	二四	二八	一	一〇七
三九	二一	二八	三一	一	一二〇
四二	二四	三二	三六	一	一三五
四五	二七	三六	四〇	一	一五〇
四八	三〇	四〇	四四	一	一六三
五一	三三	四四	四八	一	一七六
五四	三六	四八	五二	一	一八九
五七	三九	五二	五六	一	二〇二
六〇	四二	五六	六〇	一	二一五
六三	四五	五九	六三	一	二二八
六六	四八	六三	六七	一	二四一
六九	五一	六六	七〇	一	二五四
七二	五四	七〇	七四	一	二六七
七五	五七	七三	七七	一	二八〇
七八	六〇	七六	八〇	一	二九三
八一	六三	七九	八三	一	三〇六
八四	六六	八二	八六	一	三一九
八七	六九	八五	八九	一	三三二
九〇	七二	八八	九二	一	三四五
九三	七五	九一	九五	一	三五八
九六	七八	九四	九八	一	三七一
九九	八一	九七	一〇一	一	三八四
一〇二	八四	一〇〇	一〇四	一	三九七
一〇五	八七	一〇三	一〇七	一	四一〇
一〇八	九〇	一〇六	一一〇	一	四二三
一一一	九三	一〇九	一一三	一	四三六
一一四	九六	一一二	一一六	一	四四九
一一七	九九	一一五	一二〇	一	四六二
一二〇	一〇二	一二八	一二四	一	四七五
一二三	一〇五	一二一	一二五	一	四八八
一二六	一〇八	一二四	一二八	一	五〇一
一二九	一一一	一二七	一三二	一	五一四
一三二	一一四	一三〇	一三六	一	五二七
一三五	一一七	一三三	一四〇	一	五四〇
一三八	一二〇	一三六	一四四	一	五五三
一四一	一二三	一三九	一四八	一	五六六
一四四	一二六	一四二	一五二	一	五七九
一四七	一二九	一四五	一五六	一	五九二
一五〇	一三二	一四八	一六〇	一	六〇五
一五三	一三五	一五一	一六四	一	六一八
一五六	一三八	一四四	一六八	一	六三一
一五九	一四一	一四七	一七二	一	六二四
一六二	一四四	一五〇	一七六	一	六三七
一六五	一四七	一五三	一八〇	一	六五〇
一六八	一五〇	一五六	一八四	一	六六三
一七一	一五三	一五九	一八八	一	六七六
一七四	一五六	一六二	一九二	一	六八九
一七七	一五九	一六五	一九六	一	七〇二
一八〇	一六二	一六八	二〇〇	一	七一五
一八三	一六五	一七一	二〇四	一	七二八
一八六	一六八	一七四	二〇八	一	七四一
一八九	一七一	一七七	二一二	一	七五四
一九二	一七四	一八〇	二一六	一	七六七
一九五	一七七	一八三	二二〇	一	七八〇
一九八	一八〇	一八六	二二四	一	七九三
二〇一	一八三	一九〇	二二八	一	八〇六
二〇四	一八六	一九三	二三二	一	八一九
二〇七	一八九	一九六	二三六	一	八三二
二一〇	一九二	二〇〇	二四〇	一	八四五
二一三	一九五	二〇三	二四四	一	八五八
二一六	一九八	二〇六	二四八	一	八七一
二一九	二〇一	二〇九	二五二	一	八八四
二二二	二〇四	二一二	二五六	一	八九七
二二五	二〇七	二一五	二六〇	一	九一〇
二二八	二一〇	二一八	二六四	一	九二三
二三一	二一三	二二一	二六八	一	九三六
二三四	二一六	二二四	二七二	一	九四九
二三七	二一九	二二七	二七六	一	九六二
二四〇	二二二	二三〇	二八〇	一	九七五
二四三	二二五	二三三	二八四	一	九八八
二四六	二二八	二三六	二八八	一	一〇〇一
二四九	二三一	二三九	二九二	一	一〇一四
二五二	二三四	二四二	二九六	一	一〇二七
二五五	二三七	二四五	三〇〇	一	一〇四〇
二五八	二四〇	二四八	三〇四	一	一〇五三
二六一	二四三	二五一	三〇八	一	一〇六六
二六四	二四六	二五四	三一二	一	一〇七九
二六七	二四九	二五七	三一六	一	一〇九二
二七〇	二五二	二六〇	三二〇	一	一〇〇五
二七三	二五五	二六三	三二四	一	一〇一八
二七六	二五八	二六六	三二八	一	一〇三一
二七九	二六一	二六九	三三二	一	一〇二四
二八二	二六四	二七二	三三六	一	一〇三七
二八五	二六七	二七五	三四〇	一	一〇四〇
二八八	二七〇	二七八	三四四	一	一〇五三
二九一	二七三	二八一	三四八	一	一〇六六
二九四	二七六	二八四	三五二	一	一〇七九
二九七	二七九	二八七	三五六	一	一〇九二
三〇〇	二八二	二九〇	三六〇	一	一〇〇五
三〇三	二八五	二九三	三六四	一	一〇一八
三〇六	二八八	二九六	三六八	一	一〇三一
三〇九	二九一	二九九	三七二	一	一〇二四
三一二	二九四	三〇二	三七六	一	一〇三七
三一五	二九七	三〇五	三八〇	一	一〇四〇
三一八	三〇〇	三〇八	三八四	一	一〇五三
三二一	三〇三	三一〇	三八八	一	一〇六六
三二四	三〇六	三一三	三九二	一	一〇七九
三二七	三〇九	三一六	三九六	一	一〇九二
三三〇	三一二	三一九	四〇〇	一	一〇〇五
三三三	三一五	三二二	四〇四	一	一〇一八
三三六	三一八	三二五	四〇八	一	一〇三一
三三九	三二一	三二八	四一二	一	一〇二四
三四二	三二四	三三一	四一六	一	一〇三七
三四五	三二七	三三四	四二〇	一	一〇四〇
三四八	三三〇	三三七	四二四	一	一〇五三
三五一	三三三	三四〇	四二八	一	一〇六六
三五四	三三六	三四三	四三二	一	一〇七九
三五七	三三九	三四六	四三六	一	一〇九二
三六〇	三四二	三四九	四四〇	一	一〇〇五
三六三	三四五	三五二	四四四	一	一〇一八
三六六	三四八	三五五	四四八	一	一〇三一
三六九	三五一	三五八	四五二	一	一〇二四
三七二	三五四	三六一	四五六	一	一〇三七
三七五	三五七	三六四	四六〇	一	一〇四〇
三七八	三六〇	三六七	四六四	一	一〇五三
三八一	三六三	三七〇	四六八	一	一〇六六
三八四	三六六	三七三	四七二	一	一〇七九
三八七	三六九	三七六	四七六	一	一〇九二
三九〇	三七二	三七八	四八〇	一	一〇〇五
三九三	三七五	三八一	四八四	一	一〇一八
三九六	三七八	三八四	四八八	一	一〇三一
三九九	三八一	三八七	四九二	一	一〇二四
四〇二	三八四	三九〇	四九六	一	一〇三七
四〇五	三八七	三九三	五〇〇	一	一〇四〇
四〇八	三九〇	三九六	五〇四	一	一〇五三
四一一	三九三	三九九	五〇八	一	一〇六六
四一四	三九六	四〇二	五一二	一	一〇七九
四一七	三九九	四〇五	五一六	一	一〇九二
四二〇	四〇二	四〇八	五二〇	一	一〇〇五
四二三	四〇五	四一一	五二四	一	一〇一八
四二六	四〇八	四一四	五二八	一	一〇三一
四二九	四一一	四一七	五三二	一	一〇二四
四三二	四一四	四二〇	五三六	一	一〇三七
四三五	四一七	四二三	五四〇	一	一〇四〇
四三八	四二〇	四二六	五四四	一	一〇五三
四四一	四二三	四二九	五四八	一	一〇六六
四四四	四二六	四三二	五五二	一	一〇七九
四四七	四二九	四三五	五五六	一	一〇九二
四五〇	四三二	四三八	五六〇	一	一〇〇五
四五三	四三五	四四一	五六四	一	一〇一八
四五六	四三八	四四四	五六八	一	一〇三一
四五九	四四一	四四七	五七二	一	一〇二四
四六二	四四四	四五〇	五七六	一	一〇三七
四六五	四四七	四五三	五八〇	一	一〇四〇
四六八	四五〇	四五六	五八四	一	一〇五三
四七一	四五三	四五九	五八八	一	一〇六六
四七四	四五六	四六二	五九二	一	一〇七九
四七七	四五九	四六五	五九六	一	一〇九二
四八〇	四六二	四六八	六〇〇	一	一〇〇五
四八三	四六五	四七一	六〇四	一	一〇一八
四八六	四六八	四七四	六〇八	一	一〇三一
四八九	四七一	四七七	六一二	一	一〇二四
四九二	四七四	四八〇	六一六	一	一〇三七
四九五	四七七	四八三	六二〇	一	一〇四〇
四九八	四八〇	四八六	六二四	一	一〇五三
五〇一	四八三	四八九	六二八	一	一〇六六
五〇四	四八六	四九二	六三二	一	一〇七九
五〇七	四八九	四九五	六三六	一	一〇九二
五一〇	四九二	四九八	六四〇	一	一〇〇五
五一三	四九五	五〇一	六四四	一	一〇一八
五一六	四九八	五〇四	六四八	一	一〇三一
五一九	五〇一	五〇七	六五二	一	一〇二四
五二二	五〇四	五一〇	六五六	一	一〇三七
五二五	五〇七	五一三	六六〇	一	一〇四〇
五二八	五一〇	五一六	六六四	一	一〇五三
五三一	五一三	五一九	六六八	一	一〇六六
五三四	五一六	五二二	六七二	一	一〇七九
五三七	五一九	五二五	六七六	一	一〇九二
五四〇	五二二	五二八	六八〇	一	一〇〇五
五四三	五二五	五三一	六八四	一	一〇一八
五四六	五二八	五三四	六八八	一	一〇三一
五四九	五三一	五三七	六九二	一	一〇二四
五五二	五二四	五四〇	六九六	一	一〇三七
五五五	五二七	五四三	七〇〇	一	一〇四〇
五五八	五三〇	五四六	七〇四	一	一〇五三
五六一	五三三	五四九	七〇八	一	一〇六六
五六四	五三六	五五二	七一二	一	一〇七九
五六七	五三九	五五五	七一六	一	一〇九二
五七〇	五四二	五五八	七二〇	一	一〇〇五
五七三	五四五	五六一	七二四	一	一〇一八
五七六	五四八	五六四	七二八	一	一〇三一
五七九	五五一	五六七	七三二	一	一〇二四
五八二	五五四	五七〇	七三六	一	一〇三七
五八五	五五七	五七三	七四〇	一	一〇四〇
五八八	五六〇	五七六	七四四	一	一〇五三
五九一	五六三	五七九	七四八	一	一〇六六
五九四	五六六	五八二	七五二	一	一〇七九
五九七	五六九	五八五	七五六	一	一〇九二
六〇〇	五七二	五八八	七六〇	一	一〇〇五
六〇三	五七五	五九一	七六四	一	一〇一八
六〇六	五七八	五九四	七六八	一	一〇三一
六〇九	五八一	五九七	七七二	一	一〇二四
六一二	五八四	六〇〇	七七六	一	一〇三七
六一五	五八七	六〇三	七八〇	一	一〇四〇
六一八	五九〇	六〇六	七八四	一	一〇五三
六二一	五九三	六〇九	七八八	一	一〇六六
六二四	五九六	六一二	七九二	一	一〇七九
六二七	五九九	六一五	七九六	一	一〇九二
六三〇	六〇二	六一八	八〇〇	一	一〇〇五
六三三	六〇五	六二一	八〇四	一	一〇一八
六三六	六〇八	六二四	八〇八	一	一〇三一
六三九	六一一	六二七	八一二	一	一〇二四
六四二	六一四	六三〇	八一六	一	一〇三七
六四五	六一七	六三三	八二〇	一	一〇四〇
六四八	六二〇	六三六	八二四	一	一〇五三
六五一	六二三	六三九	八二八	一	一〇六六
六五四	六二六	六四二	八三二	一	一〇七九
六五七	六二九	六四五	八三六	一	一〇九二
六六〇	六三二	六四八	八四〇	一	一〇〇五
六六三	六三五	六五一	八四四	一	一〇一八
六六六	六三八	六五四	八四八	一	一〇三一
六六九	六四一	六五八	八五二	一	一〇二四
六七二	六四四	六六一	八五六	一	一〇三七
六七五	六四七	六六四	八六〇	一	一〇四〇
六七八	六五〇	六六七	八六四	一	一〇五三
六八一	六五三	六七〇	八六八	一	一〇六六
六八四	六五六	六七三	八七二	一	一〇七九
六八七	六五九	六七六	八七六	一	一〇九二
六九〇	六六二	六七九	八八〇	一	一〇〇五
六九三	六六五	六八二	八八四	一	一〇一八
六九六	六六八	六八五	八八八	一	一〇三一
六九九	六七一	六八八	八九二	一	一〇二四
七〇二	六七四	六九一	八九六	一	一〇三七
七〇五	六七七	六九四	九〇〇	一	一〇四〇
七〇八	六八〇	六九七	九〇四	一	一〇五三
七一〇	六八三	七〇〇	九〇八	一	一〇六六
七一三	六八六	七〇三	九一二	一	一〇七九
七一六	六八九	七〇六	九一六	一	一〇九二
七一九	六九二	七〇九	九二〇	一	一〇〇五
七二二	六九五	七一二	九二四	一	一〇一八
七二五	六九八	七一五	九二八	一	一〇三一
七二八	七〇一	七一八	九三二	一	一〇二四
七三一	七〇四	七二一	九三六	一	

大正十三年	一五、三九七	三三、七〇八	一〇、四二五	一三、二四四
同十四年	二八、一九六	三四、四七五	一二、六二五	一五、一四九
昭和元年	二七、〇八五	三七、八五八	一一、七二八	一五、九六九
同二年	二七、〇八五	三七、八五八	一一、七二八	一五、九六九
同三年	二七、三六三	三八、二九九	一二、三二九	一六、七〇三
同四年	三三、五六〇	四〇、四九五	一七、一八三	二一、一七三
同五年	三一、八八七	四三、七二六	一六、三九六	二一、一七三
同六年	三一、六九八	三八、六二二	一七、一三三	二〇、一六七

第五編 検査

第一米検査の成績

検査開始以來米検査に關する成績の詳細は以下各表の如し。

一、自明治四十年至昭和六年度米收穫高對生産検査高

年度別	種別	收穫高	生産検査高	生産米に對する検査歩合	備考
明治四十年		八二四、〇六三石	五四九、八四一石	六六九	

同四十一年		九〇八、五三四	六八〇、八九五	四七九	
同四十二年		九〇三、〇二七	六九九、六四八	七七五	
同四十三年		七六六、二二六	五八三、六五六	六八三	
同四十四年		八九五、〇一八	六三六、七六五	七二三	
五ヶ年平均		八五九、三七三	六三〇、一六一	七三一	
大正元年		七三三、二二六	五五三、九一七	七七五	
同二年		八八一、八三三	六五〇、五二一	七七七	
同三年		九七三、八一五	七二七、七一五	七三七	
同四年		七九四、八二四	六〇三、〇五〇	七五九	
同五年		九六四、二四八	六九九、八七九	七二六	
五ヶ年平均		八六九、五八七	六四五、〇一六	七四二	
大正六年		八五六、四九七	六二七、八九二	七三三	
同七年		八〇五、六〇一	六二二、二一五	七六〇	
同八年		九九八、二二二	七三八、〇九四	七三九	
同九年		九四九、一九二	七三二、二二四	七六一	
同十年		八六二、七九五	六四八、四六六	七五二	
五ヶ年平均		八九四、四六一	六六九、七五八	七四九	
大正十一年		九一一、四〇四	六八七、九八六	七五五	
同十二年		八七六、三九一	六七〇、三七二	七六五	
同十三年		八五三、〇二二	六四九、四九〇	七六一	
同十四年		八九九、五四八	七〇六、二四五	七九〇	

年 度	檢 査 總 數	檢 査 成 績				合 格 步 合 備 考
		甲	乙	丙	丁	
昭和元年	八七四、四五三					七六一
昭和五年平均	八八二、九六四					七六六
昭和二年	八七五、〇七六					七五七
同 三 年	八六九、〇六〇					七三五
同 四 年	八二八、四八二					七一
同 五 年	九八六、七七八					七六二
昭和六年平均	七〇四、九〇四					七二六
五ヶ年平均	八五二、八六〇					七三六

二、米生産検査成績

(單位俵)

年 度	檢 査 總 數	檢 査 成 績				合 格 步 合 備 考
		甲	乙	丙	丁	
明治四十年	一、七四、〇一〇					八四
同 四 十 一 年	一、七〇、三三三					一〇
同 四 十 二 年	一、七四、二二九					一〇
同 四 十 三 年	一、四九、四〇〇					一〇
同 四 十 四 年	一、五九、九三三					一〇
大正元年	一、六四、九七三					七〇
同 二 年	一、六六、〇〇〇					七〇
同 三 年	一、七四、六六六					八二

年 度	檢 査 總 數	檢 査 成 績				合 格 步 合 備 考
		甲	乙	丙	丁	
昭和元年	三、九元					九元
同 十 四 年	一、六元、九〇三					九元
同 十 三 年	一、七元、六三三					九元
同 十 二 年	一、七元、九七九					九元
同 十 一 年	一、七元、三九九					九元
同 十 年	一、七元、二二二					九元
同 九 年	一、八元、〇〇元					九元
同 八 年	一、八元、三三三					九元
同 七 年	一、五元、〇〇七					九元
同 六 年	一、五元、三三三					九元
同 五 年	一、七元、六六六					九元
同 四 年	一、五元、三三三					九元
同 三 年	一、五元、三三三					九元
同 二 年	一、五元、三三三					九元
同 一 年	一、五元、三三三					九元
最近五ヶ年平均	一、五元、三三三					九元

三、郡別生産検査高

(單位俵)

本年より等級制(希望)

年次	種別	検査總數	一等	二等	三等	四等	等外	不合格	一等	二等	三等	四等	等外	不合格
明治四十年	精米	九四、五九							一、六四	九、〇三	七、九六			八、八三
	立米	一〇〇、六三							一、九四	三、三〇	三、九二			三、九二
	計	一九五、二二							三、五八	一二、三三	一一、八八			一二、七五
同四十二年	精米	一〇〇、五九							四、八七	三、四七	三、四七			四、八四
	立米	一〇〇、五九							四、八七	三、四七	三、四七			四、八四
	計	二〇一、一八							九、七四	六、九四	六、九四			九、六八
同四十三年	精米	九三、七四							一〇、九六	二、〇三	二、〇三			一〇、九六
	立米	九三、七四							一〇、九六	二、〇三	二、〇三			一〇、九六
	計	一八七、四八							二一、九二	四、〇六	四、〇六			二一、九八
同四十四年	精米	七、七五							一、三三	三、八四	三、八四			一、三三
	立米	七、七五							一、三三	三、八四	三、八四			一、三三
	計	一五、五〇							二、六六	七、六八	七、六八			二、六六
同四十五年	精米	三〇、〇六							一、五三	三、七四	三、七四			一、五三
	立米	三〇、〇六							一、五三	三、七四	三、七四			一、五三
	計	六〇、一二							三、〇六	七、四八	七、四八			三、〇六
大正二年	精米	三〇、〇六							一、五三	三、七四	三、七四			一、五三
	立米	三〇、〇六							一、五三	三、七四	三、七四			一、五三
	計	六〇、一二							三、〇六	七、四八	七、四八			三、〇六

備考 昭和六年産米の移出高にありては新米當時より昭和七年三月までの數なり

五、米移出米検査成績 (自明治四十年至昭和六年二十五年間) 單位 俵 ×印 斗入袋

年次	種別	検査總數	大	小
同六年	精米	八五六、四九七	三三三、四三九	三六六
同七年	精米	八〇五、六〇一	二九七、六七五	三六九
同八年	精米	九九八、二二二	三三八、〇一九	三三九
同九年	精米	九四九、一九二	三四三、四九二	三六二
同十年	精米	八六二、七九五	三二〇、六三一	三六〇
同十一年	精米	九一、四〇四	二九六、四八〇	三三五
同十二年	精米	八七六、三九一	三二五、九二〇	三七〇
同十三年	精米	八五三、〇二二	二六五、〇四八	三三一
同十四年	精米	八九九、五四八	二九八、二二五	三三二
昭和元年	精米	八七四、四五三	二〇四、六五五	二七五
同二年	精米	八七五、〇七六	二三九、六五〇	二七四
同三年	精米	八六九、〇六〇	二六〇、〇四九	二九九
同四年	精米	八二八、四八四	一八八、〇四五	一三〇
同五年	精米	九八六、七七八	二八三、〇五四	一八八
同六年	精米	七〇四、九〇四	二五、八四六	〇三七

